# 歌和56年8月 豪雨、最風心記錄

昭和56年8月3日より6日にかけての前線と 台風12号による大雨及び台風15号による災害

美族町



# 発刊にあたって



## 美瑛町長 安藤友之輔

在住の古老に聴いても『こんな大雨は知らない』『こんな台風は、先の15号台風以来だ』 という。

辛酉の年は60年ごとに回って来るわけだが、紀元9世紀ごろからの日本歴史に、この辛酉の年に改元された例がたくさん見られるのは、何か大きな天変地変か、悪霊悪疫があったに違いないからと思う。それだけに年頭の広報紙にも、「ことしは大過なくすごしたいものだ」とご挨拶をしたと記憶している。

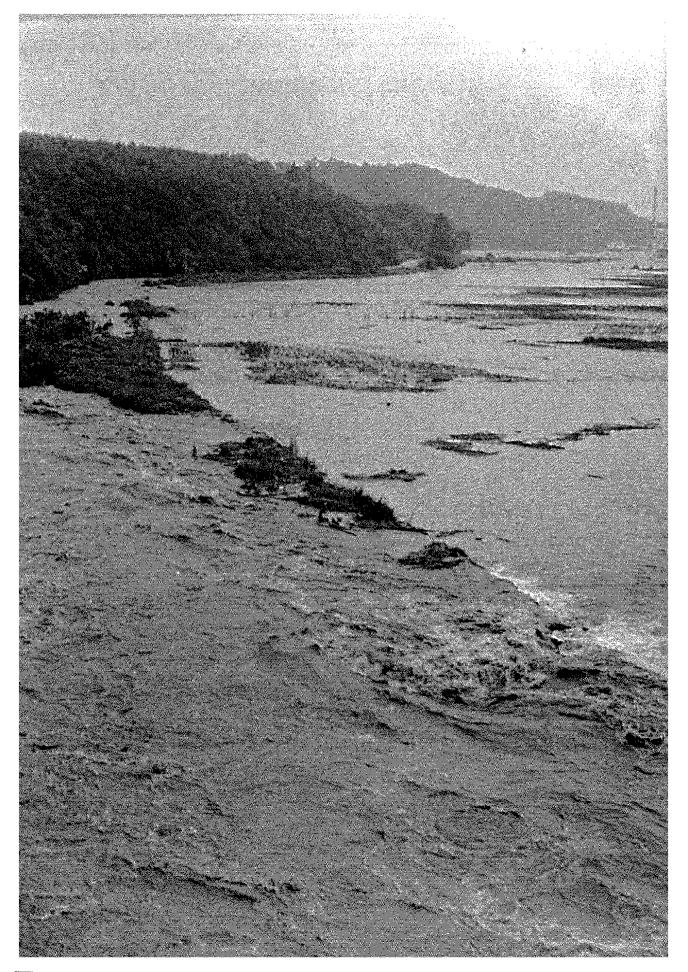
私には一つの『つき』があって、少年時代の東京大震災の2日前に山形に帰ったり、戦時中は初年兵の張鼓峰事件から、ルソン島の大激戦の最中にも、たびたびこの『つき』に見舞われて、前後の船団が殆んど全滅したのに、我が船団は無疵で上陸したり、中食を全員で20メートルほど離れた小屋でやっている最中に、追撃砲で機銃座が吹き飛んでいたり、で、こんなことがたびたび重なると何と無く気にかかるもので、町長になってからも、いつも『私が長期間不在にする時は、充分気をつけてほしい』と、ことさらに注意するようにしてきた。

しかし、天災はそんなことに関係なく来るものであり、今回の豪雨は上京中に、台風は 北欧旅行中にと、留守中の収入役、助役は本部長として昼夜にわたって努力され、最も心 配された人身事故もなく、応急措置がとられたことに敬意を表します。

また、その後の調査・測量・設計と上部機関との交渉、数度にわたる査定官との交渉など、深夜に及ぶ各課長以下の職員各位に対しても、衷心より感謝致している。また現地では、各地区の町民各位が卒先、防災に協力され、危険を侵しての臨機の処置にけんめいの努力を賜ったことも、肝に銘じているしだいです。

このたびの、災害の模様をできるだけ詳細に記録して、後世に資したいと存じ、庁内に 松井局長を長として、この一冊を編纂したしだいですが、ご参考になれば幸甚の至りであ ります。

昭和57年3月1日







激しい連続降雨は、全町の河川増水をもたらし各地で 氾濫した。宇英別川では5日8時30分(現地談)、下字第 5地区から浸水しだし、遊卷く獨流は同地域50万㎡の半 分以上が、下字金域では農地・家屋・道路等実に107万 ㎡の面積が泥水に侵された。対策本部は11時44分地域に 避難命令を発し、人命の安全を確保した。「こんな大雨 は、はじめて」の経験だった(現地談)。同地区にあるご み焼却場 (白樺センター) では地下施設部門の排水、排泥作業に手間がかかり、5日間操業を中止した。一写真 左は濁流の第5地区、5日16時30分写す。上は6日日時 50分現在の同地区。右手の建物は白樺センターー

下は、自衛隊のけんめいな洪水応急作業。土のう1,000 袋を投入し、200mの仮規を構築して、民家10数軒の流 失を防止した。一美珠川花園 5 丁目、5 日18時写す一

昭和56年8月3日より6日にかけての前線と 台風12号及び台風15号による災害

(ページ)

縁もくじ参 (ページ) 響序 文…発刊にあたって美質可長 安藤友之輔…1 一給水支援一 」, 災害派遣の要請……(36) ◎ 災害原因と名称………………… 8~9 2. 出動まで……(36~37) 1. 災害の名称………(8) 3. 給水活動……(37~40) 2. 災害の原因………(8~9) 響被害の状況と対応策……41~57 (1)8月前線と台風12号による災害…8 1. 被審報告……(41~45) (2)台風15号による災害…9 2.被害の概況と対応策……(46~53) **霉気 象 状 況……………10~27** (1)市街地…46 (4)字英別川…52 1.8月前線と台風12号……(10~17) (2)美瑛川…46 (5)その他の河川…53 2. 台風 15 号………(1~17) (3)辺別川…48 3. 警報等の発令状況……(18) 3. 住宅·飲料水等の被害と対策·(54-55) 4. 降雨・出水の状況……(19~27) (1)住宅等の被害…54 (3)その他の建物…55 **差災害対策の組織と活動状況……28~30** (2)被害の対策……54 (4)災害見舞等……55 」. 災害対策本部の設置………(28) 4. 警察・消防・病院の対応…(55~57) 2. 主なる活動と記録……(28~29) (1)美瑛町立病院…55 3. 本部廃止後の町の対応……(29-30) (2)美瑛消防署及び美瑛消防団…55 4. 交通 対策………(30) (3)旭川警察署美瑛警察官派出所…57 郷陸上自衛隊の救援活動………31~40 ◎予算措置と応急対策の機械・労力等……58~61 一防災活動一 1、予算措置……(58~59) 1. 災害派遣の要請………(31) 2. 応急対策の機械・労力等…(59-61) 2. 上窗良野駐とん部隊の動き……(31) (1)一般災害対策…59 (3)道の対策…60 3. 第 120 特科大隊の出動……(31~36) (2)現場災害対策…60 (4)国の対策…60 (1)出動まで…31 ◎水道の被災と給水及び復旧状況……62~67 (2)出動及び防災活動…32 1、美瑛町水道事業………(62~64) ア.第2中隊の下宇莫別における活動…32 (1)被災の状況…62 イ大隊主力の進出…32 (2)給水の対策…62 ウ第1中隊の緑橋下流(花園)における (3)災害復旧仮設工事…63 活動…32 (4)厚生省の災害査定と災害復旧工事…63

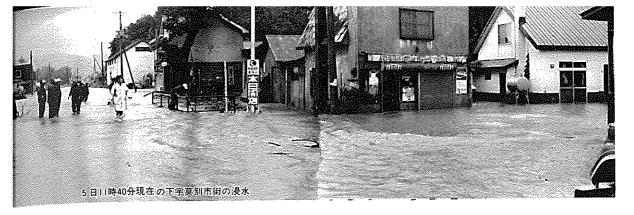
2. 平和簡易水道事業………(64~66)

配水管の被害と応急工事…64

(1)美馬牛新柴地区

工第2中隊・第3中隊の姜沢9線及び

美沢19線における活動…33



(ページ)	(ページ)
(2)妙見水道取水施設の被災…64	4. 美瑛町農業協同組合(90)
(3)清富地区送水管の被害と応急工事…64	圖農林業被害と対応策⋯⋯⋯⋯⋯91~100
(4)平和簡易水道取水施設の被害…66	Ⅰ.被害の調査(91)
(5)農林水産省の災害査定…66	2.被害の報告(92)
(6)災害復旧工事の実施状況…66	3. 対 応 策(92)
(7)予算措置…66	4 . 被害の実態(92~97)
3. 白金簡易水道事業(66~67)	5. 資金及び共済金(98~99)
4. 給水の状況(67)	(1)資金手当…98 (2)農業共済金…99・100
■ 災害復旧対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6. 治山・林道関係(99)
. 農地·農業施設災害復旧事業····(68~71)	■台風15号の被害と対策101~118
(1)農林水産省の災害査定…68	Ⅰ.被害報告(101~105)
(2)災害関連事業…71	2 . 森林被害と対策( 05~1 0)
(3)災害復旧工事の実施状況…71	(1)調査・試験…105 (4)災害の査定・補助率…108
2. 公共土木施設災害復旧事業…(72~73)	(2)実質的被害…106 (5)災害復旧と森林保険…109
(1)建設省の災害査定…72	(3)国の助成及び (6)町有林の復旧計画・・110
(2)査定に漏れたものの今後の措置…72	採択基準…108 (7)国有林の被害…110
(3)災害復旧工事の実施状況…72	3. 農業被害と対応策(110~118)
3. 町単独災害復旧工事の概要(73)	(1)被害の調査 (3)置杵牛上精美中央
4. 国費関係災害復旧工事(73~74)	及び報告…110 の被害…115
(1)被害の状況…73 (2)復旧の状況…74	(2)対応策…115 (4)その他の被害と
5. 道費関係災害復旧工事(74~75)	対策…118
6. 道實下宇莫別地区宇莫別川災害復	鬱激甚災害法の適用・・・・・・・ 119
旧助成事業(75~76)	◎町議会における対応⋯⋯⋯⋯119~120
(1)事業申請の経過…75 (3)実施の状況…76	◎ 災害見舞金等の受納・・・・・・・・ 121
(2)事業成立とその概要…76	▒ 災害に関する新聞報道等121~123
■ 各種団体による災害復旧と対策87~90	,
. 美瑛土地改良区(87)	<b>☞ グラビア…2~3,124~132</b>
2. 西神楽土地改良区(87)	■表 題 字
3. 聖台土地改良区(88)	美瑛町長 安藤友之輔

# 災害のあらまし

▼下宇市街で「避難」を広報する消 防署員(8月5日11時50分写)





▲エキゾチックな旅情を漂わせる白樺も、 8月23日14時ごろ無惨に、倒れた。

昭和56年の8月は長雨豪雨と台風によりかってない災害を受け、町は対策本部を設け町内外各関係機関・団体・自衛隊のご協力とご支援を受け応急対策、復旧対策にあたり被害を最小限度にとどめ、大事に至らなかったことは不幸中の幸いであった。

被害は全町的に多岐にわたるが、豪雨水害については、土木施設・農地・農業施設及び水道の被災が大きかった。

当初の被害報告によれば住宅の浸水45世帯・農 地40ha・農作物被害1,080ha・土木施設233 カ所・ 農業施設等45 カ所・計278 カ所の被害で、被害金額 32億6,100万円にのぼった。

住宅等の被害は破壊されたものはなく、一時避難して水の引いた後にそれぞれ自力と関係者の協力により跡整理等を行い町で消毒・し尿汲取りをし、特別の対策は要しなかった。

農業被害のうち農地の被害については、特に被害の激しかった2ヵ所6.34haを補助事業で復旧しその他は土地流失等で復旧困難又は流入上砂の排除を自力で行わざるを得ない。農地災害として取扱われた平和簡易水道の3ヵ所は昭和56年度で復旧した。農作物の被害は、その程度を調査するこ

とは非常に困難であり一時的な異状気象よりも長期の各種条件付により左右されるため被害を特定することは難しく、最終的には収穫後の出荷状況とその時期における経済状勢によらなければ判明しないがこれとても実体をつかむことは困難である。

結果的には作目によっては、相当程度の減収は あったが価格その他資金、共済金手当の状況から 農業者個々、或は地域によって格差は生じたが、 全体的には大きな影響はなかったと判断される。

土木施設等は国が復旧率を5:3:2の3ヵ年とし激甚災害法を適用したため高率の補助となり復旧は著しく進んだが、その状況は別表のとおりで、町(団体営を含む)被害金額(査定額)73ヵ所11億2,064万9千円に対し、復旧金額(査定額)41ヵ所5億5,001万7千円でその復旧率は49.1%に達し、町と道・国を合せると被害金額飼140ヵ所32億777万1千円に対して復旧金額飼70ヵ所14億7,648万9千円となり、その復旧率は46%となるが、字英別川災害助成事業費を合せると58.6%の復旧となる。補助対象とならぬものは町単独費及び町有重機で復旧した。

8月5日の水害と8月7、8日の水道断水被害 については陸上自衛隊上富良野駐とん地第4特科

管理区分	施設区分	被害箇所数	被害金額 千円	復旧箇所数	復旧金額	復旧率%	摘 要
1 施設	河川	10	435,655	9	391,926	90	
道施 設	河川	52	1,580,217				
B 32	道路	5	71,250				助成事業を含む復旧金額
	計	57	1,651,467	20	534,542	32.4	937,872千円 復旧率 56.8%
町 土 木 施 設	河川	20	370,072				
-,	道路	19	234,285				
	計	39	604,357	22	304,206	50.3	
農地、農業施設	道路	5	33,318				
200	橋梁	5	57,167	ļ <u>.</u>			(( et all let 1 A 1)
	水 路	16	145,219				災害関連を含む
	五首正	2	259,795				分割復旧
	農地	5	17,923			İ	5ヵ所のうち3ヵ所は水道
	計	33	513,422	18	242,941	47.3	2ヵ所分割復旧を含む
水道施設	Speciment Contractor	I	2,870	1	2,870		
		140	3,207,771	70	1,476,489	46.0	
合 計					(1,879,815)	58.6	復旧に助成事業を含む

(註) 被害・復旧とも金額は査定金額とす。

群第120特科大隊の災害派遣を要請し、延297名の隊員が防災活動・給水支援にあたり、3日間にわたる作業に予期以上の援助を受け深く感謝いたすところであります。また給水には旭川市、上富良野町、美瑛町内自家水所有者の厚志により、水の無償提供を受けました。

台風15号の被害についても町内各関係機関のご協力を受け対処いたしましたがその被害は住宅の一部破損19世帯・農作物被害 602ha・文教施設その他7ヵ所・農業施設 120ヵ所・森林 1,077ha、被害金額5億1,000万円が災害発生時の被害状況で、ほかに軽傷者2名を出した。

8月23日の午後より、強風のなかに突風を交え た暴風となり全町的に被害を受けたが特に十勝岳 寄りの山ろく地帯、俵真布・中・上宇真別、置杵 牛上精美より奥地、美沢・妙見方面が激しかった。 町内の観測はないが旭川空港では瞬間風速41.5 m が記録され本町においても場所によってはこれと 同等又は以上であったと思われ、森林の被害が大 きかった。

被害の対策については建物施設等は管理者、所有者が自力又は関係者の援助を受けて復旧し制度的資金、或は補助等は必要としなかった。

森林被害は、カラ松が主ではじめての被害のた

めその対策にとまどったが、研究機関の調査指導 を受け、被害の調査と対策を実施した。この災害も 激甚法の適用となり、一定の被害に対して国と道 より3分の2が助成されることになった。

これにより国が査定を行い、特に被害の激しかった約200haの団地に対して1億1,142万1千円の事業費が認められ4ヵ年で復旧することになり、昭和56年度では倒木起し約30haが実施された。町有林もこのなかで復旧する。

その他の森林被害の復旧は、道単独(国と同じ) 補助で行うもの、補助対象とならぬものは所有者 自身が状態に応じて自力で措置することになるが、 各自の事情もあり施業の見通しがつかない。

町有林の被害は 190ha であるが、昭和56・57年 の2ヵ年で復旧施業する。

農業被害は、主に豆類・野菜・酪農であったが、水害の農作と同様に被害を特定することは困難で、 俵真布における大根、置杵牛方面の施設裁培のトマト・キュウリの減収又は放棄、停電のため出荷 時間にまにあわなかった放棄乳が実質被害であり、 その他減収被害はあったが、金額的には確認できない。

この2つの災害で、税の減免・民生上の措置を 望む申請はなく福祉的対策も特に必要としなかった。

# 災害原因と名称

#### 1. 災害の名称

災害には名称が冠せられるが、この度の大災害については諸種の名が付けられて定かでない。 道の文書等によると「昭和56年8月3日より6日にかけての前線と台風12号による大繭及び台風12号による災害」が正しく、その他はこれを略称しているようである。以下本記録では8月前線と台風12号・台風15号による災害という。

#### 2. 災害の原因

#### 8月前線と台風12号による災害

今回のような大災害は極めて稀である。古老の話しによると、美瑛・置杵牛・宇茣別・朗根内・の各沢においても大水害はあったが、当時は河川の流れが一定でなく乱流の状態であり、また立木が多くこれが倒れて流木障害をおこす等若干の雨でも洪水となった。また上流で木枠の堰を作り貯水貯木してこれを切り木材の流送をしたが、これらの施設が予期せぬ降雨で欠壊し水害の原因となった。

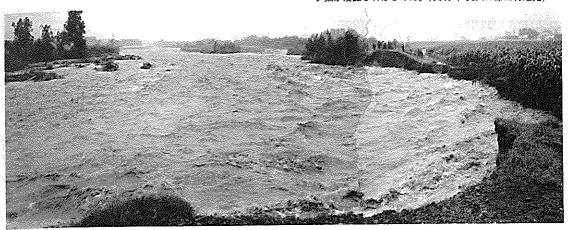
また戦前・戦中・戦後を通じても集中衰雨による地域的な被害、或は公共施設等の未整備が起因するもの等の災害は幾多発生しているが、いずれの場合でもこの度のような豪雨と大出水の経験は無いと競きを示している。

近年の大雨資料に基づく本町の記録は次のとおりであるが、局地的集中豪雨は別としても過去における記録は昭和50年8月22~23日の159.3mmが最大で、旭川地方気象台の最高記録は、昭和30年8月17・18日の、旭川における 217mmであった。

年最大日雨量順位 北海道開発局大雨資料による (S38~S56)

F						潮地名…聖台
順位	雨 量	年月	В	類位	雨量	年月日
		昭50・	8 - 21			昭48・10・12
	29.1		22	0	67.2	13
0	30.2		23		2.3	14
	****		24			15
		昭37	7 • 27		_	昭50・7・!5
	1.2		28		9.1	15
	5.1		29	0	66.3	17
	25.2		30		<b>3</b>	18
	61.2		31			昭43・9・27
	5.6		8 • 1		2.4	28
	16.3		2		8.7	29
0	92.3		3	0	63.7	30
***			4			31
		昭41・1	8 • 15			昭44・9・24
	22.3		16	<b>(D</b>	61.2	25
	27.5		17		3.6	26
	14.3		81		3.2	27
0	92.0		j9		2.3	28
	15.2		20		1,2	29
			21			30
		昭56・	3 · 2		**	昭54・8・26
	44.1		3		2.5	27
0	73.3		4	<b>O</b>	60,5	28
0	85.1		5			29
	34.004		6			昭43・5・21
	******		7	<b>®</b>	55 . I	22
		昭48。	7 28		7,5	23
	28.2		29		****	24
	25.5		30			昭43・9・17
	20.2		31	<b>(</b>	54.2	18
0	82.2		§ . I		0.4	19
	-		2		36.7	20
		昭50・	3		******	2)
	8.7		4			
	4.1		5			
0	74.2		6			-
	8.1		7			
	19.2		8			
			9			
::	6-25 24-4 A.u.	ati o see le				

注 観測は午前9時より翌日の午前9時まで



当時の気象状況は別項で示すとおりであるが、 町内において7ヵ所の観測記録はあるが、旭川気 象台の農業研修所における公式雨量は8月3日よ り6日までに231mmに達し、その量は4日5日の 両日に集中するという、これまでの最高記録とな り、また非公式ながら白金では320mmの町内最大 雨量を示し大災害をもたらしたものである。

気象の概況としては、3日昼すぎから南下した 寒冷前線が4日夕方まで北海道中央部に停滞して 大雨の前半を形成し、関東の南東海上を北上して 来た台風12号の外縁部の雨雲が4日夜半北海道に 流入し、前線雨雲と合流したため以後5日夜半に かけて後半部を形成した。北海道の学界等では百 年に一度の雨と言われている。

#### 台風15号による災害

8月15日21時ルソン島の東海上で発生した熱帯 性低気圧は、発達しながら東北東に進み16日15時 台風15号となった。

20日 3 時には風速15%以上の強風域は、南東側 1,000km 北西側 500kmの大型の強い台風となり、その後日本の南海上を北東に進み、23日 4 時過ぎ 千葉県館山市付近に上陸したが勢力が衰えず、さらに加速しながら北に進み23日 9 時には仙台付近に達した。

その後も東北地方を縦断し津軽海峡を通って、 23日14時過ぎ北海道渡島半島の南西部に再上陸した。この時点でも大型で並の強さであった。台風 は渡島半島を北上して、23日16時に寿都の北西海 上に抜けた。その後北海道の西海上を北上して、 23日21時に稚内の北西約 100kmの海上で温帯性低 気圧となった。

本町の場合は雨は徴々たるもので、強風による被害が大きかった。旭川地方気象台長の話しによると、「あれだけ道南・道央に大雨を降らせた雨雲が、夕張山地にぶつかったとたん散ってしまって風だけが残った。旭川地方は暴風雨災害は極めて少いが、これは夕張山地や大雪山脈が夕テの役になって片方の力を弱める働きをするらしい。しかしいったん毎秒20メートル以上の強風が吹き荒れると周りの山から風があふれ、強風が突風という形で襲い、また弱い風の中で突風が時折襲う何ともいやらしい風になる』(道新より)

これが本町にもあてはまり、11時位いより18時までの突風を交えた強風により被害を受けたものである。14時より16時迄が最も強かった。

本町の瞬間風速の記録はないが、旭川空港では 5日16時41.5mで、町の場合もこれと同等以上で あったと思われる。また置杵牛上精美で最も強かったのは15時15分であった。

# 一気象状況

# 気象 概況

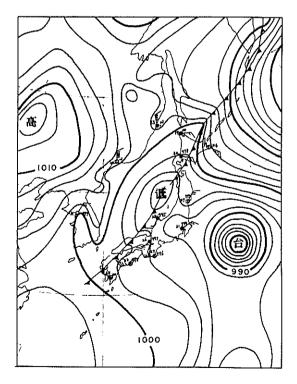
#### 1. 8月前線と台風12号

樺太中部にあった998mbの発達した低気圧は、 進路を東北東に向けゆっくり進んだ。3日夜半から、前線が上川地方に停滞したため、気圧の傾き が急となり、上川中部を中心に強い雨をもたらし たが、この日は白金で5mm、本町では1mmの降雨 量があったのみである。

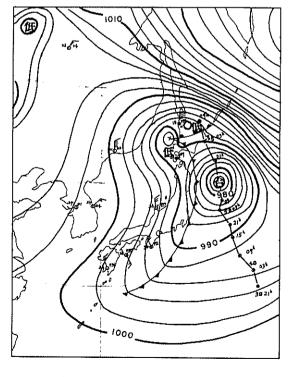
しかし、22時20分旭川地方気象台は、前述の不 安定な気圧配置等から上川地方に大雨警報と雷雨 洪水、強風注意報を発令。4日未明から夕刻まで本町全域に連続降雨をもたらし、夜半には一時雨がやんだが、5日には三陸沖を北上してきた台風12号と、南面に延びる停滞した前線が台風により刺激され、一日中強い連続降雨をもたらし、市街地の24時間雨量は145mm、白金では217mmまでの降雨が記録された。

低気圧は、6日午前3時熱帯低気圧に変り、5時20分、警報は風雨、洪水注意報に切換えられた。

降りはじめの3日からの降雨は、本町で231mmを 観測した。このため、本町全域に及んで各地で河 川が氾濫し、河川、道路、橋梁等に被害を与え、 農作物・建物等にも被害をもたらした。

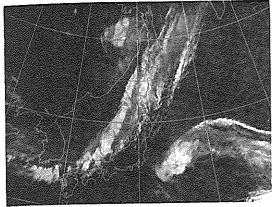


昭和56年8月4日15時地上天気図

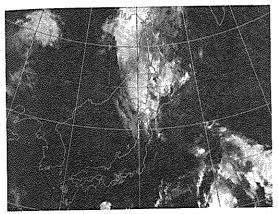


昭和56年8月5日15時地上天気図と台風経路

### 気象衛星「ひまわり」の赤外画像



(昭和56年8月4日9時)



(昭和56年8月5日9時)

#### 2. 台風15号

#### (1) 台風第15号の経過

- ア. 昭和56年8月15日21時、ルソン島の東海上、北緯18度、東経 130度で発生した弱い熱帯低気圧は発達しながら東北東に進み、16日15時に沖ノ島島の西南西約500kmの海上北緯19度、東経131度30分で台風第15号となった。この時の中心気圧は994mb、中心付近の最大風速は20%であった。
- イ. 台風は17日早朝にかけて複雑な動きをしたが、その後は時速10km前後のゆっくりとした速度で発達しながら北北東進して、20日03時には南大東島の東、約350kmの海上に達した。この時の台風は中心気圧955 mb、最

- 大風速35%、風速25%以上の暴風域は 300 km、風速15%以上の強風域は南東側 1,000 km、北西側 500 kmの大型の強い台風となり、この台風の最盛期となった。
- ウ. その後も台風は日本の南海上を時速10~ 15kmのゆっくりとした速度で北東ないし北 北東進を続け、22日15時には八丈島の南西、 約270kmの海上に達した。この時の台風は中 心気圧が965 mbと並の強さになっていたが、 相変らず大型で、最大風速35%、25%以上 の暴風域は300 kmと最盛期の勢力を保って いた。
- エ. 台風はその後、次第に速度を速めて北北東に進み、23日02時ごろ三宅島付近を通って04時過ぎ千葉県館山市付近に時速40kmの速さで上陸した。上陸時の中心気圧は965 mb 最大風速35%、風速25%以上の暴風域は200 km、15%以上の強風域は東側 400 km、西側300kmで大型で並の強さであった。このため、本州南岸では22日夜半前から台
- オ. 台風は上陸後も勢力が衰えず、さらに加速しながら北に進み、茨城県・福島県を通って、23日09時には仙台付近に達した。この時の台風の速度は時速75kmになっており、中心気圧は964 mbであった。

風の暴風域に入った。

- カ. その後も台風は時速75kmの速さで、東北 地方を縦断して、陸奥湾に入り、津軽海峡 を通って23日14時過ぎ北海道渡島半島の南 西部に再上陸した。この時点でも中心気圧 は964 mb、最大風速35%を保つ大型で並の強 さの台風であった。
- キ. 台風は渡島半島を北上して、23日16時に は寿都の北西海上に抜けた。その後、台風 は北海道の西海上を北上して、23日21時に 稚内の北西約100kmの北緯46度05分、東経140

度55分の海上で中心気圧970mbの温帯低気圧となった。

台風は、関東・東北地方、北海道南西部 と列島を時速70km前後で縦断したが勢力は 衰えず、沿岸部を中心に強い風が吹いた。

- ク. 温帯低気圧になってからは弱まりながら 北上し、24日朝には間宮海峡を通り、午後 にはアムール川下流域に進んだ。
- ケ. 台風の通過に伴って、東日本から北日本の太平洋岸では推算潮位より、40~80cm程度高い潮位を観測したが、顕著な高潮は見られなかった。各地の最高潮位は、暗海(東京湾)で22日21時30分に東京湾平均海面(T.P.)上、101cm、鮎川(宮城県石巻)で23日10時10分にT.P.109cm、函館で23日20時12分にT.P.上89cmなどであった。

#### (2) 前線の活動

- ア、8月21日、日本海を東北東進した低気圧 に伴う温暖前線が東北地方を東西に伸びて 停滞を始め、夕刻ごろから次第に活動が活 発となった。
- イ、東北地方に停滯した前線は22日には台風 第15号の北上につれて、南からの暖湿な気 流の流入によってさらに活発化し、東北地 方から北海道南部にかけて断続的に強い雨 が降った。
- ウ. 一方、低気圧から南西に伸びる寒冷前線 は22日早朝から23日にかけ、山陰地方から 北陸地方を通った。この前線の通過で山陰 地方や近畿地方の北部でも短時間に強い雨 の降ったところがあった。
- エ. 23日には東北地方に停滞していた前線も、 台風と共に北上した。

#### (3). 暴風概況

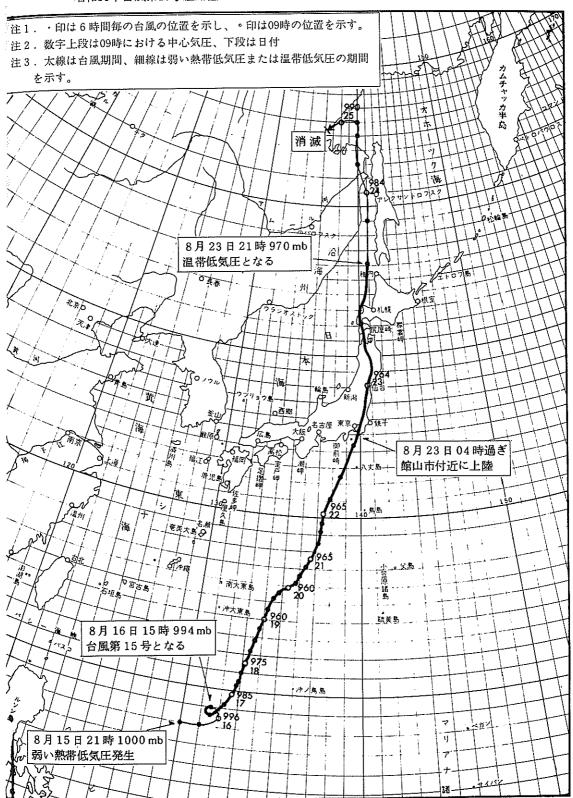
ア. 台風第15号は8月20日03時、南大東島の 東約350kmの海上でもっとも発達して中心気 圧955 mb、最大風速35%となり、25%以上の暴風域は半径 300 km、15%以上の強風域は北西側 500 km・南東側 1,000 kmに及んだ。

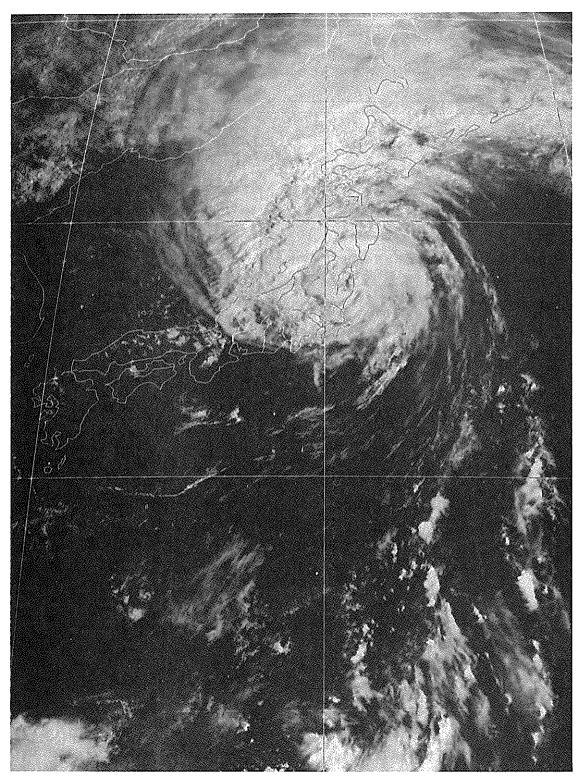
- イ、その後、台風の北上と共に強風域は次第 に狭くなったが、最大風速や暴風域の大き さはほとんど変らず、伊豆諸島では21日夜 半から風が次第に強まって台風がもっとも 近くを通った22日夜半すぎ、八丈島で最大 風速23.7%(W)、最大瞬間風速40.3%(W) を観測した。
- ウ. 22日の11時30分頃、群馬県箕郷町で突風 (たつ巻)が発生し、民家35軒が全半壊した。
- エ. 台風が23日04時すぎ千葉県館山市付近に 上陸した頃は関東地方の風は全般に弱く、 横浜で04時から05時すぎまで5%以下、そ の他も10%以下の所が多かった。一方沿岸 部では銚子で23%(SSW)の最大風速を観 測するなど強い風が吹いた。
- オ、上陸後、台風はスピードを増して北上し これに伴って強風域も順調に北へ移動して いったが、東北地方から北海道にかけては 最大風速が20%を超えたのは沿岸部が主で、 その他は15%前後の所が多かった。

北海道苫小牧では23日15時30分に最大風 速27.7%を観測したが、これは同御候所開 設以来第1位の記録である。

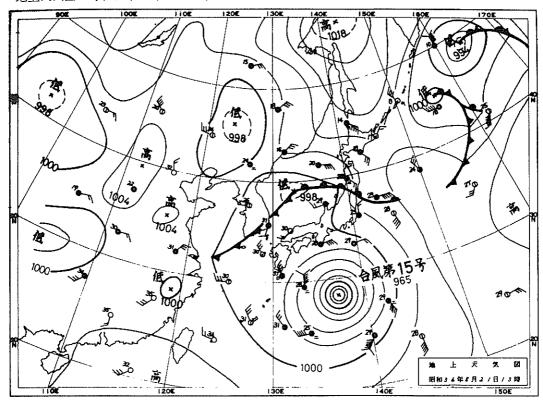
カ、一方、最大瞬間風速は台風の進路にあたった東北地方と北海道の各地で軒並み30%を超え、北海道苫小牧38.6 % (SE)、釧路33.2 % (SSE)がそれぞれ開設以来第1位の記録だったのをはじめ他でも上位の記録を更新した所が多かった。

(以上は気象庁予報部の資料による)

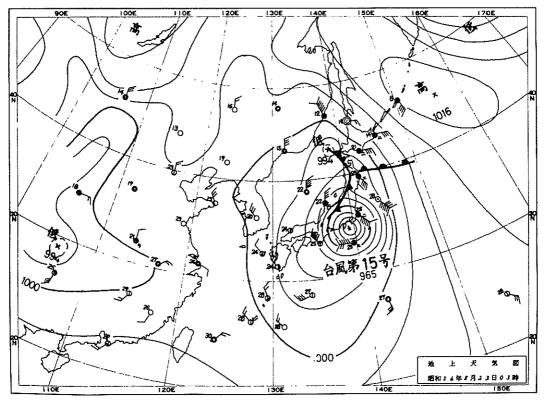




気象衛星「ひまわり」が撮影した台風第15号の雲 昭和56年8月23日08時32分(可視画像)



地上天気図 昭和56年8月23日03時



#### (4) 上川地方及び町の状況

本町の台風に関する資料は乏しいが、旭川気象 台の、旭川空港と美瑛町農業研修所の観測結果と 本町に関係するものを次に記録する。

本町の場合は、災害原因で述べたように、雨は 日雨量29mmで、さほど影響はなかったので、降雨 記録等は省略する。

なお23日の近くの最大瞬間風速は、旭川19時50 分26.3m・富良野16時19m・幾寅15時15m・朝日 20時12m・留萌35m等が観測されている。

#### 每時風向風速調 (最多10分間平均風速)

美煤町農業研修所

時間	風向	風遊	時 潤	風向	風速
0.1	S	ų m	13	×	8 <sup>m</sup>
0.2	SSE	3	1.4	×	11
0.3	SSE	2	15	×	9
0.4	S	1	/1 6	% <b>X</b> %	14
0 5	S	2	17	×	11
0.6	ESE	1	18	×	9
0.7	S	1	19	×	11
0.8	W	1	20	×	9
0 9	×	2	2 1	×	7
10	×	2	22	S	ő
11	×	l	23	W×E	1
1 2	×	7	24	S	3

- 註 1. 10分間平均最大は16時14mで瞬間最大 風速はこの1.8倍程度という。
  - 2. 風向は、S=南 SSE=南南東 ESE=東南東 W=西 ×=不明
  - 3. 最多平均は風向不明5.3m

8月23日10分每平均風速調

旭川空港

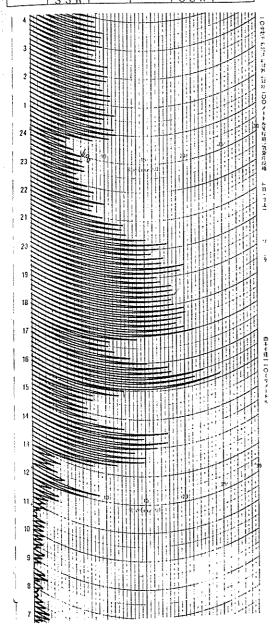
時	阊	風向	風速	時		風向	風速
辩	分	270	<b>™</b> s	ሎ	分	070	nys
09	00	W	1.1	10	00	ENE	t.6
	10	270 W	1.2		10	0 3 0 N N E	1.4
	20	010 N	1.6		20	0 2 0 N N E	1.6
1	30	020 NNE	1,0		30	330 NNW	1.7
	40	0 1 0 N	1.4		40	3 4 0 N N W	0.5
	50	030 NNE	1,2		50	3 1 0 N W	1.0

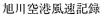
30	陽	間	Ø.	<b>ந்</b>	風	進	時	開	風	啊	K,	速
10			0 3	0							***	
10	11		N N 3 3	E		li li	16	ļ				I
30		10	NN	Ψ̈́		1.8		40	S	E		ì
10       3 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		20	NN	Ě		2.2		50	S	SE	1	8.0
10       3 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		30	N	Ì		3.7	17	00	S :	5 0 S E	1	5.3
10       3 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		40	NN			3.7		10	1 S	60 SE	1	3.2
10       3 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		50	3 3 N N			2.6		20	S	60 SE	1	1.2
10       3 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	12	00	SF	3		7.5		30	1 S	60 SE	1	0.3
20       N N W       4.3       30       S       1.5       0       S S E       21.         40       E       3.0       10       1.70       20.         50       E N E       4.0       20       1.70       19.         50       E N E       4.0       20       1.70       19.         13       00       S S E       3.2       30       1.60       19.         10       S S E       3.2       30       1.60       19.         20       S S E       11.4       50       1.70       20         30       S S E       11.4       50       1.70       18         40       S S E       14.8       19       00       1.70       18         40       S S E       13.7       20       1.70       18         15       0       S E       1.70       18         10       S E       17.8       40       1.80       18         10       S E       14.8       50       1.70       16         12       0       S E       12.4       10       1.80       19         15       0       E S E       12.4		10	3 3 N N	0 W		9.2		40	1 S	6 0 S E	1	0.5
## 10		20	3 4 N N	U I		4.5		50	1	70 S	]	4.0
## 10		30	NI	3		3.5	18	00	1 S	5 () S E	2	21.2
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		40	E			3.0		10	I	70 S	2	0.0
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		50	0 6 E N	e E		4.0		20	1	70 S	]	19.0
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	13	00	1 5 5 S	0 E		3.2		30	S	6 0 S E	;	19.7
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		10	1 5 \$ S	0 E		8.3		40	1	70 S	1	20.2
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		20	1 5 S S	0 E		11.4		50	1	70 5	2	20.0
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		30	1 5 S S	0 E		14.8	19	00	1	70 S		18.7
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		40	1 5 S S	0 E		15.0		10	1	70 S		18.3
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		50	1 5 S S	0 E		13.7		20	1	7 0 S		18.6
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	14	00	1 5 S S	0 E		16.4		30	1	7 0 S		18.4
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		10	S	0 E		17.8		40	1	8 0 S		18.3
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		20	1 5   S S	0 E	ALL IN CO.	14.8		50	1	7 0 S		17.0
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		30	$\frac{1}{5}$	: 0 F:		17.8	20	60	1	7 0 S		16.5
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		40	1 2 E S	0 E		12.4		10	1	8 0 S		19.5
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16		50	1 2 E S	0 E	A Contract of Special Property and the Contract of the Contrac	8.8		20	1	8 0 S		20.0
10 E S E 7.7 40 1 9 0 17 20 E S E 7.3 50 S E 13 0 19 0 16 50 S E 12.3 30 S S W 12 16 60 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 00 S E 12.3 30 S S W 12 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	15	00	1 2   E S	0 E		7.5		30		9 0 S		17.1
20   1 2 0   7.3   50   1 9 0   15   15 0   1 9 0   16 0   1 3 0   1 9 0   16 0   1 3 0   1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		10	ES	Ě		7.7		40		9 0 S	l l l l l l l l l l l l l l l l l l l	17.4
50 SE 11.7 20 SSW 15 16 00 SE 12.3 30 SSW 15		20	I E S	: 0 : E		7.3		50	1	9 0 \$		15.8
50 SE 11.7 20 SSW 15 16 00 SE 12.3 30 SSW 15		30	1 3 S	} () E	-	8.3	21	00	ĺ	9 0 S		16.8
50 SE 11.7 20 SSW 15 16 00 SE 12.3 30 SSW 15		40	$\frac{1}{s}$	}		8.3		10	1	9 0 S		17.8
16 00 SE 12.3 30 SSW 12		50	1 3 S	3 () E		11.7	gardina.	20	2 5			15.2
1190 200	16	00		2 O E		12.3		30	$\frac{1}{s}$	00 SW		12.7
10 S E 24.5 40 S S W 12		10	1 8	1 (i E		24.5		40	2   S	0 0 5 W		12.2
		*****	1 4	1 0		21.3		50	₹ 1	9 0 S	and the second	12.3

時	間	風 向	風速	時	間	風向	風速
22	00	190 S	9.7	22	40	2 1 0 S S W	8.2
	10	2 0 0 S S W	8.3		50	2 1 0 S S W	8.7
	20	200 SSW	8.5	23	00	2 1 0 S S W	7.8
	30	2 1 0	10.0		10	2 1 0 S S W	6.7

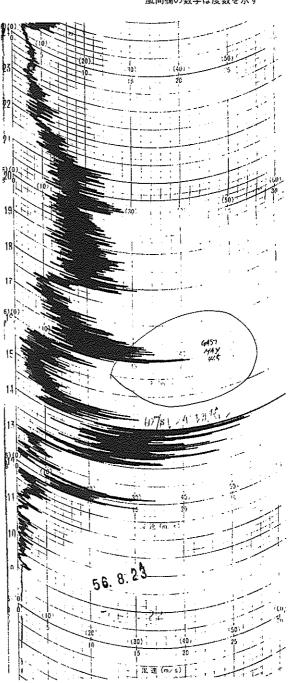
時	間	風	向	風	速	時	間	風	向	風	速
23	20	2 2 S	0 S W		6.4	23	50	2 3 S	8 0 W		7,2
	30	2 3 S	3 0 W		7.4	24	00	2 4 W S	0 5 W		7.0
	40	2 ; S	3 0 <u>W</u>		7.4						

風向欄の数字は度数を示す





8月23日16時で瞬間最大41.5m(的を示している。 また10分平均では16時10分に24.5m(的が最大である。



# 3. 警報等の発令状況

旭川地方気象台

#### (1) 8月前線と台風12号

官	署	地	力	種 類 と 発 表 ・ 解 除 日 時
	A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR	Ŀ	JII	- 大雨・雷雨・強風注 (3.1635) - 大雨警・洪水 (北部中部) 注 (3.2125) - 大雨警・雷雨・洪水・強風注 (3.2220) - 大雨・洪水警・雷雨注 (4.0705) - 大雨・洪水警・雷雨注 (4.1700) - 大雨・
<u>]</u>	1		,	洪水警・雷雨・強風注(5.1030)-大雨・洪水警・雷雨・強風注(5.1720)- 風雨・洪水注(6.0520)-解除(6.1420)
	# \$ F	留	捎	<ul> <li>一大雨・雷雨・強風・波浪注(3.1635) - 大雨警・洪水・強風・波浪注(3.2135)</li> <li>一大雨警・雷雨・洪水・強風・波浪注(3.2220) - 大雨・洪水警・雷雨注(4.0705) - 大雨・洪水警・雷雨注(4.1010) - 大雨・洪水警・雷雨注(4.1700)</li> <li>一大雨・洪水警・雷雨・強風・波浪注(5.1030) - 大雨・洪水警・雷雨・強風・波浪注(5.1720) - 風雨・波浪・洪水洼(6.0520) - 解除(6.1420)</li> </ul>

例 (3.1635) = 3日16時35分を扱わす。

#### (2) 台風15号

官	署	地 域	種	别	発表時刻 日 時 分	解除時刻 日 時 分
			強風波浪 (海上海岸) (留萌	) <b>(</b>	22 • 06 • 20	
			大雨洪水雷雨(全) 強風波浪(海上海岸)(留萌	) @	22 · 11 · 45	
		大雨洪水圈雷雨強風(全)波浪	(留萌) ⑩	22 • 23 • 43		
		大雨洪水醫雷雨強風(全)波浪	. (留萌) ①	23 • 10 • 50		
-601		暴風雨洪水(全)波浪(留萌)	<b>[8</b> ]	23 - 12 - 23		
旭	JI	上川、留明	暴風雨洪水(全)波浪(留萌)	Ø	23 • 17 • 40	
			暴風雨(全)波浪(留萌) 圏洪	水(全) 🕮	23 - 21 - 20	and the state of t
		波浪(留萌) 圏強風洪水(全)	<b>@</b>	23 · 23 · 50	24 · 05 · 45 (止川)	
			<b>強風波浪(留萌)</b>		24 • 05 • 45	
	and the control of th		強風波浪 (海上) (留萌) 個		24 • 12 • 30	24 · 21 · 20

## 4. 降雨出水の状況

降雨は本町でかってない長期間、連続の大雨量であった。戦後昭和22、23年の水害も確かな記録はないが、このような異常の降雨量ではなかった。本町は地域が広大であるため、地域によって著しく気象条件は違う。例年のように水害はあるがかって、2名の命を失ったときのように集中豪雨が主で、1-3時間程度の降雨で局地に突発することが多い。また沢地帯或は大河川においても、山津波のように一過性の増水で、今回のように、増水が1日以上も持続することはなかった。

河川も近年整備が進み、被害も最少限に防止したと言えようが、上流地域で急流であるが故に、 築堤が容易に極めて短時間で洗掘欠壊し、破堤の 恐しさを充分に経験させられた。

下流地域にあっては、洪水による冠水被害が多いが、本町の場合はいったん築堤が破れると、本流が堤内を流下し、土地・道路・建造物を破壊流失させ、人は避難の余裕がなく、水に吞込まれると、流木、土石、激流で助かる見込はない。今回は幸いにもこのような事態を回避できたが、緊急に水防作業を実施したところをみると、過去においても浸水のした場所であり、河岸が平常的に欠壊の多いところである。河川の弱点部分について今後の対策が必要であろう。

今回の河川災害は、異常な出水にもかかわらず 河川よりの溢水が少なかったことである。

これは河川改修の結果によるところが大きいが、 朗根内・下宇莫別を除いては、河床の低下が著し く、水量に比して、水位が上らなかったと思われ る。上流地域の治山・砂防の効果も発揮されたよ うであるが、今災害の特徴といえよう。

辺別川、美瑛川においても警戒水位を突破しているが、その状況と、本町に関連する雨量は次の 通りである。 町内で8ヵ所の観測所があり、その雨量は資料のとおりであるが、白金では最高 320.9mmを記録した。

資	料	ベージ
1.	美瑛町日別毎時降雨量調	20
2.	上川管内降雨状况	22
3.	上川管内等雨量線図	22
	北海道降水量分布図	
5.	辺別川幸橋水位曲線図	- 22
6.	辺別川幸橋最高水位及び毎時水位表	· 23
7.	朗根内幸橋時刻水位図	· 23
8.	美瑛川上流時刻水位・洪水流量表	· 24
9.	美瑛町内降雨量観測位置図	· 25
	西一区時刻水位図	
11.	西神楽時刻水位図	· 27

雨量計は、普通雨量計(人が溜った雨水を みる)・自記雨量計(電池式で自動で表に記録)・テレメータ式自記雨量計(電波で時間 毎に報告、呼出し、詳細データも調べれる) の3種類がある。

本町に設けられたテレメータ式のものは、 電波で1㎜毎に記録され1時間毎に旭川開発 建設部に報告され、さらに委託人が毎朝9時 に併置された普通雨量計で観測し、自記と照 合確認し報告することになっている。また気 象台は同様の方法であるが、0時より24時迄 の記録で、旭建では午前9時より翌日の午前 9時迄の記録になっている。

この記録では、便宜上雨量の表は、気象台 と同じに 0 時より24時迄に統一し、図表はそ のままの雨量を載せてあるから、数字の違い がある。

河川の水位は、河川のゲージが取付られ人で定時で観測するのと、テレメーター式自記水位計で、電波で1時間毎に定時報告し、異常出水の場合は常時報告に切換えられるものとあり、本町の西一区観測所(西町1丁目神社裏)は、併用のものである。

昭和56年8月3日~6日 日別毎時降雨量調(sm)

観測所	時間 月日	01	02	03	04	Ù5	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	計
美 瑛	8月3日																-	1						****		1
(原野5線農業	48		4	10	7	4	4	2	9	3	2	2	4	1			1	12	7						11	83
研修所)	5 B	2	4	6	9	12	8	6	6	5	8	4	13	12	9	7	8	3	4	4			11	3	1	145
-	6 B	1		1																						2
〔気 象 庁〕	計										ļ															231
美瑛役場庁舎前	3 ⊞																1								0.5	1.5
	4 H		3.5	7	8	2	4	1	8	5	4		0,5	0.5				10.5	11.5	0.5					9	75
	5 H	0.5	5	6	8	10	11	6	4	4	6	4	10	14	5	5	6	3	3	4	6	6	3	3		132.5
	68	0.5	0.5																							1
〔美 八 町〕	計																				4	<u> </u>				210
白 金	3 E																						1.5	0.5	4	6
	48	4	2	2	3	2	3	î	2		1.5									0.5				5	4	30
(白金温泉)	5 🖪	1	3	9	15	19	17	15	11	6	8	7	21	15	28	21	17	11	5	4.5	7	5	6.5	7	7.5	266.5
and the second s	6 H	5.5	4.5	5	1.5			0.5																		17
〔開 発 局〕	ät							,			donates in a consequence											<u> </u>		<u> </u>		319,5
白 金	3 H																								5	5
X-2	4 🖯	1	2	1	3	2	3		3		1								1						8	25
(育成牧場)	5 E	1	2	9	14	11	18	13	14	8	7	9	16	13	30	14	14	10	5	5	4		欠	測		217
	6 H		欠		測																	-				Persenta report
〔気象庁〕	<b>8</b> †											~										Ļ		1		247
美	3 🖽																									
	4 E		2.5	6	7	3	3	3.5	3.5	3	1.5	0.5	0.5	2				0.5	0.5						2.5	39.5
(美沢共立)	5 E	4.5	0.5	6	9	11	14	5	11	5	6	6	9	16	20	9	10	5	3.5	3.5	6	7	4	3	1.5	175.5
	6 B	1	1		0.5			0.5			0.5	0.5										THE PERSON NAMED IN COLUMN				4 Occasionario
[開発局]	計																				ļ	<u> </u>	ļ.,,. <u>.</u>	<u> </u>		219
俵 嶌 布	3 <del>[</del> ]																		0.5			- ALANGE CLARE				0.5
	4 H		1.5	3.5	6	2.5	5	2.5	4.5	1.5	3									_		Maddisusova		_	11	38
(	5 8	0.5	1.5	4	9.5	17	10	5.5	10.5	10	9	9	12	15	14	11	5.5	7.5	3	5	5.5	7	6.5	7	3	188.5
	6 H	2	1.5	1	1								,													5.5
〔開 発 局〕	핡-	<u> </u>											<u> </u>							<u> </u>	<u></u>	<u> </u>		<u> </u>		232.5

	細	測所	時間	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	āt	
L			月日 3日	01	- 02				-		-									1.5							-	1.5	
聖		습				~	10		ا ،	3	5	4	1	3	1.5	5.5	ļ	İ		1	1						7.5	59.5	
(3	聖·	台土地改良	4日 5日		2	7	10 7.5	4 14	4 7	6	6	3	5	4	12	7	11	9	6	5	3	4	4	4.5	3.5	1	1.5	132.5	
区1	中:	宇莫別)		, ,	3	5.5	i l	14	'	۱	0	ا	,	4	12	, i	11	,	٠	Ů	ĭ	.	1		0,,,			3	
	00	es 153 \	6日	1.5	0.5	0.5	0.5		İ							ļ											}	196.5	
		発局〕	計																		0.5							0.5	
-	j	股 共 栄	3 🖽		, ,		10.5		3.5	_ [	7.5	13.5	1	1.5	0.5	1				1	4	9	3.5					72	
Ι,		Mm -226-1	48		0.5	6		4	i	5	i	13.5	_	1.3	12	17	13	8	11	12	3	3	6	4	5	1.5	2.5	213	
(.	-	.股富美)	5日	5.5	1	8.5	9	11	18	12	16	14	10	10	12	11	10	٥	11	12	J	Ů	Ů	٠.		110		7.5	
	ND		6 日	2.5	1	1.5	1.5	0.5	ļ				0.5					,										293	
_		発局]	計																			3	日の時	 ~ 4 日	L			- 93	
一辺		別 太	3 🛭																				_	~ 5日				- 109.6	
			4 日																				-	~ 6 H	-			- 74	
1	旭	. 第一)	5 B																			i		~ 7 E				- 0.5	
Ι,	. 1514	= .	6日																				шонд				277.1		
	_	発 局〕	計																	!			1		I	T	2	2	
		旭 川	3 日	1.0	,,,		10	١	l c	ے ا	15	7	13	6	4	3	4		3	1 12	9	5					6	168	
			4 日	10		24		5	6	5	15	5	5	2	9	5	5	4	6	5	2		4	3	1	3	1	125	
			58	3	4	3	8	13	12	10	11	J	J	"	"	"		4	'	,	"	1	'		-		- '	2	
		( min ata min )	6 ⊞		1				1						İ													297	
B	ŀ	〔気象庁〕	計							<u> </u>							ļ <u> </u>						<u> </u>	<del>                                     </del>	<del> </del>				
		東 川	3日		_	15	15	٫ ا	5	3	13	5	5	2	3	2		-	1	8	5						8	103	
			4 日	2	7		1	19	6	5	1	2	5	4	9	!	8	4		6	4	3	3	5	3	2	1	119	
	-		5 H	1	5	ļ	`	12	°		l °	2	3	4	"	'		*	2	"	*		"			]	*	2	
		<b>/ RH ₹</b> ₩ \	6 日	1		1								-														224	
外	<b>,</b>	(開発局)	計	<u> </u>	ļ							<u> </u>				ļ <u> </u>				ļ <u> </u>	<u> </u>	<b></b>	<del>                                     </del>	<b>-</b>	<u> </u>	3	4.5	ļ	
		神居古潭				1		1			10 5	11		,	12	9.5	5	10.5	3	11	6							149.5	
				6					1	i	12.5	11	6	1	ļ	{	1				1	0.5	3 5	2.5	1.5	1.5	1	i	
				6	1		8.5	12.5	14.5	8.5	9.5	5	3	5	5	0.5	3.5	1.5	7.3	3	1 4	0.5	"."	2.3	1.5	1.0	1	4	
			] _,	1	1	1																						288	
1	-	〔開発局〕	青				l		]				<u> </u>	<u> </u>			l		<u> </u>		1		<u> </u>		J	<u></u>	<u> </u>		

10 11根別

観測所	. 連続		最大時	最大24時間雨量			
15XC (81/17/1	降雨量	B	時	間	雨量	E	雨量
旭リ	1 297 ***	4日	2.00-	3.00	24	4日	135™
中丿	II 162	5日	8.00-	9.00	14	4日	99
美	<b>柒</b> 232	5 El	6.00-	6.00	16	4 E	117
下 /	비 267	4日	6.00-	7.00	23	3 E	136
士 5	II 283	4日	8.00-	9.00	19	4 H	130
和 9	Œ 297	5日	0.00—	1.00	19	4日	153
上,	175	5⊟	11.00-	12.00	12	5 E	91
美	231	5 ⊟	11.00-	12.00	13	4 H	98
富良里	步 230	5 El		10.00 13.00	19	5日	131
占元	王 163	3∃	17.00-	18.00	17	5 🗄	59
層雲山	夹 278	5⊟	4.00-	5.00	16	5日	149



旭地区 101戸 355haの農地にかんがいする旭頭首工は導水路・堰体半分を流失

水位曲線図

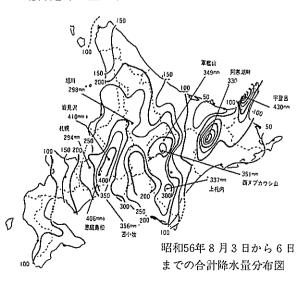
旭川土木現業所

水系名 石狩川

河川名 辺別川

観測所 幸 橋 所属 日本気象協会旭川支部

# 北海道降水量分布図



比书岳 海鼠族

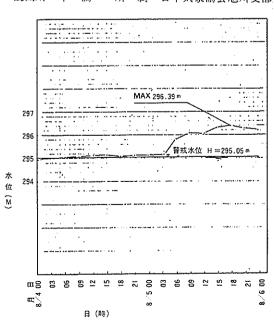
200

〇 上宣

富良野

11 E O

東山 南時南山



## 8月3日~6日 最高水位及び毎時水位表

旭川気象協会調

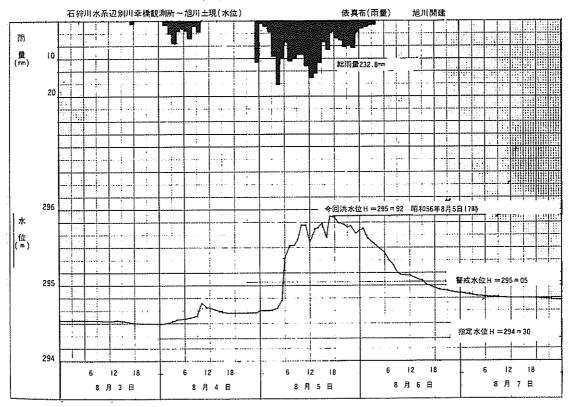
# 水系名 石狩川 河川名 辺別川 観測所名(量水標名) 幸橋

指定水位 294.30 m 警戒水位 295.05 m

単位: m

E E	3	4	5	6	摘	要
	294.52	294.69	295.90	295.56	最 高	水 位
03	294.52	294.52	294.67	295.56		
06	294.52	294.55	295.36	295.42		
09	294.52	294.59	295.60	295.17		
12	294.52	294.69	295.58	295.12		
15	294.51	294.64	295.82	295.06		
18	294.50	294.63	295,90	294.96		
21	294.49	294.63	295.76	294.93		
24	294.48	294.66	295.72	294.90		

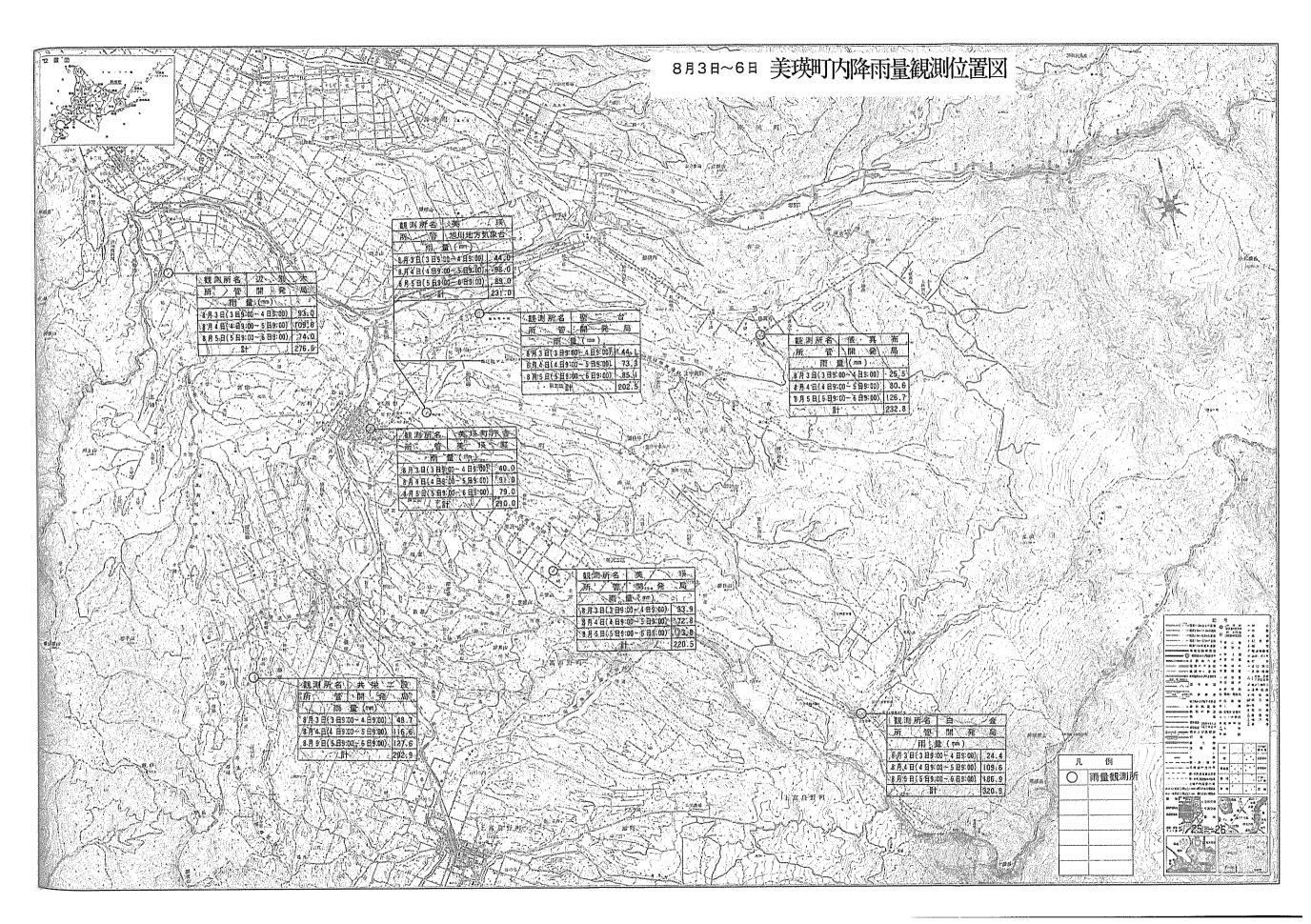
幸 橋 時 刻 水 位 図



注 🔤 太線内はピーク水位 🌅 指定水位突破 単位:水位 🗆 、洪水量 🗝 旭川開発建設部

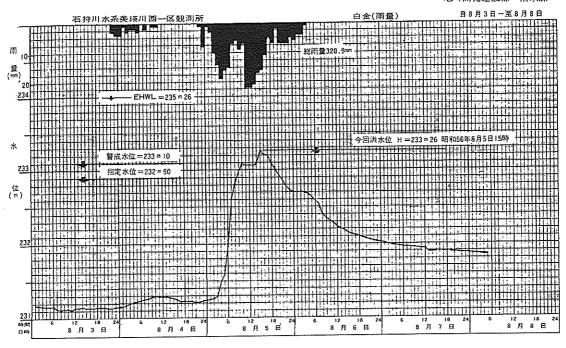
区分	石多	· 川 2	水 位	忠别川	 L水 位	美瑛」	 川水 位	美巧	英 川
明製測所	旭 橋	永 山	中愛別	暁 橋	江卸発電所	西神楽	西一区	西神楽	西一区
計 画	109.73	139.94	247.69	185,48	359.94	140.27	235.26	洪水流量	洪水流量
警 戒	107.50	132.40	244.60	184.00	356.40	137.60	233.10	m³	m³
指定	106.40	131.70	243.40	183.30	355.60	137.20	232.90		
8月5日									
1	104.77	129.91	242.64	182.73	355.46	135.55	231.25	69.97	7.1
2	104.76	129.91	242.64	182.75	355.46	135.55	231.26	69.97	7.51
3	104.77	129.93	242.64	182.74	355.48	135.57	231.29	73.15	8.81
4	104.74	129.94	242.65	182.74	355.53	135.60	231.49	78.05	20.17
5	104.84	129.96	242.69	182.77	355.71	135.66	231.59	88.33	27.58
6	104.86	130.00	242.74	182.79	355.99	135.75	231.97	104.94	64.51
7	105.01	130.03	242.85	183.09	356.17	135.94	232.62	144.72	133.61
- 8	105.12	130.10	242.99	183.74	356.13	136.10	232.83	183.16	161.26
9	105.21	130.18	242.23	183.79	356.12	136.66	232.99	353.32	184.06
10	105.27	130.27	242.35	183.73	356.15	137.11	333.08	530.20	197.55
11	105.34	130.36	243.41	183.85	356.19	137.41	233.06	633.07	194.51
12	105.42	130.47	243.44	183.89	356.24	137.78	233.07	769.10	196.03
13	105.52	120.52	243.59	183.91	356.49	138.09	233.06	893.25	194.51
14	105.61	130.57	243.76	184.24	356.77	> 138.35	233.09	1,004.54	199.08
15	105.67	130.66	244.07	184.20	356.74	138.75	233.26	1,188.50	225.97
16	105.75	130.83	244.35	184.19	356.75	=138.96	233.21	1,291.27	217.88
17	105.88	131.04	244.36	184.58	356.82	138.70	233.20	1,164.66	216.28
18	106.06	131.16	244.51	184.67	356.86	138.42	233.09	1,035.62	199.08
19	106.14	131.22	244.45	184.56	356.87	138.22	233.01	948.08	187.02
20	10.617	131.26	244.46	184.37	356.84	138.09	232.94	893.25	176.77
21	106.21	131.27	244.40	184.32	356.74	138.00	232.86	856.25	165.42
22	-25	131.24	244.39	184.18	356.69	137.89	232.78	812.09	154.44
23	106.21	131.22	244.44	184.13	356.68	137.73	232.74	749.94	149.09
24	106.14	131.20	244.51	184.09	356.68	137.65	232.70	719.80	143.84
8月6日									
1	106.14	131.22	244.49	184.21	356.71	137.56	232.70	686.62	143.84
2	106.13	131.21	244.53	184.32	356.75	137.50	232.71	664.94	145.14
3	106.08	131.20	244.65	184.36	356.75	137.43	232.70	640.09	143.84
4	106.03	131.21	244.66	184.26	356.68	137.34	232.68	608.83	141.24
5	106.03	131.20	244.45	184.12	356.49	137.23	232.64	571.68	136.13
6	105.97	131.18	244.41	184.02	356.27	137.12	232.58	535.70	128.64
7	105.90	131.16	244.38	183.96	356.17	137.04	232.53	510.27	122.56
8	105.84	131.11	244.20	183.90	356.07	136.94	232.39	479.36	106.31
9	105.79	131.05	244.16	183.85	356.02	136.82	232.35	443.53	101.88
10	105.67	130.90	244.12	183.78	356.00	136.70	232.31	409.09	97.20 89.37
11	105.57	130.83	244.06	183.68	355.97	136.60 136.52	232.28	381.46	77.06
12	105.50	130.78	243.99	183.56	355.91		232.23	360.05	70.11
13	105.40	130.73	243.93	183.60	355.89	136.44 136.36	232.20	339.26	65.66
14	105.33	130.70	243.89	183.56	355.86		232.18	315.68 298.47	59.26
15	105.26	130.66	243.84	183.54	355.83	136.30	232.15		55.17
16 17	105.19	130.62	243.79	183.60	355.81	136.24	232.13	281.74	53.18
18	105.11 105.04	130.57	243.68	183.51	355.77	136.17 136.12	232.12	262.82	49.32
TITE Activity		130.53	243.61	183.49	355.74	190.12	232.10	249.72	43.06

西神染 美瑛川·辺別川合流点寿橋 西一区 西町一丁目美瑛神社裏

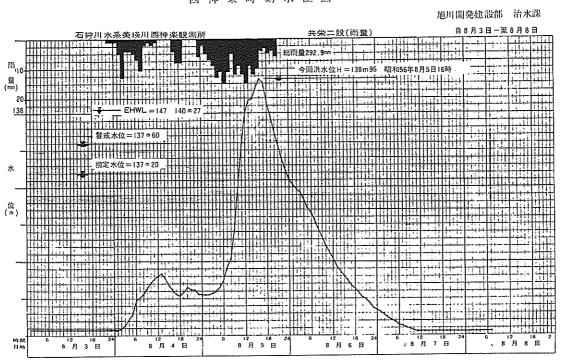


#### 西一区時刻水位図

#### 旭川開発建設部 治水課



西神楽時刻水位図



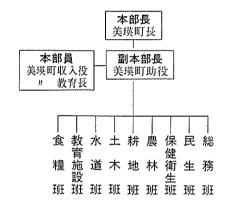
# 災害対策の組織と活動状況

#### 1. 災害対策本部の設置

8月4日は情報収集、雨量の調査等を行い一部 待機としたが、翌日5日に至り全町的に災害発生 が予想されたので、同日8時30分に次の機構で美 瑛町災害対策本部を設置し、応急対策がおおむね 終った8月14日17時に廃止した。

また台風15号については、本部を設置しなかったが、水害時の本部機構に準じて対処した。

美瑛町災害対策本部組織



#### 避難状況調

#### 2. 主な活動と記録

本部の活動と記録は各項目に記載したので、脱 漏事項を記録する。

- (1) 避難命令とその状況は下表のとおりである。
- (2) 課長、管理職会議は次のように行った。
  - I) 8月5日17時 情報収集及び対策状況の 協議
  - 2) 8月7日8時30分 上水道断水状況と対 策について協議
  - 3) 8月24日 8 時30分 台風15号情報収集及 び対策状況の協議
- (3) 災害状況報告は、速報・中間・最終と電話連 絡等を除いて9回にわたり行ったが、最終は8 月19日11時現在で取郷め上川支庁に報告した。
- (4) 対策本部員(助役外13名)は、8月9日被災地の調査及び被災者に対する見舞をした。
- (5) 行政区長会議を8月13日に開催し、被害状況 の説明を行い、各区毎に状況を聴取りすると

避難命令		避難地区名	避難場所	避難	人具	避難	解除	避難の状況	
月日	時刻	避難地区名	避難場所	世帯	人貝	月日	時刻	選業の状況 	
8.5	11.44	字下字英别第1	美瑛町立美進小学校	12	49	8.6	12 . 00	宇英別用犯職のため 毛布50枚貸付 給食	
8.5	11 . 44	# 例 II 第 3	本 勝 寺	43	151	8.6	12.00	# 毛布150枚負付給食と自炊	
8.5	11.44	# 第5	天 理 教 会	7	24	8.6	12.00	" 们 坎	
8.5	13 . 15	大村、花園、美沢 9 線	美瑛町民センター	3	7	8.6	8.00	ほかに21時美沢橋架換工事現場従業 日約20名毛布貨付 給食	
8 . 5	16.40	字朗根内全城	美瑛町立明德小中学校	17	58	8.6	8.00	辺別川築堤欠壊の恐れあるため、毛 布30枚寝袋25組貨付 給食 自炊	
8.5	16.40	美 沢 全 域	美瑛町立美聖小学校	18	70	8.6	8.00	美瑛川築堤欠壊の恐れあるため、宿 泊者女性20名毛布80枚貸付 給食	
8.6	0.40	字 旭 第 2 ・ 3	美瑛町立旭小学校	6	19	8.6	8.00	辺別川及び美瑛川欠壊の恐れあるた め、毛布10枚貸付 - 自炊	
8.6	0.40	字旭第3、北星、中央	美瑛町農業協同組合旭支所	14	40	8.6	8.00	" 毛布30枚貸付一自炊	
8.6	0.40	字 旭 第 4	旭 第 4 会館	4	15	8.6	8.00	" 门 炊	
8 . 23	19.00	字白金 (白金模範牧場)	白 捧 荘	2	12	8 . 24	10.00	台風15号による強風のため 殺具12組貨付 自炊	
	合	ž†	10 カ 所	126	445				

ともに今後の対策について協議した。

尚別途に調査漏れの被害カ所、及び応急対策 に要した資材、労力・炊出し、費用等について 文書で報告を求めた。

- (6) 自衛隊災害派遣要請を、次のように行った。
  - 8) 8月3日~6日にかかる災害 要請 8月5日 12時20分 撤収 8月5日 23時50分
  - 2) 8月7、8日の給水

要請 8月7日 9時15分 撤収 8月6日 16時15分

- (7) 町議会に対しては、8月11日正副議長及び 常任委員長会議招開を要請し、災害の状況、 及び対策について説明し、協力を要請した。
- (8) 食糧等の対応は、下表のとおりである。
- (9) 町見舞金、及び日本赤十字社北海道支部よ りの見舞金、日用品を、8月7日に床上浸水 住宅で特に被害の大きかった、10戸に対して 贈った。
- (10) 災害の視察調査並びに見舞のため、来町し た主な方は次のとおりである。

8月7日 旭川市水道事業管理佐々木冨雄氏 8月8日 自民党道議会議員 西尾・田苅子 藤井・野村・村上各議員

8月11日 道議会農務委員 吉野副委員長・

渋谷・岡本・村上各委員

- (道) 我孫子上川支庁長ほか3名 川田正町議院議員
- 8月13日 北 修二参議院議員
- (川) 町長は次のように、現地の視察と見舞を行った。
  - 8月6日 美沢・置杵牛・下宇茣別地区
    - 7日 下宇茣別・旭・その他各地域
    - 8日 美沢・置杵牛・水道施設
    - 13日 俵真布・その他各地域
  - 9月8日 旭地区頭首工



道開発庁中村政務次官が被災地を視 察 (8月15日13時20分、下字で)

# 3. 本部廃止後の町の対応

1) 8月19日 北海道開発庁中村啓一政務次 官が災害調査のため来町し、町及び関係機 関の代表者等により、災害状況の説明・被 災現地案内及び被災地の早期復旧について

炊出し関係 炊事場所 音羽食堂(栄町4丁目)

	8 .	月 :	5 日	8	月	6	E	8	月	7	日	8	月	8	Ħ		H	備考	
	朝食		一食		474頁					27	食			100	)食	601	1食		
dr We	昼食		165		151					100	食			120	)	536	ô	部落の分は含	
食 数	夕食	1	,031							200	)			***		1,23	1	まない。	
ľ	計	1	,196		625					327	,			220	)	2,368	3		
	本部		21人		17人					11	٨			10	)人	59	9 人		
炊出に従事した者	部落		86人		42人					6	人			_		134	4	8 部落会	
-	計		107		59					17	人			10	)	193	3		
	( {	Ł)		(幕	月)			(朝	H)				月)						
	町職員		165人		<b>方関係</b>		70人	町鞘	改員	27	'人		战員		)人:				
	消防防	日孫 /	1057	応急	急現場	14	4人	(右	F)			応急	.現	場1(	λC				
炊出対象者				避難	佳者	26	60人	町箱	改員	100	人(	( {	1)						
	(夕)			(五	Ł)			(タ	7)			町埠	战贝	90	)人				
	自衛	<b></b>	253人	町耶	战贝	2	21人	町埠			/人	応	.現	場3(	人				
	町職具 消防限	. ,	216人	避禁	推者	13	30人	応急	現場	113	人								
	応急基	見場	331人																
	避難者	¥	231 人																

要望を行った。

- 2) 8月23日 川田正則代議士が来町したの で被災状況の説明を行い、被災地の早期災 害復旧等について要望を行った。
- 3) 8月23日 15号台風接近により被害も予想されたところから、関係職員が役場に待機し被害状況の収集を行い、路上に倒伏した立木の除去等の緊急作業にあたった。
- 4) 9月3日 議会議員協議会において、被 害状況とその対策等について、報告を行っ た。
- 5) 9月3日 管理職会議を行い、被害状況 と災害復旧工事の状況について説明し、今 後の対策について協議を行った。
- 6) 9月11日 第6回定例町議会を招集し、

交通確保の状況

農業用施設災害復旧工事の施行と、災害関連予算補正について提案し、議決を得た。

- 7) 11月9日 第7回臨時町議会を招集し、 農地・農業用施設災害復旧工事の施行と、災害 関連予算補正について提案をし、議決を得た。
- 8) 12月16日 第8回定例町議会を招集し、 11月臨時町議会と同様の提案し、議決をした。
- 9) 昭和57年1月21日 第1回臨時町議会を 招集し、天災資金の債務負担行為につき提 案し、議決を得た。

#### 4. 交通対策

欠壊、埋没、冠水等により鉄道1ヵ所・国道1 カ所道道4ヵ所・町道17ヵ所が交通不能となり各 機関と連絡して対応したがその状況は、次のとお りである。

区分圆断被客状况	
	法 開通月日
鉄 道 下 宇 英 別 冠水及び路床法面くずれによる一時運休	8月5日
国 道 " 冠水による一時不通	и
道 道	
美 馬 牛 神 楽 線 旭 第 6 超水による一時不通	8月5日
五 稜 ~ 美 園 道路欠壊、落石による不通 補助災害復旧工事	57年4月
松 山 美 瑛 線 下 宇 英 別 寇水による一時不通	8月5日
上字英別美獎停車場線 " "	ŋ
町道	
朗根内上 俵 真布線 九 線 橋 地 先 九線橋右岸取付部分流失による不通 補助事業による全応急復旧工事	8月11日
美 瑛 五 稜 線 夕 張 谷 屋 地 先 直路欠壊による不適 仮復旧で交通確保すると共に全応急復居	町工事 8月8日
新 栄 新 星 線 新 栄 下 川 地 先 " 内 応急復日	8月13日
自 金 美 瑛 禄 両 泉 橋 地 先 " 仮復旧で交通確保 57年度補助災復旧	8月15日
美瑛阿満線美國江花地先 "9月 "	8月12日
中本橋~1号橋間 1 3 カ所不通 補助災による復旧 56年度1 カ所 58年	F度2カ所 58年度
1 号 橋 地 先 橋取付部分両側流失による不通 町車両で土盛復旧	8月7日
美 園 ルベ シ ベ 線 類 田 地 先 横断工流失による不適 単独費で復旧	8月14日
宇 英 別 明 治 線 道 道 ~ 1 号 橋間 道路流出による不通 町車両により仮復旧で交通確保57年度補	助災で復旧 9月12日
藤 山 上 宇 開 拓 線   道道~砂防えん堤間	8月23日
置 杵 牛 協 英 線 1 号 橋 橋台流失による不通 仮復旧で交通確保56年12月~3月農業第	後害で復旧 8月7日
2 号 橋 流虫 π 仮橋設置57年度農業災害で復旧	9月7日
えん堤橋~1号橋間 道路流失による不通 河床の砂利おして仮復田57年度河川災害	¥復旧実施 8月7日
旭 老 知 安 線 全 線 路面流失 " 町車両で復旧	8月10日
川向朝日1号線 n n n	

# 陸上自衛隊の救援活動

# 防災活動

#### 1. 災害派遣の要請

災害対策本部においては災害の状況により人命 に危険があるので、町及び消防団、地域関係者の みでは対策が困難であると判断し、8月5日12時 20分に、上川支庁長を通じて、陸上自衛隊の災害 派遣を要請した。

上富良野駐とん部隊は早朝より非常勤務につき 第120 特科大隊では、偵察を行うとともに救援の 態勢を整えて、午前中には出動準備が完了してい たようであるが、別項記録のように防災活動を行 い同日23時50分に撤収した。

この陸上自衛隊に関する記録は、上富良野駐と ん地第4特科郡第120特科大隊長山口正雄二佐より、提供を受けた資料にもとづいたものである。

#### 2. 上富良野駐とん部隊の動き

8月5日8時上富良野駐とん地では、駐とん地朝礼を体育館で実施した。その際に駐とん地司令(吉崎格一佐)は災害発生を予測し、災害派遣準備について全隊員に訓示している。即ち『4日来の豪雨による降雨量は近年になく大量であり隊区内の河川が氾濫すると予想される。駐とん各部隊及び各員は、その心づもりで行動し災害派遣の要請があれば速やかに出動してその任務が完遂できるよう準備せよ』と述べている。

しかし、多くの隊員はそんな事はあるまいと思

っていたが、数時間後に現実のこととなった。第 120特科大隊の本部では、司令訓示を体し朝礼終 了後直ちに第2係森本二尉が美暎町役場に電話を 入れ、また第3係中島一尉が当直幹部から出動可 能人員、車両等の説明を受けていた。その時『命 令受領者集合』の放送があった。時刻は8時20分 である。

群命令は、●非常勤務態勢への移行 ②出動準備 ③偵察 連絡班の派遣による情報収集等を律するものであった。その2時間後に群命令が下達され非常勤務態勢が更に強化され、休暇・代休の者も呼集された。また、9時58分には今次災害派遣の第一陣として第2戦車大隊主力が上富良野ベベルイ川東中地区に出動している。

## 3. 第120特科大隊の出動

#### (1) 出動まで

10時30分幕僚会同が開かれ聖台ダムが崩壊した場合の様相と濁流に流される住民の救出方法や、堤防強化方法が検討された。そして救命衣、救命ボート等の必要性について群に報告した。その後救命衣、救命ボートは旭川の第2師団が装備しているが、既に師団が使用を予定しているとのことであった。

11時大隊長山口正雄二佐は、出動準備に関する 最終命令を中隊長に下達した。この命令は基本編 成と装備を示し、人員は大隊長以下 169名、装備 は車両24両無線機のほかロープ、円匙、掛矢、土 のう、鉄せんきょう、水缶等の土工具類であった。 それまで聖台ダムの水位の上昇や、下字英別の小 河川の増水、氾濫の状況が判明し、群長・大隊長 は聖台ダム決壊を特に憂慮していたようである。

11時44分町役場総務課長は、自衛隊の出動について大隊長と調整し、大隊長は上富良野地区の被災地視察中の群長に無線で調整結果を報告した。

#### (2) 出動及び防災活動

大隊の出動が当初1個中隊、以後大隊主力と二段階になったのは、下字莫別は自衛隊、他の危険地域は町で対処しうると判断し、最初の調整では約30~40名程度を要請したことによるものである。

しかし逐次情報が入り、田畑の冠水、家屋の床 上浸水等被害の増加、住民の避難や美瑛川の急激 な増水、同河川の築堤欠損の状況が判明するに従 い、先遣中隊と町関係機関だけでは無理と判断し て増援を要請し大隊主力の出動をみたのである。

#### ア 第2中隊の下字英別における活動

美瑛町災害派遣に関する群命令を受領する や大隊長は、無線中継班を美瑛町市街地西側 台上 (大村) に開設を命ずるとともに、連絡 幹部を町役場に、また先遣中隊として第2中 隊(中隊長吉田一尉以下35名、車両3両)を 被災地に派遣した。第2中隊は美瑛町市街地 入口から町職員の誘導により、下字莫別の小 河川の氾濫による被災地に到着し、町の要請 により、神社境内南側約40mに土のう800袋 の積みあげ作業に着手した。作業は膝を没す る泥水の中、順調に進港し15時15分にはほぼ終 了したが、河川の水位が更に高くなり、この 結果作業現場南側地区の住宅への浸水が床上 を越し、その住民から自衛隊が積み上げた土 のうを取り除くよう要求があり、中隊長は町と 住民との板ばさみに苦慮した。町と住民との 話し合いの結果、積み上げた土のうは一部を 取り除くこととなり、約 200袋を解体し河川 の流水の一部を北方に向け水位を下げた。 この間隊員は黙々と作業に従事した。

第2中隊が作業を実施している頃、付近住 民はほとんどが町の指定場所に避難していた が、一部は家屋内に残っており住民避難の援 助を町職員と協力して実施している。

#### イ 大隊主力の進出

大隊主力は群命令により14時14分、駐とん地を出発、下宇莫別地区に進出し同地区に集結した。大隊長は第2中隊の作業状況を確認して、第2中隊に対する増援は最大1個中隊と判断し、第3中隊を予備として残置し、主力を美瑛町役場に移動集結させた。

役場の対策本部では、電話のベルが鳴り止まず、また応対する町職員の声とで喧騒を極めていた。

そこに大隊長が到着し、町収入役を中心に 善後策が練られた。諸情報が入り乱れており 正確な情報特に、聖台ダム及びその下流の状 況把握が重要と決して、本部中隊長小原一尉 第2係をそれぞれ長とする2個の偵察班を編 成し、16時頃偵察に出発させた。偵察結果は 無線により逐次報告され、懸念された聖台ダ ムは大量の水(毎秒 130㎡)が越流し、激しい 勢いで流出していたがその築堤に異常はなく またその下流数杆の築堤は欠損が生じている ものの消防及び町職員等で対処し得ることが 18時には、はっきりした。

聖台ダムは満水に近い越流状態でありなが ら、堅固であることが判明して、一同安堵し た。

## ウ 第 I 中隊の緑橋下流(花園)に おける活動

聖台ダム及びその下流地域のほか、美瑛川 築堤に伴う対策も検討された。増水による危 険地域のうち最も被害が大きく緊急を要する 箇所としては、花園 5 丁目、美沢 9 線、美沢 19線の左岸築堤の破堤が列挙され、取りあえ ず花園地区に一部をもって対処させ聖台ダム地区の状況を確認後、美沢地区対処に関し判断することにし、大隊長は第1中隊(中隊長原一尉以下55名)を花園町緑橋付近の築堤強化のため、17時15分出発させた。

緑橋下流左岸は増水により民家10数軒の流 失の恐れがあったので、 200mにわたり土の うによる仮堤を構築した。これらの作業は町 民と協同して行われ、土のう 1,000袋、杭木  $\phi$ 15cm×2 m 150本を利用した作業は19時に 終了し、第1中隊は19時25分役場に再集結。

(美瑛川・美沢19線 田村地先)



流れるように類を伝わる雨の中、応急 水防作業にけんめいな自衛隊・開発局 ・地元住民ら(8月5日22時写)

# エ 第2中隊、第3中隊の美沢9線及び 美沢19線における活動

聖台ダム方面の状況が判明し大隊の美沢地区への運用は19時頃決した。それまで下字英別での作業を終了して警戒に当っていた第2中隊と予備の第3中隊(中隊長安本一尉)は、19時頃には役場に移動集結しており、中隊長も美沢地区の対処要領の検討に加わり19時20分第2中隊が美沢9線へ、第3中隊が同19線へ町職員の誘導で出発した。雨は激しく降り続き周囲はうす暗くなっていた。

美瑛川は名に負う急流河川で危険水位を突破し、たちまち築堤は破れ、逆巻く濁流は土石を吞み轟音をあげて流下する様に関係住民は驚怖のためなすすべもない状態であった。

その中を隊員は先頭に立ち豪雨の夜半に発電 灯を頼りに、刻々と増水して激流渦をなす破 堤現場に立ったのが20時頃である。

第2中隊の9線の現場では照明用資材、杭 針金、ロープ等の資材が町職員の手により準 備されていた。堤防幅員の約半分が崩壊し、 かつ堤防下部は激流にえぐり取られ上部が宙 に浮いた状態であり、そこでの行動は非常に 危険であった。時折ドドッと足下で堤防の土 石が崩落する音が聞え、堤防の浸蝕はみるみ る進行し作業は一刻を争う状態であった。

町職員が技術指導し、中隊長の号令で規律正しく木流し、土のう積みが続けられた。組長(和鴫二曹・杉山二曹・持安三曹・田中三曹)は、命綱をかけて堤防上を行動させていたが、中隊長には命綱がなく、崩壊部の突端から下方をのぞく時など冷汗ものであった。そこに大隊長が現場指導に来て中隊長に厳重な注意があり、中隊長専任の安全係が命課され2次災害防止に努めていた。土のう1500袋により堤防を補強するとともにø15cm×3.5m・300本の杭木と河川敷から伐採した柳・白樺・タモ等により、約150mにわたり、「木流し」作業を実施し流水による浸蝕防止を図り、同現場の欠壊を防止している。これらの作業には町職員が照明等を担任し協力した。

第3中隊の19線の現場は、堤防が欠壊していた。ただ堤防に連接するとうきび畑は水位より高く冠水は幅10m長さ250mの地域であった。しかし激流により畑部がえぐられ、崩落部が拡大しつつあった。第3中隊は第2中隊と同様に2000袋の土のう積み、また杭木ø15cm×3.5m・500本を関係住民の伐採搬出した木流し作業を実施し冠水面積の局限と本流の農地内流下を防止した。

本部中隊は、指揮・連絡・偵察で、また管理 中隊は給食等で、衛生隊は現場の守り神とし て影ながら活躍した。特に中継無線班(長佐 々木一曹)は、豪雨の下とうきび畑の台上で 終始確実に大隊本部と群本部及び作業現場と の通信を確保し、指揮連絡を容易にした。大 隊のずぶ濡れ泥まみれの身命を賭した作業に 住民より深い感謝と強い信頼・賞讃を受けている。

#### 8月5日災害派遣記録

第 120特科大隊

状 況 8月4、5日の集中豪雨により美 瑛町の河川が氾濫し民家の流失の恐 れあり

理 由 美瑛川及び宇莫別川の増水による 氾濫を防止するため

#### 要請及び撤収

要請 昭和56年8月5日12時20分 撤収 昭和56年8月5日23時50分 場 所 美瑛町東部及び南部地区並びに市 街地周辺

> (美瑛町字下英別同字中字英別 同字上字英別、同美沢及び市街地 周辺)

派遣部隊 第 4 特科群第 120特料大隊

指揮官 第 120特科大隊長

二等陸佐 山口 正雄

派遣人員 指揮官以下 169名

派遣車両 24両

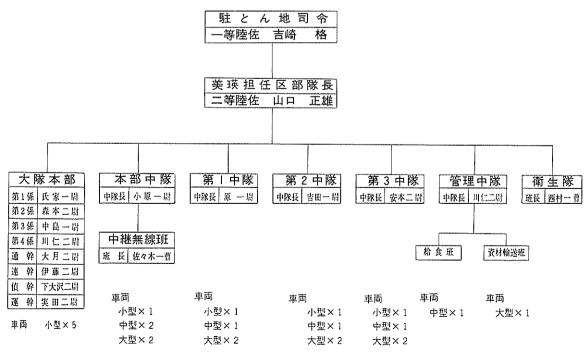
与えられた任務

美瑛川築堤決壊防止及び宇莫別川 土のう積作業



救援活動を検討中の第4特科群作戦室▶

第 120特科大隊災害派遣(防災)編成



#### 第120特科大隊災害派遣(防災)行動概要 • 2 大村地区 聖台ダム 8,5 | 13.05~23.20 無線中継班 本部中隊 佐々木一曹 120 下字莫別地区 3名 車両 | 両 8.5 13.00~15.15 2 中隊 吉田一尉 延35名 4 両 土のう積み 800個 三脚しがらみ全長50m 类接町 9 線 地 区 1(4) • 2 8.5 17.20~23.20 2 中隊 吉田一尉 延35名 4 両 木流し、土のう1,500個 花園町地区 美瑛町役場 8.5 | 15.40 - 23.20 17.15~17.00 8.5 1中隊(+)原 一尉 19 線 地 区 120大隊 山口二佐 35名 3 両 (予備隊 本部中隊基幹) 延55名 8.5 19.20~23.20 土のう積 1,000個 • 全長 70~80 m 3(+) 延44名 土のう積み 2,000個 木流し

#### 第120特科大隊災害派遣(防災)行動表

	時	間	行 動 内 容
ľ	5日		
	8 #	20 分	第2種非常勤務態勢へ移行(駐とん地)
	8	30	第2種非常勤務態勢へ移行(120大隊)
	9	30	人員、装備品等報告
	10	20	第3種非常勤務態勢へ移行
	10	30	偵察班出発準備完了(下大沢2尉)
			10.40 偵察測量幹部出発
		00	大隊長命令下達
	П	33	出発準備完了報告(大隊→群)
:	11	44	美瑛町役場総務課長から出勤要請の調
			整
7	-11	47	上記の件について群へ報告(大隊長)
	12	20	道知事(上川支庁長)から災害派遣の要請
	12	20	聖台ダム補強工事に関する 120 大隊長
			命令下達
	12	20	無線中継班出発
	12	36	2 中隊美暎町へ出発
	13	05	無線車中継車として配置完了
ď	13	20	2 中隊到着配置完了(198~298)
	13	35	2 中隊作業中
	14	14	120 大隊美暎町へ出発(大隊長第3係
			第2係本部中隊、1中隊、3中隊)
	14	50	大隊主力美瑛町下宇莫別到着
	14	55	大隊長、2中隊の現場に進出
	15	15	第2中隊作業中止
	15		大隊は下宇英別にて待機
	15	40	大隊長美瑛町役場に調整出発
ş.	16	00	本部中隊、1 中隊は役場に前進待機

時間	行
17時15分	第1中隊花園町緑橋付近にて護岸工事
	に出発
17 30	第1中隊工事開始
18 05	第2中隊役場に前進待機
19 00	第3中隊役場に前進待機
19 00	第1中隊作業終了
19 20	第2中隊、第3中隊19線(255~205)
	付近の河川護岸工事出発
19 25	第1中隊役場に帰隊、待機
19 30	伊藤 2 尉以下 3 名駐とん地へ出発
19 45	大隊長, 第2中隊、第3中隊の護岸工
	事視察
21 10	大隊長、第3中隊工事現場到着
20 13	第1中隊駐とん地へ出発
20 40	大隊長第3中隊から第2中隊の現場へ
20 43	第1中隊駐とん地到着
21 45	第2中隊、第3中隊作業終了予定
	3 中2205、2 中2300
22 20	第3中隊役場に帰隊
22 25	本中警衛要員出発(内門暫長以下14名)
22 45	第2中隊駐とん地へ出発
23 00	本中警衛要員駐とん地到着
23 20	3 中駐とん地到着
23 22	2 中作業終了し役場到若
23 50	大隊長、第2係、第3係、本中2中美
6日	瑛町役場から駐とん地へ向う
0 30	駐とん地到着
0 30	大隊長、群長に報告

第120特科大隊災害派潰)作業実施内容

日 時	場所	担任部隊	作 業 内 容	作業の効果	使用資器材
	下宇莫別 (198~295)	第 2 中隊 人員 35名 車両 4両	聖台ダムの越流量が大きく(130 t/sec) 宇莫別川が氾濫、町内は約30cmの浸水となり、引き続き増水の恐れがあった為、土のうにより流水方向を宇莫別川本流へ導こうとした。	流水量が大き く期待する効 果は得られな かった。	
5日 1320-2320	花園町緑橋 下流左岸 (181~261)	第 I 中隊 本部中隊 人員 55名 車両 6両	美暎川増水により堤防の欠壊が予想され、民家10数軒流失の恐れがあったので、現有の堤防を補強すると共に、約5m後方に新たな堤防を約50mにわたり構築した。	欠壊を防止した	土のう 1,000袋 杭 木 φ15cm× 2 m 150本
	美瑛川 9 線 (218~247)	第2中隊 人員 35名 車両 4両	美灰川増水により9線付近の堤防欠壊が予想されたので土のうにより堤防を補強するとともに約150 m*木流し、により流水の浸蝕を防止した。	欠壊を防止し た	土のう 1,500袋 杭木等 φ15cm× 3.5 m 300本
	美瑛川19線 (255~205)	第3中隊 本部中隊 人員 44名 車両 11両	美暎川増水により19線付近の堤防が破堤し幅10m、長さ250 mにわたり畑が欠壊したので土のう"木流し、により流水の浸蝕を防止し、被害を局限した。	冠水面積の拡 大と本流の流 下を防止した	土のう 2,000袋 杭木等 φ15cm× 3.5m 500本

( )は部隊座標値

# 給水支援

# 1. 災害派遣の要請

実典町水道の取水施設、及び平和簡易水道の導水管が被災し、7日8時30分断水したため、両水道区域の緊急給水が必要となったが、町のみでは対処困難であるため、8月7日9時15分上川支庁長を通じ派遣を要請し、次に記録する支援を行い8日16時15分に、2日にわたる作業を終了し撤収した。

### 2. 出動まで

8月7日6時30分頃、美瑛町役場総務課長より 第120特科大隊当直幹部に「町水源池の取水施設 が今回の豪雨により土砂で埋没し、町内約2,800戸 が断水中である。自衛隊による給水支援を上川支 庁長に要調する」旨の電話があった。当直幹部は 速かに大隊長に報告するとともに、可動水トレーラ及び使用可能水缶数を掌握し、各中隊に支援準備を命じた。大隊長は直ちに指揮官会同を催して各中隊長に状況を説明し、準備の促進を命じた。8時40分連絡幹部森本二尉を美瑛町に派遣し、細部の調整にあたらせるとともに、給水所要量の掌握に努めた。この間、水トレーラ2両が壁とん地給水点から取水していたが、水の汚濁がひどく、車長が飲用不適と判断して1両は排水した。

9時15分上川支庁長より災害派遣要請があり、 4群行災命が下令され、大隊は給水活動を開始したが、駐とん地給水点が断水してしまった。これは水源地が埋没したもので駐とん地からの取水は不可能となった。群と上富良野町役場との調整により、東中給水点での取水が可能となり全車が東中給水点に直行した。しかし役場職員よりも早く到着したため給水点(消火栓)開閉ハンドルがなく、隊長が付近商店より駐とん地に電話し群補給 幹部(岡田一尉)が、町からハンドルを受領して 駈けつけ取水が開始された。1両目が満水になっ たところで町職員が水質検査を実施したところ、

「飲用不適」であったため排水するなどの混乱があった。2両目からは合格して水トレーラ・水缶に取水した。水トレーラ満水には3~4分しか要しないが、水缶の注水にはホースの長さ、及び足場の悪さ等の障害により10分を要し、第1次支援隊が現地到着から取水完了するまで約1時間も要した。

10時5分第1次支援隊(長下大沢二尉)が、10 時20分第2次支援隊(長松本三尉)が、水トレーラ ・水缶を満タン満缶にして美暎町へ出発した。

# 3. 給 水 活 動

10時30分第1次支援隊は美瑛町役場に到着し、町職員の先導により新星平和地区に転進した。食後の洗いもの等で水を待望していた主婦達はバケツを両手に下げて給水を受けて、約3㎡の水は40分程で空となった。続いて10時50分第2次支援隊が美瑛町に到着し、市街地の給水を開始した。各給水地点には既に町職員がオレンジ色のポリタンクで給水していたが既に殆んどが空になっており、町の広報車の広報により新たにポリ容器・ヤカン等を被災者が持って駆けつけ長蛇の列ができた。

中には自分では運搬できないような大きなポリ



出ました。夜を徹した応急復旧が完了。8日 15時15分蛇口を開いて通水を確認する町長と 大隊長(役場庁舎前で)

バケツを持った子供・主婦がおり、支援隊員の手伝う姿が所々に見受けられ、また主婦から「これで御飯がやっと炊けます。」と感謝の言葉をうける給水組もあった。約30分後には各車とも空になっていた。両支援隊は取水・給水を繰り返し、丸山町・寿町・本町・西町・錦町・中町・花園の約500戸に給水した。新星平和地区には1回のみ部隊が担当し、町との調整の結果自衛隊は市街地を担当することとなった。雑貨屋ではポリバケツ等が飛ぶように売られたらしい。



ごくろうさま。断水の不便さがよく 分りまっす、と給水を受ける住民。

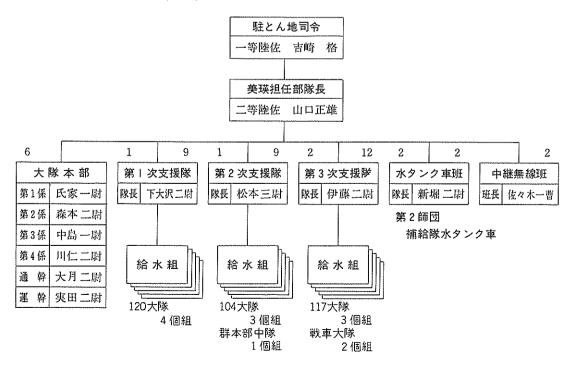
11時30分群行災命により第2補給水車、及び第 2 戦車大隊・第 117 特科大隊から計 5 個給水組の 配属が得られた。駐とん地自身が断水状態であり 特別の配慮であった。11時55分第2補給隊給水車 (長新堀二尉)が美瑛町に到着し、大隊の指揮下 に入り需要の最も多い大通りに配置。13時25分配 属された5個給水組をもって第3次支援隊(長伊 藤二尉)を編成して美瑛町へ出発、13時54分到着 して、旭町、南町・栄町に配置。11時30分~13時の 間は昼食のため最も需要の多い時間帯であり、支 援隊員が昼食をとったのは14時以降であった。 15時17分より第1・第2次支援隊は3回目の取水 のための東中給水点を往復し町民の夕食の準備に 間に合うよう各車満タン満缶にして備えた。15時 20分大隊長は現場視察して町役場で一戸当りの給 水量について協定するとともに、水道設備の回復 の見通し等について承知した。群長が15時30分頃

支援現場を視察し、町民及び支援隊員を激励した が16時までに39㎡を給水している。17時以降は美 瑛町と旭川市の調整により、給水点は美瑛町白金 及び旭川市東神楽浄水場の2カ所となった。この ため往復の所要時間が約10分程短縮されることに なった。共稼ぎ家庭及び早朝からの労働者等の便 宜を考慮して21時頃まで給水活動を実施している。 また翌早朝の給水のため、取水して満タン満缶で 駐とん地に帰隊しているが、全車(最終車は無線 中継車)が帰隊したのは23時30分である。7日総 給水量は約70 t 、給水戸数は約 1,750戸であった。 明けて8日、支援隊は5時25分駐とん地を出発、 5時48分美瑛町役場に到着して町役場専任車付の 先導で市街地にくまなく配置され、給水を開始し た。7時42分大隊長が視察し、需要に波があり、 給水の効率化のため、定時給水等について支援隊 を指導した。7時45分~9時50分第2回目の給水 のため白金、及び東神楽給水点にて取水を実施し て、全車昼食時に一斉に給水し得るよう役場前に

待機した。11時35分第1回目の配置位置と同じく 配置を完了して給水を開始した。この頃から各家 庭とも所要水量を確保したらしく、各車とも空に なるまでの時間が長くなった。13時32分全車役場 前に集結し待機する。

15時、町の水道配水池より送水され、役場全職 員ならびに支援全隊員が見守るなかに、役場正門 入口の水道の蛇口を町長と大隊長がひねると、最 初空気音がしてその後勢いよく通水し、ここに給 水支援任務は終了した。支援隊は役場前広場に整 列し、大隊長は今次災害のお見舞と支援任務終了 を町長に報告され、次いで町長は水害とともに3 日間にわたる支援に対し感謝のことばを申し上げ 15時30分、役場全職員及び町有志の見送るなかを 支援隊は美瑛町を出発した。15時55分全車駐とん 地に異常なく帰隊、16時15分群行災命(撤収)に より2日間にわたる給水支援は無事終了した。2 日間を通じて総給水量は、124㎡、給水戸数は延 べ3,250戸であった。

第120特科大隊災害派遣(給水)編成表



### 8月7、8日災害派遣記録

策 120 特科大隊

8月4日5日の集中豪雨により美瑛

淣 状 町上水道施設(水源池取水施設)に

土砂が流入し取水不能となり断水

断水による市街地及び市街地周辺の 理 由

給水活動

要請及び撤収

要 謝 昭和56年8月7日9時15分

撤 収 昭和56年8月8日16時15分

場所 美瑛町 市街地及び市街地周辺

第 4 特科群 (群本部中隊 第 104 特 派遣部隊

科大隊 第117 特科大隊 第120 特

科大隊)

第2 戦車大隊 旭川第2 師団補給隊

第120特科大隊長 指揮官

二等陸佐 山口正雄

派遣人員 指揮官以下 128名 (64×2日)

派遣車両 27両

与えられた任務 給水支援

### 給水支援人員・車両・装備品等

区分		部隊名	第 120 特科 大 隊	4 群本部 中 隊	第 104 特科 大 隊	第 117 特科 大 隊	第2戦車 大 隊	第2補給隊	合 計
E.4.72	幹	部	4			1	1	1	7
人	陸	illi lai	16	1	6	4	6	1	34
貝	陸	土	10	1	3	6	3		23
		計-	30	2	9	11	10	2	64
	小	型	4			1			5
1 1.	中	型	1			-			l
	大	型	4	1	3	3	2	1	14
间		ā†	9	1	3	4	2	1	20
等	水ト	レーラー	3 (+散水車)	1	3	3	2		13
	水	缶	159	11	53	61	87		371

# 給水所要見積及び給水実績

### 1. 給水所要見積

	給	水丸	線	⋾数		2,800戸	
44	水分	- Ha	自	衛	隊	1,960戸 70%	
平台	ハカ	167	美	瑛	町	740戸 30%	
			必要	給水所	一要量	1,960戸×40ℓ=78m³	
			必	要し	、貝	64名	
			車		阿	小型×6 中型×2 大型×14	
自	衛	隊				水トレーラー(1 m²)×12=12m³	計 26m'
			能		力	散 水 車 ×1 = 3m <sup>3</sup>	#1 20m
			ne		/3	水タンク車 ×1 = 4m <sup>2</sup>	26m¹×3 回=78m¹
						水 缶 ×3.71= 7 m³	2011 / 0 [2] / 0 11

### 2. 給水 集 績

				7 日	8 H	<b>計</b>
,	****		給水対象戸数	1,750戸	1,350戸	3,100戸
自	衛	隊	給 水 還	70m³	54m <sup>3</sup>	124 m³
			給水対象戸数	550戸	370戸	924戸
Œ	瑛	ET	給水量	22 m³	14.8m¹	36.8m³
			給水対象戸数	2,300戸	1,720戸	4,020戸
	計		給水量	92m³	68.8m²	160.8m³

通水確認後整列して支援任務完了を報告。 町長から感謝のことばが述べられ、町全職 員から慰労する惜みない拍手が送られた。



(8日15時20分、庁舎前で)

## 給水支援時程表

時 刻	内 容
7日	
6時30分	美瑛町より断水状況通報
7 00	大隊は給水支援準備を開始
8 40	連絡幹部(森本二尉)を美瑛町に派遣
9 15	道知事(上川支庁長)より災害派遣要請
	4 群行災命下令 駐とん地断水
	水トレーラ東中給水点にて取水を開始
09 20	無線中継車美瑛へ出発
09 50	無線中継局開設
10 05	第1次支援隊美瑛町へ出発
	(水トレーラ×4 散水車×1)
10 20	第2次支援隊美瑛町へ出発
	(水トレーラ×3)
10 30	第1次支援隊給水開始(新星平和地区)
10 50	第2次支援隊 " (市街地)
11 30	4 群行災命により第2 補給隊給水車(4
11 55	m') 2 次大隊トレーラが配属
12 50	第 2 補給隊給水車 ( 4 m²) 美瑛町到着
	指揮下に入る。
13 25	美瑛町市街地約500戸給水(12.30現在)
13 54	第3次支援隊美瑛町へ出発
	(水トレーラ×5)
	" 給水開始 (市街地)
15 27	大隊長駐とん地出発 美瑛町へ
15 58	大隊長美瑛町役場到着、調整及び現場
	視察
16 00	総給水量39m³ (16:00現在)
17   10	白金給水点からの取水開始
18 15	東神楽給水点からの取水開始
18 20	大隊長美瑛町出発 帰隊
21 53	第1次支援隊給水終了美瑛町出発、帰隊
22 53	第2次支援隊 " "
22 59	第3次支援隊 " "

_			······································
ĺ	群	刻	内 符
	23 <sup>p</sup>	∮30 分	支援車両全車駐とん地到着
	23	40	無線中継車駐とん地到着
			7日の総給水量70m <sup>1</sup> 、戸数 1,750戸
ا	8 E	1	
	5	10	無線中継車 美瑛町へ先行
	5	25	本隊駐とん地出発(水トレーラ×12、
			散水車×1)
	5	48	本隊美瑛町到着 給水開始
	7	12	大隊長駐とん地出発、美瑛町へ
1	7	42	" 美瑛町到着 現場指揮
	7	45	第1次支援白金給水点にて取水開始
	8	00	第2次支援隊 "、"
ı	8	10	第3次支援隊東神楽給水点にて取水開
			始
	9	15	第1次支援隊取水完了 美瑛町到着
	9	22	第2次支援隊 " "
	9	34	第3次支援隊 " "
	9	50	全車取水完了 役場前に待機
	Н	35	全車一斉に2回目の給水開始
	13	32	全車給水完了
	15	00	水源池不良箇所排除完了 水道通水成
			功
	15	15	支援終了報告、美瑛町長より謝辞
	15	25	町民、職員の見送りのなか美瑛町出発
	15		全車両駐とん地到着
	16	15	第2補編隊給水車、旭川駐とん地に到
			着
			道知事(上川支庁長)から撤収要請
			任務終了
			総給水量 124mi
			給水戸数 3,100戸
***************************************			使用車両 23両(小型×7 中型×
			2 大型×14)

# 被害の状況と対応策

# 1. 被害報告

災害発生と同時に関係住民・行政区長・その他 からの情報と雨量等をもとにして、農作被害につ いては、直ちに町と関係機関により11班を編成し、 他の被害と合せて地区毎に調査を行った。

また農地、農業施設及び土木施設等の被害は、 5日6日の両日町関係課が現地調査を実施した。 これをもとに上川支庁に速報を行うとともに、被害の程度が判明次第、電話等で遂次追加訂正をし、さらに行政区長会議を開催し被害状況の報告を求め、現地再調査を行い、各団体、行政機関の連絡協議を進めながら中間報告を行い、最終的には8月29日11時現在で、次表のとおり被害状況を取纏め道に報告した。

## 被害状况報告(最終)

1774 2-4		(1)				_							
災害の	原因		8月4日. 5	日集中	豪雨	災害	発生日時			8 月	B	時	分
災害発生	医場所		美瑛町内	у — [1]								*******************	1111
報告の	時限		8月29日	11 時 現	在	発受	と信日時			月	В	時	分
発 信	機関		美 瑛 🏻	丁 役	場	受力	宮 機 関						
発 信	者					受	信 省						
Ąį		B	件 数	被害金	額(千円)	非	Ŋ	•	E	件	数	被害	金額(千円)
奼		右		1.氏	名	住	全		堫				
行 ガ	* 不	明		2.性	<b>73</b> 1	家被	<u> </u>		墩				
M		W		3.年	隃	客	ń	ŀ					
経		(lig		4.原	因	農	農地	E	[		10 ha		70,000
	ii-					業	THE THE	灯	1		30 ha		105,000
	棟	数				被	alte /f.e.th/	B	1		58)ա		12,788
全 壊	世者	节 数				害	農作物	ł	=	1	,080 ha		364,507
	٨	И		*			道	河	Л		132		1,190,000
	椒	数				土		道	路		3		100,000
半 墩	世十	告 数					エ	橋	梁				
	人	Ц				木	112	小	끍 -		135		1,290,000
40	棟	数				被	市	河	J1		34		463,181
· · · · · · · · · · · · · · · · · ·	世名	带 数				str		道	路		73		370,614
破 損	人	H				響	町 村 工 事	橋	梁		10		76,454
床上	棟	数	15				न	小	#I		117		910,249

	世帯	5 数		15				į	+	252	2,200,249
浸 水	人	貝.		48	1	0,000	水	SH.	沈 没		
H	棟	数		30			水産被害	漁	流失		
床下	世州	5 数		30		4,000	事	船	破損		
浸水	人	貝		114			-	農業月	月被 害	20	463,433
	棟	数		45			その	衛生施	i散被害	5	30,000
<u>i</u> il.	世書	5 数		45	1	4,000	Ø)	山林	被害	1	1,500
	人 貝 162				他	ñ	ł –	i kije i mer i gjer i stiji i s	3,261,477		
	内訳	···		土 7	片 被 害	( ř	j 町	村工	युद्ध )	の内訳	
区分			#:		木		農業	生力	k	都市	村 計 画
河	Щ		34 件	46	3,181千円		件	*	千円	件	千円
道	路		54	25	8,114		12	108,	500	7	4,000
橋	梁		3		454		7	76,	000		
ត់			91	72	1,749	\$1.23 C	19	184,	500	7	4,000
	内訳			そ	の他	の	内	訳			
区分			水		道		農業	卷 土 2	<b>木</b>	農	林
農業用	被害		件		千円		20件	463,	433 千円	件	千円
衛生施設	设被害		1	1	0,000		4	20,	000		
山林	被害									1	1,500
ja ja			1	1	0,000	20000	24	483,	433	1	1,500

※農作物被害の内訳は農林業被害と対応策の項に掲載した。 ※山林被害は治山施設被害の項に掲載した。

# 土木被害報告 (市町村工事の部)

凡例 O…道路×…河川△…橋梁

					7672 -		
整理 No.	工机	市町村	大 字	河川路線名	工法概要及び被害額積算内訳	被害報告額	摘要
1	0	美瑛町	明治	(前川地先) 宇英別明治線	L=120 m W=5.5 m	千円 15,000	
2	0	n	朗根内	(九線橋地先) 即根内上依真市線	L=55m W=5.5m V=3.000m (全応急)	10,000	
3	×	II	滕 山	(稲川地先) 字英別川	L=300m 蛇篭護岸 (左岸)	75,000	
4	×	n.	"	(盛 地先)	L=220m " (両岸)	45,000	
5	×	"	從杵牛	(協英橋上流地先) 置杵牛川	L=300 m 連結プロックA=3,000m	45,000	
6	0	Ħ	中本	(大曲地先) 美瑛阿満線	L=100m 横ブロックA=300m <sup>*</sup>	20,000	
7	0	B	"	(土井地先) "	$L = 140 \mathrm{m}$ $y = A = 420 \mathrm{m}^2$	30,000	
8	0	11	夕 張	(谷屋地先) 美瑛五稜線	L=23m W=5,5m (全応急)	3,000	
9	×	11	j)	(太田地先) 夕 服 川	L=71 m 樹ブロックA=210m (両岸)	14,000	
10	×	11	"	(東 地先) "	$L = 600 \mathrm{m}$ $n = 1,800 \mathrm{m}^2 (n)$	96,000	

整理	工紙	市町村	大 字	河川路線名	工法概要及び被害額積算内訳	被害報告額	摘 要
No.	_11711			(岩田地先)	L = 120 m	千円	
11	×	美瑛町	美 田	美 田 川	程プロック A=360m'(画岸)	25,000	
12	×	n	n	(水口地先) "	L=100m 連結ブロックA=1,000m'( " )	8,000	
13	0	n	中本	(江花地先) 美獎阿満線	L=115m 積ブロックA=345m <sup>t</sup>	23,000	
14	0	11		(中本橋①地先)	L = 90 m	18,000	
				# (美瑛川 K P 灿地先)	H = 167 m A = 270 m <sup>2</sup>		
15	0	B	"	# (美瑛川KP%地先)	n A = 500m³ L = 210 m	35,000	
16	0	n	n	f)	$n = 630m^2$	50,000	·····
17	×	n	俵真布	(稲辺地先) 俵真布川上流(その1)	L = 75 m 連結プロック A = 600m <sup>r</sup>	8,000	
18	×	n,	IJ	//	L = 100 m " A = 800m <sup>t</sup>	11,000	
	×	В	[L]	" 下流(その2) (入江地先)	L = 180 m	27,000	
19		,,	#茶 (L)	藤 山 川	積ブロックA = 540m <sup>e</sup> 【内転属C = 8,321千円 56災1次第	27,000	
20	×	n	美馬牛	(佐藤地先) 美馬牛中の沢川	329号 L=76m 桁ブロックA=185m <sup>1</sup> )	15,000	
				(下川地先)	L=134m (左岸) 秋ブロックA=325m' L=70m W=5.5m (7.0) m	9,000	
21	0	11	ルベ	新荣新星線 (西出地先)	(内応急) L=233 m		<u></u>
22	×		シベ	ルベシベ三線川	役プロックA ≒950㎡	33,000	w²
23	×	n	俵真布	(畑野地先) (長真布川	L=78 m - 種ブロックA=320 m <sup>*</sup>	11,000	
24	0	п	自 金	(両泉橋地先) 白金美瑛線	L=90m 法面工(張芝工) A=200m <sup>2</sup>	9,000	
25	×	n	置梓华	(餌取、砲台橋地先)	L = 160 m	9,600	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
			"	置件牛川 (桑尾地先)	連結ブロックA = 960m <sup>4</sup> L = 300 m	18,000	
26	×	н		(石井地先)	n A = 1,800m <sup>2</sup> L = 130 m		
27	×	n	旭	ポン旭川	積ブロックA =330㎡	14,300	
28	×	ŋ	美國	(1号橋地先) オマン川	L = 20 m " A = 30m <sup>2</sup>	2,000	
29	0	,,	ルベシベ	(横山地先) 美馬牛ルベシベ線	L=13m W=4.0 (5.0) m 法面工(段栅工) A=170m <sup>2</sup>	3,000	
30	0	JJ.	みどり	(滝沢地先)	L=20m W=5.0 (6.0) m	2,000	
	<u> </u>			みどり線 (嵯城地先)	フトン窓 A = 15m 法而工 A = 100m L = 90m、歩道W = 2.5m	4,500	
31	0	11	新区面	新区画下宇英別線 (竹内地先)	法面工(段棚工) A = 630m <sup>2</sup>		
32	0	"	美馬牛	新栄新星線	フトン篭A=23m′	3,000	
33	0	н	n n	(周東地先)	$L = 20 \mathrm{m}$ $n  A = 15 \mathrm{m}^2$	2,000	
34	0	11	11	(佐藤地先)	L = 50 m  n A = 32m <sup>2</sup>	5,000	
		t Marie	S SAL A	34 分所	70 道路17 步所 241,500千円		国库負担
	<b>a</b> l'	3 1 3			※河川17ヵ所 456,900 #	698,400	申請予定
	×	美瑛町	阳一阳	17ヵ所	利用工作	6,281	
	-		即一印	37ヵ所	道路工事	16,614	
	Δ	11	ıı.	3ヵ所	<b> </b>	454	
					河川 17ヵ所 6,281千円		
	āł			57ヵ所	道路 37 本 16,614 // 橋梁 3ヵ所 454 //	23,349	町単独費
	l	57,000,000		2323 CT (1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	河川 34 万所 463,181 千円		
11	ilt			91分所	道路 54 本 258,114 // 橋梁 3カ所 454 //	721,749	

Г		衼	災		<b>†</b>			助		<del></del> 分		·	4		担		分		
区	1 災害力所及び数量	(復	18)	_		緊急実	· 一	年 内	実 施 分	明年	以降分		_	緊急実施分(專		年内集	施分	明年	以降分
分		金	額	カ所数	金 額	カ所数	金	頁 カ所数	金 額	力所数	金 鎮	力所数	金 額	力所数	金 額	カ所数	金 額	カ所数	金 額
	募對第 1 地区右岸222.5M 左岸165.7M	10	6,878	1	16,878			ī	16,878										
	蘇野第2地区右岸139.0M 左岸36.0M	!	5,347	l	5,347			1	5,347										
-	蘇對第 3 地区右阜416.1M 左阜416.1M	2	4,908	1	24,908			1	24,908										
用	拓殖地区明果排水上=14.75		1,500	1	1,500					)	1,500								
	旭 1 地区 " (右岸) L=12		800	1	800					I	800								
	北斗第1地区排水路L=25	1	5,000	1	5,000	***************************************				1	5,000								
排	北斗第2地区 " L=25	ļ	5,000	1	5,000					I	5,000								
	北斗苑 3 地区 " L=60	Ti	2,000	1	12,000					1	12,000								
	北斗第4地区 n L=70	Į.	4,000	1	14,000					1	14,000								
水	北斗第5地区 " L=60	В	0,000	1	000,01					****	10,000								
	北斗第6地区 n L=60	- 11	0,000	1	10,000					1	10,000								
	北斗第7地区 n L=250	31	0,000	1	30,000					I	30,000								
路	西美第1地区 n L=60	1:	2,000	1	12,000					ı	12,000								
	西美第 2 地区 " L=60	1:	2,000	1	12,000					1	12,000								
-	西美第 3 地区 " L=60	1:	2,000	1	12,000					I	12,000								
	夕 張 地 区 n L=220	J:	8,000	1	18,000					ı	18,000								
	旭第6地区 " L=60		7,000								}	-1	7,000					ı	7,000
	小 計 17ヵ歳	19	6,433	16	189,433			3	47,133	13	142,300	- 1	7,000					1	7,000
	オキキ1地区(播地先)道路工L=200流失	ŀ	0,000									1	10,000						10,000
	オキキ 2 地区(桑尾地先)道路工L=50沈液		5,000									i	5,000						5,000
道	オキキ3地区(餌取地先)道路工L=50流失		5,000	1	5,000					I	5,000								
	オキキ4地区(伊藤地先)道路工L=60流失		6,000									-	6,000					- 1	6,000
	オキキ5地区(坂田地先)道路工L=80歳失		8,000									ı	8,000					1	8,000
	北瑛 3 地区(吉本地先)道路 L=300M		4,500	1	4,500					1	4,500								
	美瑛原野第2地区路肩崩壊4ヵ所し=80	i	0,000	1	10,000					*	10,000								
Ì	明沼地区路肩崩壞 2 ヵ所 L=20		5,000	ı	5,000			_		ł	5,000								
路	美瑛地区路肩崩壞 1 ヵ所 L=30	-	2,000	I	12,000					1	12,000								
	ルベレベ 3 地区(横山地先)道路工L=30		2,000	1	12,000						12,000				_				
	法面崩壞360m Vトラフ 600型L=14	<u> </u>		<u>'</u>	12,000		<u> </u>		<u> </u>		12,000	<u></u>		}	1				

1	······························	被 災	]	* *	ì	£	<del></del>	-14	i)			単		独		****		
X	災害カ所及び数量	(挺 旧)			緊急実施	6分(導決)	年 内	爽 龅 分	明年			4	緊急実施	分(專決)	年内集	<b>泛施分</b>	- 明年	以降分
分	, <u> </u>	金 額	力所数	金 額	カ所数	金 額	力所数	金 額	力所数	金 額	カ所数	金 額	カ所数	金 額	カ所数	全 額	力所数	金 額
	ルベレベ 4 地区(佐藤地先)道路工L=7		1.	2 000					1	3,000								1
道	法面崩壞	3,000		3,000					1	3,000								
	美開地区(利用促進事業)道路上=30	28,000		28,000					1	28,000								i
路	法面崩壞360m 测構L=300 表土流亡300m	20,000	'	20,000						20,000						Parlation to transce		
	小 計 12ヵ所	108,500	8	79,500	WE TO				8	79,500	4	29,000					4	29,000
	下精美農道橋(寺島地先)L=12 W=4.0	13,000	1	13,000					1	13,000								
極	オキキ川向1号橋(高橋地先)L=12 W=4.0	12.000	<u> </u>	12,000					ı	12,000			<u> </u>					
Paris .	オキキ川向 2 号橋(下司地先) L=12 W=4.0	10,000	1	10,000	(1)	1,884			ı	8,116					*			
	オキキ川向 3 号橋(餌取地先) L=11 W=4.0	11,000	i	11,000					- 1	11,000						<u> </u>		
	オキキ川向 4 号橋( n ) L = 7 W=4.0	8,000	ı	8,000					I	8,000								
	オキキ川向協英橋(増井地先)L=12 W=4.0	12,000									1	12,000					1	12,000
菜	美沢川向農道橋(田畑地先)L=8 W=4.0	10,000									I	10,000					1	10,000
	小 計 7.5所	76,000	5	54,000	(1)	1,884		10 10 10	5	52,116	2	22,000					2	22,000
	清富地区取水箱設1基及び送水管L=50	4,000									ı	4,000					<u> </u>	4,000
営農	清富地区送水害及び配水管 L=500	10,000	1	10,000					ı	10,000								
用水	新栄地区 n n L=100	3,000	1	3,000	(1)	248		<u> </u>	ı	2,752								
宮農用水施設	妙見地区 n n L=100	3,000	ı	3,000	(1)	1,455			ı	1,545								
S.C.	小計 4ヵ所	20,000	3	16,000	(2)	1,703			3	14,297	1	4,000		691,000	2000	13.00	(1)	4,000
M	超頭首工 1 基導水路 土砂吐可動15M 固定28.5M 邊學護床	220,000	i	220,000			(1)	20,000	ı	200,000		viiiiw.	C-two-					
首	指牛頭首工1基 床止工65M 護岸護床	45,000	) 1	45,000			1	45,000	1									
I	小 計 2.5所	265,000	) 2	265,000	1981111	100,000,00	(1)	65,000	1	200,000	38400U							
水路	中字地区(排水路) L=40M	2,000	) [	2,000					***	2,000						<u> </u>		
路	<b>小 計</b>		ı	2,000	90.00				- 1	2,000	100000							
	台 計 42ヵ所	667,93		605,933	3	3,587	- 5	112,13		490,213		62,000					8	62,000
農	烟震地流失及埋没25戸 A = 20.5ha	35,00	(8戸) 14.9	23,000		-	(1戸) 4.9ha	7,03	(7戸) 10.0hz	1 10 000	(17戸) 5.6ha	1 12.000					(17戸) 5,6ka	12,000
	烟 全 9.5ha	70,00	}								9.5ls	70,000					9.5ls	70,000
地	田 仝 10ha	70,00	)								10 ha	70,000	)			S Value vo co-	10 ha	70,000
	2† 40ha	175,00	) 14.9ha	23,000			4.9ha	7,09	loloh	a 15,909	25.1	152,000					25. I ha	152,000

# 2. 被害の概況と対応策

被害は全町的でそのすべてを詳述することはできないが、特に被害の激しかった箇所を、地元住民が行った対策、作業等を中心に記録する。

### (1) 市 街 地

8月4日17時10分幸町4丁目の道路側溝、用 水路の溢水がはじまり、ごみ、流木を除去し、 土地改良区が取水樋門を閉じた。16時15分に扇 町小野地先畑の浸水がはじまり、2号幹線都市 下水路の請負業者が出動した。

8月5日5時10分扇町小野地先の浸水が増加



東町公営住宅地浸水による排水掘さく作業 (5日8時、現地)

して消防署と土地改良区で、原野頭首工のゲート揚げ その他の処置を行った。

また錦町杉山地先、東町公住地先の取付道横 断工が目詰りし、浸水の恐れあり大口径管に伏 設替えを行い、東町5号線中村地先のごみ、流 木除去と法止工を実施したほか、市内の低地帯 で3戸程度の床下浸水があり、この処置を行っ たが、市街地主要部においては大きな被害はな かった。これは市街地の都市下水路整備の効果 が発揮されたものと思われる。市街地で最も被 書の大きかったのは、扇町より大町迄の置杵牛 川と、花園5丁目から同4丁目の美瑛川沿いで ある。

扇町小野地先は、工事中の樋門で置杵牛川の 増水著しいため内水が排除されず冠水激しく、 11時42分に家財を2階に移し、下流北町植松地先に内水が流下し、同宅も床上浸水となり13時15 分避難命令を出して、小野家は町民センターに 一時避難したが、夜は自宅2階で過したようで ある。植松家は近くの親戚に避難した。下流大 町の中橋家も床下浸水となり砂利盛等で流れを 止めた。

超水は6日より減りはじめ7日朝には引いた。 花園4丁目1番線花園橋上・下流に浸水し、近くの住宅が危検で、17時30分頃より町職員、自 衛隊・業者・地元住民で土のう積みを120mにわ たり実施、19時30分に完了、浸水をくい止めた。

花園5丁目、美瑛川左岸は、花園築堤の工事中で、藤原行政区長が6時に河川を見廻ると、増水中でみるうちに水かさが増すので、近くの請負業者に通報した。7時30分より重機で土盛りをしたが増水で効果なく中止した。正午過ぎ町職員も現場に来たので応急対策を要請した。

町と協議して、とりあえず木流しの材料は民地より町内住民約20名で伐採搬出した。間もなく数業者の人夫が30名程度増員され、自衛隊、消防団も現場に到着して本格作業がはじまった。

緑橋下流約 200mに土のうを積み、前面に木 流しを行い、三基枠30基を設置した。

夕食は町で炊出し90食分で不足したようで、 土のう約 1,300袋その他多数の資材を使い19時 頃完了した。この頃より減水しはじめ最高は16 時30分頃で河岸近くの渡部家の風呂等一部が床 上浸水したほかは大きな被害はなかった。

見物人・見舞等の車で橋の前後が交通渋滞となり、その整理に苦労した。その後築堤工事は 11月に完成し今後の憂いはなくなった。

### (2) 姜 瑛 川

### 1) 旭地区

5日6時30分大雨が続いたため、中村行政

奏換川の洪水で 4.6haの畑が流失された旭第6 中地先。年間の収穫は早穫りの芋 0.6haと高台 の 0.7haのみだった。(8月6日写)



区長代理(入院中の行政区長は、状況を見る ためタクシーで一時帰宅した)が状況を見た ところ、各所の増水が激しいので、ただちに 消防団第3分団長と区役員に連絡をとり幹部 が集合し、区域を一巡した。この時旭第6中宅 には林道入口から既に1m以上の水深で本流 化して孤立し行けなかった。第6の寺林地先 畑は1ha流失・後藤地先田1ha冠水・田代地 先が浸水しそうであった。

事態が急なので11時町へ連絡し重機と土の うの現地搬送を要請した。

13時30分に消防団員22名・14時に区内住民を招集して、美瑛川他の対策にあたったが信岡・田代地先に約20名で土のう 100袋を積んだが、ますます増水し処置の仕様なく切り上げた。旭第6古川地先より、14時頃美瑛川から浸水して、同川と道の間が冠水し、岩根謙三宅が床下浸水、地区と団員13名で家財を移し替えたが、かろうじて床上浸水を免れた。

おなじころ高林地先田畑に本流が分れて流入し約 1.7haが流された。また中地先は孤立のままで方法がなく、電話で連絡をとりあったが、ぎりぎりで床上浸水に至らず約 4.6haの畑が流失され、収穫皆無で予定した秋大根の蒔付もできず、わずかに早穫りの馬鈴薯0.6haと高台の薯 0.7haのみの年収穫で、最も被害が大きかった。

16時に至り遂次減水し翌日6日に冠水地の 跡始末を約20名で行った。

### 2) 美沢地区

美瑛川 9 線左岸は、藤野鴻上氏が自宅より 望見していたところ正午過ぎより欠壊がひど く、16時頃町に電話通報し、17時頃町が現地 を調べたときは、天端が欠けはじめていた。

ここが破堤すると、原田家、白土工場・美 沢橋工事宿舎等が危険となるため、自衛隊、 消防署員の出動を求め応急措置を実施したが、 この状況は、別項で記述したので省略する。 前記関連者20名程度が、町民センターに避難 して一夜を明かした。

美沢19線左岸が最も危険であった。20線地 先の欠壊も激しかったが、後背地の畑が高く 破堤しても流水の浸入がないと判断し19線の 対策に集中した。大正3年の水害、大正15年 の十勝岳爆発のときも、ここから洪水となり 小学校より美沢橋迄一挙に浸水する低地であ る。



破堤カ所で浸水防止の土のうを積む住民・開発局・自衛隊ら(美瑛川·美沢19線田村地先)

美沢16線照本氏は、大雨が続き河の方向で石の流れるようなごろごろと異様な音が聞えるため、ジープで日の出橋に行き美瑛川を見ると、河幅が普通の4倍もあり、みるみる増水するため20線の用水門をみるため築堤をジープで逆のぼった。

19線の堤防は3分の1ほど欠けて、水面は田村地先畑の高さと同じくらいであった。ジープを傾けやっと通り20線に近づくと河一杯が水で滝のように押し寄せ、洪水を車ごとかぶると、驚いてバックで退避し、19線より道道を回り20線の床止めのある美瑛川に廻った。

見ると河幅が3分の1となり床止工のすぐ下に流木が生木で3-4本重なり、河幅一杯となり20線左岸付の流木堆が3分の1程流れて深く洗堀され、そこが激流となっていた。この間20分ぐらいの出来事で先の大水が嘘のようである。これは床止下流に流木が積み重なり、水かさが増したが、3分の1が流れ急にダムアップが減じたものらしい。急ぎ帰り15時頃町と関係者に連絡した。15時30分頃美聖橋では水が河中一杯で堤防の天端迄水跡があり、約0.5m下っていたが、水面が外カーブに盛り上り乍ら水面が傾斜して流下する激流に、水の作用の不思議さを感じたそうだ。

一番出水の多かったのは、14時から15時ぐ らいのようだ。

両区長より部落全員の集合命令が出され、18線現場に、約100名トラック10台程度が出動したのは16時頃である。その後町職員の指示により、美沢川向で土のう作り、美沢16線で木流材の伐採運搬を行い、地元労力では間に合わないため自衛隊を要請し、そのうち自衛隊旭川開発建設部職員も到着し、危険をおかして木流し、土のう積み等を実施した。幸い作業が一段落したころ著しく減水がはじまり、11時30分保安要員を残して解散し、各人は自宅又は会館待機にした。夕食は握りめし夜食はパンが町から給食された。このほか美沢会館で同婦人部10名による炊出しを受けた。作業の状況は他項に記述したので省略するが、資材は土のう3,000袋立木500本、開発でブ

ロック50箇、その他多数が使用された。

保安要員5名は、6日5時まで警戒にあたり開発建設部作業員が現場に到着したので撤収した。町より避難命令が出て、美聖小学校に避難したが、現場ではこれを知らず、作業途中で着替えに帰り、施錠してあるため窓を破って自宅に入り、後で家族から大目玉を喰った者もいた。

### (3) 辺 別 川

### 1) 旭地区

中村区長代理は見廻りの結果、旭頭首工の 危険が予想されたので、小路氏に連絡した。

西神楽土地改良区役員3名は現地へ行き警戒にあたったが、導水路が欠壊の危険が生じ14時総代6名を招集し、住民20名・消防団5名の応援を得て、16時までに土のう約200袋を積んだ。このことについては別項で記載したので省略する。

旭第4青島地先が最も危険であった。ここから昭和22年と23年にも洪水となり、旭小学校・旭中学校から旭中央石崎地先より辺別川に戻る、大面積が冠水したところである。

地先の背島氏が5日昼頃河を見ると増水中 で、流れが普通と変って堤防に向かっていた。

15時から16時にかけて、高水敷が欠壊しは じめた。22時頃築堤の欠壊がはじまったので、 隣の部落会長に連絡をとった。水位は高水敷 がかくれていた。

行政区長代理・消防団らは美瑛川・旭頭首 工等の対策、町との連絡・警戒にあたってい たが、昼20食・夕70食の炊出しで腹ごしらえ をして夕刻、消防団と役員は消防番夜待機、 一般住民はいったん帰り自宅待機していた。 22時荒川部落会長より、背島地先欠壊の通報 あり全員出動する。この時旭第4の旧道で山 崩れがあり旭川が埋塞したが、この処置は後回 しにして町に資材、重機類を要請した。刻々 増水し欠壊が進むので 0 時全戸動員し、 6 日 1 時に約90名が集結した。

一方町本部では、地元よりの通報により技 術職員を派遣した。現場に到着したのは17時 頃で堤防法足半分が欠けていた。状況を本部 に報告するとともに機械等の手配を連絡する。 町よりユンボが来たので近くのポプラの大木 を倒して運搬木流しをしたところ、効果が大 きかった。

6日1時には地元住民も出動、午後から美 瑛川などの対応にあたり大変であった。

この頃は築堤の半分が欠壊して、ハンドレベルで水位を測ると堤内の田面より河の水面が1m以上高く、破堤すると下流全域が水浸し人命にも危険があるので、本部に連絡して3カ所を指定し0時40分避難命令を出した。

旭第1金平地先河川敷、旭第7元石井地先より柳を伐採運搬し木流しを実施したが、破堤した場合に堤内浸水を阻止するためブロックを積むことにした。2時地元トラックで共和コンクリートよりブロックを運搬し、欠壊箇所の堤内排水内側に、河の水位と同じ高さ約1m延長25mにわたり積み上げ、町トラックで運んだ砂利で土のうを作りさらに補強した。

破堤が始まった旭第4 青島地先で木流し作業を進める地 域住民 (8月6日写) 5 時頃築堤は天端が欠け法のみとなったが 幸い小雨となり、水量も多少減ったので作業 を打切り、後は旭行政区役員と消防団 4 人で 警戒にあたった。他にも被災はあったが手は 廻らず見廻り警戒を行った。

6日朝町本部は交替して職員を派遣し、辺 別川下宇莫別鉄道橋下流、旭青島地先、旭小 学校裏を見廻り、業者とブルによる締切と木 流しを指示した。

旭行政区では6日8時より区と部落会役員12名が木流し用柳を伐採運搬して、町より派遺された業者に渡した。続いて消防団とともに交替で見廻りし7日朝、業者が来たので団員は解散し幹部は14時まで見廻りした。区長代理、青島分団長、平田副分長の3名は2日間不眠の作業であった。

6日正午に河川事務所課長と現場で会い、 中村区長代理は、町職員とともに早期復旧を 要望し被災写真を渡した。

業者に指示した応急作業は7日午前までかかり、午後から河川事務所により災害測量が行われた。8日に再度事務所課長と会い陳情した。

旭川市側の旭岡橋の上・下流も本町で応急 措置を行った。

6日は町より炊出しもあったが、旭でも朝 50食、昼 100食程度炊出しを行った。

避難命令解除は8時でそれぞれ帰宅した。



### 2) 朗根内地区

5日8時俵真布友田氏から8線大渕地先が 欠壊中だと白川区長に電話があった。

早速車で俵真布側からみると低水敷法が欠け、築堤は健在であった。このとき九線橋は 橋脚工事の矢板が折れ曲り橋台側の新しいブロック護岸がぶら下り欠けはじめていた。工 事の矢板が影響して本流が二つに分かれ朗根 内側に激しくぶつかっていた。

10時各部落会長に電話連絡して13時全員大 渕地先に集合した。消防団員も同時に出動し た。一部を河川の見廻りと警戒にあたらせた。

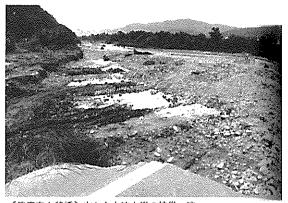
13時30分九線橋が危いというので見ると、 ブロックは流失してしまい橋台の矢板はもって いたが、橋の下流 100mの築堤法が半分かけ 朝の倍くらいの水かさで高水敷より 0.3mぐ らい高かった。

俵真布15線に役場職員が来ていたので直接 連絡して、九線橋現場で協議し木流しを行う ことにした。

柳は地元で採取して堤防上に積み、鉄線・ 杭等の資材を町に要請。この頃(15時30分)激 しく橋下流の仮堤(橋台工事中)が50%ぐら い欠け、近寄ることができない状態となり、番 線、抗等が届いたが、堆積してあった粗朶柳 は流失し、木流しはできなかった。

17時町本部にダンプ・ブルドーザーを至急 要請し築堤内に盛土を行い浸水を防止するこ とにする。現場にあった佐藤林業の小型ブル を使用するも効果なく、町のダンプが3台到 着したので、九線橋架換業者の現場にあった ユンボと市街地よりユンボが着いたので、堤 内河川敷より土取りしダンプで運搬盛土に17 時30分頃より着手した。

間もなくブル2台、ショベル1台も到着したので、3台で堤内を堀り築堤に腹付盛土を



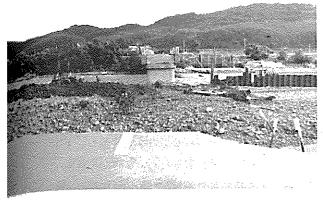
〔俵真布九線橋〕左から上流右岸の被災・流 失した朗根内側の取付道路・下流右岸の被災

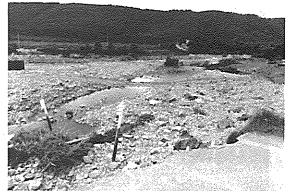
開始した。19時頃下流築堤が破堤する。橋の上手は、イタヤの大木が流れて来て低水敷護岸に引っかかり、水流が変って高水敷が洗堀され、俵真布側の川底に砂利が溜り出し、20時頃上流の築堤も破堤した。21時頃迄にブル3台が相次いで到着し、上下流で同時に、盛土作業を続けた。九線橋取付道路は20時30分頃より欠けだして、6日1時完全に欠壊し通行不能となる。朗根内大用水路に洪水が流入すると、市街地迄が直撃されるので懸命の押土作業を続けたが、下流側はついに流れが浸入し機械を道路に退避させた。水は堤内を流れ田畑に浸水しはじめた。

20時頃町本部より住民避難の協議があり、 様子をみていたが、このような状況になった ため、本部に連絡し7日2時10分に明徳小中 学校を指定し全住民に避難命令を出した。広 報はサイレンを鳴し、消防車のスピーカーを 使うとともに、現場に集結していた住民のう ち責任者7-8名を残して帰宅させ、家族の 避難にあたらせ、150名程度明徳校に集結し 朝8時解除になるまで眠れぬ一夜を明かした。

水量は6日1時から2時迄が最高であった と思われる。大用水に流入せぬよう橋の取付 道路の半分を切り様子をみたが、結果的には 全部を切らなくて済んだ。橋の下流より堤内

6日午前 | 時遂に右岸取付道路を流失。7日から全応 急で工事を進めた。国鉄バス朗根内線は5日5便から運 休、9日から14日まで九線橋で折返し運行となった。





に流水した水は、水深1 m以上となり下流に 冠浸水が拡大され宮島・亀井地先に達し、放 置できない事態となった。

2時30分に橋の下流 600mの8線道路にユンボを廻し、浸水の中をようやく渡り3時頃約2m幅に築堤を開さくして、浸水を堤外に流したところ大きな効果を発揮して、下流の浸水をくい止めた。築堤は6日昼に修復したが、これもやむを得ない緊急措置であった。

2時頃より小雨となり若干減水の兆しがあり、4時頃よりブルで堤内に小堤作りを進め6時から7時ぐらいに浸水を止めた。

河は朗根内に寄り俵真布側と本流は砂利原の中洲となり、築堤は橋の上下流で 120m取付道路55mが完全欠壊の状態となった。

再び増水した場合は、大災害をおこす恐れ があるので、流れを本流に戻すことにした。

流れが深く急流であるため、ブル1台は俵 真布へ廻し、残る3台のうち1台は7時30分 頃、勇敢にも朗根内側より流れに突入。運転 手は腰迄水につかり排土板を上流に向けて波 を防ぎ、ようやく中洲に渡った。残る2台も 9時頃中洲へ渡り作業開始。折から飛来した 福原氏のヘリコプターで、町職員を中洲に運 び、瀬替え作業の指導にあたった。程なく俵 真布廻りのブルも到着し、4 台で朗根内付に 砂利を押し仮堤を盛り、下流より水路を堀り、 15時に最上流を開さくして切換えを終り、災害 前の流れに復した。

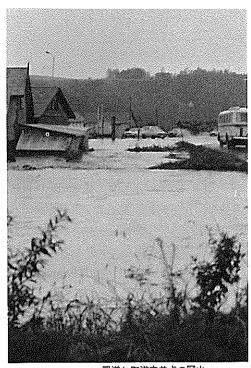
7日午後より行政区全員(約35名)が出役して浸水田畑の流木等の除去と、用排水を渫い、ブルとユンボで頭首工の流木除去等の跡整理を実施した。

水は普通の3倍ぐらいあり、見廻りの結果 舟木地先築堤欠壊を発見した。

8日に頭首工のゲート(転倒堰)を交互に 上げて、水流を利用して堆積砂利を除いたが、 水利組合員10名のヒザまでつかる水中作業で あった。

食事は5日夜食を20食現場に出したが、あたらない人もいた。6日の朝食は町本部よりも届いたが、朗根内婦人部10名が寿の家で炊出しを行い、200食を用意し、隣りの横牛からも炊出しが届き、現場の昼食分も間にあった。この作業には終始、横牛消防団員が協力してくれ感謝している。

九線橋取付道路は、7日より全応急で着工 し、俵真布と朗根内河川敷の双方より盛土運 搬し、9日にはどうにか通れるようになった。



国道と町道交差点の冠水 (下字第5地区、16時30分写)

### (4) 字莫别川

下字莫別地区の浸水被害が、今回の災害のうちで、最も大きかった。急激で予想もしなかったために、不意打ちをくったかっこうで、消防団以外の行政区、部落会は、組織だった活動はできず、連絡・情報と現場をみて、その箇所に応じて地域住民が出動し、町職員・消防団・自衛隊とともに対処したのが実情である。

5日5時、久保倉消防分団長が聖台ダムから 三番橋迄見廻りをした。6時同じコースで見廻り をしたが増水が激しく、聖台ダムは若干越流し だしていた。6時30分に分団幹部を招集し、7 時に聖台ダムと下宇茣別消防詰所に連絡所を設 けるとともに、河川の増水状況を美瑛消防署に 報告した。

第5分団全員を招集し、現場に配置して警戒 に当らせた。

8時30分下字第5吉岡地先に浸水がはじまり、

9時すぎ下宇朝日の菅戸地先の本流が溢れ、柳 しがらを組んだがますます増水して方法なし。 流木が聖台頭首工に引っかかり、聖台用水路を 乗越えて市街地に浸水し、さらにトンネルをく ぐって下宇第2石川地先より山崎地先に浸水し 葛・樫田地先に及び辺別川に達した。

町本部に状況を知らせ土のうを要請し、下字 市街地が浸水の恐れあるため、9時30分危険で あることを消防車で予報した。10時床下浸水が はじまり、11時44分町本部より、本勝寺・美進 小・天理教会の3ヵ所を指定して避難命令が出 され、消防車で広報し12時ほぼ避難が終り、本 部に炊出しの要請をした。この頃は町職員も集 結し、主として郵便局前で連絡に当り、16時30 分浜田鉄工所に移り17時30分浜田家に全員集合 し、夜の担当職員と交替し、その後寿の家に連 絡所を設けた。

12時過ぎ自衛隊が到着し、町職員の指導で、 神社前の土のう積みを実施したが、防ぎきれな かった。

また町職員で国道入口、朗根内分岐と本勝寺前の3ヵ所で交通を遮断し、終日交通の整理に当った。14時頃一番橋下流で鶴巻地先及前川地先が欠壊した。前川地先は手のつけようがなし田0.8haが流失、鶴巻地先は家屋があり欠壊すると下流全域に浸水するので、ここに消防団員を移動し全力で防止することにした。町職員と地域住民も加わわり木流し、三基枠3基を投入設置し6日1時に作業を終り、その後部落員が徹夜警戒を行った。

21時聖台ダム直下流鈴木地先が危険となり、 第1分団の応援を得て、木流し等を実施し23時 30分頃小康状態となり切上げた。

5日の15時から17時ぐらいが最も水量があり、 市街地の道道交差点では約1mの水深で、鉄道 も水深0.2~0.3m溢れさらに旧国道を越流して 葛・樫田地先に至り、田畑を冠水し辺別川にぬけた。

本流は国道より宇莫別川の間、河より5、60 %が浸水し、土砂立木の流入、水田冠水で、大 きな被害となった。

浸水は除々に減水し7日朝にはなくなったが、 用排水の埋塞で水溜りは残った。

6日部落60名・第5分団18名が出動し、流木 等の大ものと、建物廻りの片付、水路の浚渫を 重点に作業した。

7日行政区全員と被害者の親類等も加わり、 トラック・トラクター等も総動員し、約 140名 で水田の流木とごみ等を集め運搬し捨てた。

下字英別地区は、昭和22年と23年の水害にも 浸水し、また過去木材流送を行っていた大正3 年にも大洪水となり、20数名の人命を失うなど 水害を繰り返し受け、また今回の災害となった。

8月30日、神社境内の清掃を行政区全員で実施した際に総会を開き、この災害を二度び繰り返さないため、河川の全面改修を要請することを決議して、復旧期成会を設けた。この経緯は別項に記載したので省略する。

下宇茣別市街地伊東氏(道道角地)の話しによれば、5日の8時頃水が道路に流れていたが、だんだん増えて10時頃急に増水しヒザまで没す



市街地裏の農地は濁流冠水で総なめ になった。(下字朝日、5日13時写)

るようになった。

12時頃より14時迄が最も多く腰まであり17時には 0.3 m程に減った。住宅と向かいの事務所の行き来に、家の柱から電柱にロープを張り、これにつかまり流れの速い水中を渡った。

いよいよ増水し床上浸水の恐れあり、9時頃より2階に家財を運び上げた。タンス類は引出しを抜いてそのまま、他の小物・濡れものを大急ぎで運び2階も階段も一杯になった。

2階のない家は、タンスの引出し(中を出し) 机・椅子等を台にタタミをのせて物を上げたが 間に合わぬ家はそのまま逃げたところもある。 増水が激しいので家の監視を1人残して10時頃 本勝寺に身体一つで避難した。

その頃は、路上がヒザまでの水で、乗用車は 走れずに、ダンプとジープで避難した。なかに は、水につかり歩いてくる者もいた。車両等は 墓地の広場に避難した。本勝寺は満員で13時頃 町本部から炊出しが届き、毛布が配布され落着 いた。夕の炊出しで食事が終った頃現地からの 連絡で、路上で0.3 mぐらいに減水したので、 働けるものは19時頃より帰宅し跡片付。半数ぐ らいは残り泊った。1名ずつ残った者は、減水 しだすと家の中の水を竹掃木でかき回し、泥と 水を一緒に流したが、自然に水の引いた跡には 約10cmの泥が床の上にたまって後の掃除が大変 であった。住宅内外の跡片付、清掃に3日ぐら いかかり、しまい場所が解らず今も所在不明の 家財がある。

昭和23年の水害のときより約20cm水が多かった。

### (5) その他の河川

置杵牛川の被害も大きく、河川災害18ヵ所という箇所数で一番多く、随所で冠浸水の被災もあった。小河川ではルベシベ、藤野地区に多発したが、紙面の都合で省略する。

## 3. 住宅・飲料水等の被害と対策

全半壊の被害は無かったが、床上・床下の浸水 が多く、特に下字茣別が大被害を受けた。

また、浸水にともなう自家用地下水の汚染が心配され、飲料水の供給と事後処理に配慮したが、 その状況は次のとおりである。

### (1) 住宅等の被害

被害は下宇莫別が最も多く、次いで美瑛町市 街地で扇町・北町・大町・花園に多く、そのほか各 地に発生した。その状況は次表のとおりである。 住宅等の被害状況

		住	毛	烫	水		事務所	工場等
101. 177° Az	5	₹_	Ŀ	Б	₹ -	F	床上	床下
地区名	桃	世	人	棟	世帯数	人	棟	椒
	数	指数	ы	数	数	И	数	数
大 町				Ī	T	4	2	
周 町	1	T	6					
北町	1	1	ı	2	2	9		
7E [80]	3	3	7	2	2	10		
南 町				-	1			
東 町				I	I	I		
痔 町				ı	1	1		
ria MT				2	2	8		
下字第1	ı		6					
# 第3	1	- 1	3	6	6	26	2	5
# 朝日	l.	I	4	l	I	6	1	ı
# 第5	5	5	15	6	6	26	2	3
旭 第 6				I	I	2		
北 瑛 3	-			1	1	3		
朗根内	1	1	4					
上字英別				2	2	9		
置 杵 牛				١	I	2		
水 沢				1	Ι	4		
二 股								1
新 显	1	1	2	1	1	2		
計	15	// 5	48	30	30	114	5	10

註)床上浸水20棟 床下浸水40棟 計 60棟 世帯数45戸 人員162名

#### (2) 被害の対策

住宅については緊急避難をさせ、毛布・日用品の貸付支給をするとともに、炊出し給食・給水を実施した。事務所・倉庫等については自力で防備排水するほか、倉替え等を行ったところもあるが、放置して避難したものが多かった。

#### 1) 住宅等の対策

全半壊等がなかったため、復旧費に多額



対策本部の衛生班は6日から出動。被災地の消費と個別の面会指導を実施。

の費用を要するものはなく乾燥、後片付に 時間と労力を費すにとどまり、融資等の措 置は必要としなかった。

町は6、7日と10日の3日間にわたり被 書家屋等の消毒と石灰散布、及びし尿の汲 取り、消毒薬の支給を実施した。

### 2) 飲料水等の対策

水が引いた後に、被害者の要望もあり、 町では旭川保健所と協議して、浸水地域の 自家用水利用者の水質検査を、保健所が無 料で8日一斉に行った。

結果は、総検査数36ヵ所のうち飲料適合が6ヵ所、不適合が30ヵ所で、不適には全部大腸菌群が検出された。

これがため、町ではチラシ等を配布して 沸かした水を飲むこと等を指導するととも に、町の水道水、或は最寄りの飲料適合水 を「もらい水」するよう周知した。

また下宇茣別保育所は、飲料適合であったため屋外に水道栓を新設し、被害者の利用に供した。

8月24日に被害者個人で下字莫別等9ヵ 所の水質検査を実施、適合4ヵ所、不適5 ヵ所であった。いずれも浅井戸等の原因と 思われる。

下痢・軟便が2名程度発生したが、水と の因果関係は不明で、集団的疾病・伝染病 等の発生はなかった。

### (3) その他の建物

その他の建物で特に浸水の激しかったのは、 美瑛町外2町清掃事業組合の下宇莫別じん介処 理場、道路建設KKの下宇莫別アスファルトプラ ントと材料(被害30,000千円程度)・大町の美瑛 町農業協同組合のライスセンター・選果場・倉 庫等の施設で、それぞれの管理団体等の職員が 徹夜で防備排水作業と後始末に当った。

### (4) 災害見舞等

町では8月7日被災者を訪問して、お見舞をするとともに住宅の床上浸水で特に被害の大きかった10戸に対して、1戸1万円の見舞金を次のように贈った。

また日本赤十字社北海道支部より、前記10戸に対し救難物資として1戸当り日用品1箱・毛布2枚・家族数に応じて1戸当り3,000円から10,000円が支給されたので、町と同時に贈呈した。

### 1) 町の見舞金

下宇英別地区…… 7 戸 北町 3 丁目…… 1 戸 扇 町…… 1 戸 新星緑ヶ丘…… 1 戸 計 10戸

### 2) 日赤の見舞金

,000円2戸	3,00
,000円4 戸	5,00
5,000円   戸	6,00
3,000円2戸	8,00
),000円1戸	10,00
計 10戸	ā-1

どの地区よりも浸水が早く、どの地 区よりも水引きが遅かった下宇第5 地区。ごみ焼却場の浸水は、5日間 の受入れ停止を余儀なくされた。 /白様センター事務\

(室、5日15時写

# 4. 警察・消防・病院等の対応

### (1) 美瑛町立病院

水害時には、水道断水の事態が生じたが、自家 用水に切換えて対処したので支障がなかった。

台風15号の際は、9時から14時まで作業停電があり、同時刻より続いて21時30分まで、断続的に 強風による停電事故があった。

当日は日曜日で、日直と勤務者では対応できないため、16時より中島病院長ほか14名が緊急出勤して、重症患者用の治療器具使用のため自家発電機2台を運転し、医療器具の使用と院内照明、患者の監視にあたり病院機能維持に務めた。

### (2) 美瑛消防署と美瑛消防団

8月4日夕刻より現地警戒に当ったが、翌5日5時10分、美瑛川増水と市街地の出水状況を判断し、美瑛土地改良区とともに原野頭首工のゲートを全開して流木の除去を行い、防火用水路と用水路に流入するのを防止した。

下字莫別地区では、字莫別川の増水が激しいた

め、第5分団幹部が7時30分 に招集され、ついで旭第6中地 先に第3分団が出動。署では 8時30分に町の災害対策本部 が設置されたので連絡をとり ながら、10時30分非番署員を 招集し、逐次状況に応じて、 署員及び第1分団より第6分 団まで全員が出動し水防活動 にあたったが、その状況は次 のとおりである。

消防本部は、無線により町本部と現地との連絡、全体の指揮、警戒に当った。

台風15号被害では、街路樹の 倒木処理を行ったが、署圓1名



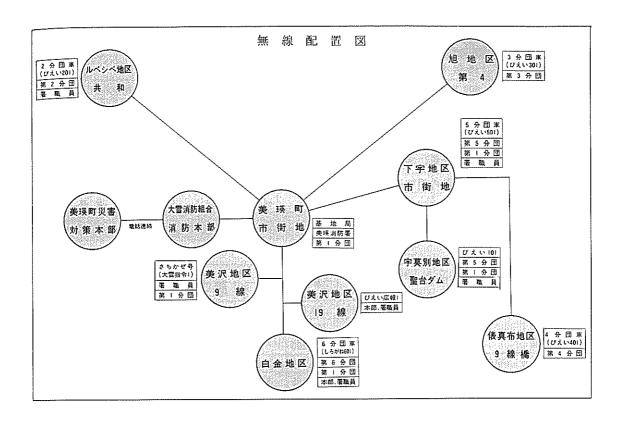
# の軽い負傷者を出した。

# 美瑛消防署水防活動状況

災 害 発生の場所	発生日 時 分	招集日 時 分	消防機関	解散日時 分	延出動 人 員	活 動 概 要
扇町小野地	5日 9:50	5 ⊟ 10∶00	美瑛消防署	5 日 13:15	7名	床上浸水排水作業、家財移転 避難命令、誘導
下宇莫別 全 域	5 日 7 : 10	5 ⊟ 7 :30	"	5日 22:00	14名	下字莫別第2を除く全域に避難命令 及び誘導、警戒・連新 一番橋鶴登地 先、二番橋鈴木地先木流し作業
ル ベ シ ベ 共和須田地先	5 El 14:00	5日 14:20	11	5日 17:00	2名	警戒と連絡及び流木除去
白 金 温 泉	5日 12:30	5 H 12:50	11	5日 17:30	5名	白金センターホテル、白金温泉ホテ ル前道路肩及びホテル十勝岳入浴場 前に土のう積で浸水防止
美沢 9 線原田地先	5 El 18:10	5 H 18:25	11	5日 22:30	10名	照明と連絡及び自衛隊と木流し作業
美沢19線田村地先	5日 15:00	5 H 15:25	n	5 H 16:30	4名	警戒と連絡
被 害 調 査		6日 9:00	JI	6 H 16:00	9名	扇町、下宇英別、ルベシベ共和、旭、 美沢 9 線、美沢19線、俵真布九線橋
<b>F</b> -1-					51名	5日 42名、6日 9名

# 美瑛消防団水防活動状況

災 害 発生の場所	発生日 時 分	招集日時 分	消防機関	解散日 時 分	延出動 人 員	活 動 概 要
下宇莫別 全 域	5日 7:10	5 日 7 :30	美瑛消防団 第5分団	6 H 14:00	40名	消防署と同じ
JI .	5 El 7 : 10	5日 10:30	" 第1分団	5 日 21:00	20名	И
旭第4 背島地先 旭第6 中地先	5 日 7 : 50	5日 8:00	" 第3分団	7日 12:00	60名	避難命令、誘導、警戒、連絡、土の う積み、木流し作業
俵 真 布 九線橋	5日 14:00	5日 14:40	" 第 4 分団	6日 6:30	40名	警戒と連絡
ルベシベ共和 須 田 地 先	5日 14:00	5日 14:20	" 第 2 分団	5日 17:00	20名	消防署と同じ
美沢9線原田地先	5 El 18:10	5日 18:25	" 第1分団	5日 22:30	10名	II.
白 金 温 泉	5日 12:30	5 H 12:50	" 第1分団	5 日 17:30	23名	И
n.	5 El 12:30	5 日 12:50	" 第 6 分団	7日 17:00	12名	И
#t					225名	5日 137名、6日 64名、7日 24名



### (3) 旭川警察署美瑛警察官派出所

旭川警察署では、5日12時に災害警備本部を設置し、6日16時に解散した。美瑛警察官派出所では、全員を招集し3班を編成して、人命、家財等の危険を防止し交通の安全確保のため、情報の収集・調査・対策・警戒・報告の活動を行った。美馬牛大成川氾濫の住民通報により11時に現地調査を開始した。昼食をとる暇がなく、途中でパンを買い車中で食事をしながら調査をしたが、美馬牛は被害が軽微で安心した。情報により二股、ルベシベ、美田、五稜、美沢、置杵牛、宇莫別、朗根内、俵真布方面の実情を調査し、町災害対策本部に通報協議するとともに現地で町本部員と交通規制の打合せを実施した。

所長は、町本部で情報を収集したが、全町的な 被害であるため、本部での情報量が多く不確定で 雨量・洪水量の確認等も困難であったので現地を 重点に調査した。17時頃千代ケ岡地内で道路横断 工が詰まり、国道 237 号線が交通不能となり、これが対策が終ったのは23時であった。

また市街地西町、花園5丁目の美瑛川沿いが危険となったので、本署に応援を要請し、パトカー2台(6名)の派遣を得て交通整理、河川の警戒にあたり、署本部に帰ったのは6日6時であった。

6日も前日に引続いて、現地の再調査を行い、

この整理報告と一般事件も加わり、夜間も事故処理、警戒・連絡等で3日間の張付勤務となり、帰宅する予裕がないため、自宅より食事を運び、腹ごしらえの不眠不休の務めで、家族も大変であった。この水害で聖台ダムの欠壊が一番に憂慮したところで一時は危険ということから、これが対応と調査に大忙しであったが、調べた結果と滅水により安全と分り安堵した。台風15号については、23日14時10分に出動し、白金育成牧場の被害、美沢の作業現場の軽傷者、15時50分に発生した、倒木障害による国道交通整理その他の対策を行なった。

# 予算措置と応急対策の機械・労力等

# 1. 予算措置

応急対策・応急工事を緊急に実施するため、8 月7日付をもって関係会計の追加補正予算の専決 処分を行い9月第6回議会定例会で3件、12月第 8回議会定例会で1件の承認を得たほか、災害の 調査、査定、国・道の補助金配分の状況を考慮しな がら、逐次補正を行ったが、その内容は次の通り である。

### (1) 追加補正予算の総額

493,874 千円

内 訳

単位:千円(△は減)

談 会	会計及予算措置区分	子算金額	財	,		R	摘要
	M 11 12 7 7F 7A 165 E 77	7 91-35 100	国·道 支出金	起價	その他	一般財源	J.N. 20
9月第6回	一般会計補正予算 第3号(8月専決)	53,079	14,665	3,200	_	35,214	
9月第6回	# 第4号	242,074	191,668	35,000	900	14,506	
11月第7回	# 第5号	200	_	_	_	200	
12月第8回	# 第6号(11月専決)	86,434	62,488	15,700		8,246	
12月第8回	" 第7号	98,565	85,696	11,400	△ 651	2,120	
_	- 般 会 計 小 計	480,352	354,517	65,300	249	60,286	
9月第6回	水道事業特別会計補正予算第1号(8月専決)	4,715	2,144	_	-	2,571	一般会 計繰出
9月第6回	平和简水 "第1号(")	2,333	-	_		2,333	
9月第6回	白金開発 "第2号( " )	300	_			300	
11月第7回	平和簡水 "第3号	7,838	7,677	_		161	
12月第8回	平和簡水 "第4号	△ 1,664	△ 1,252	_	_	△ 412	
1	月別 会計 小計	13,522	8,569	4 7. <b>2</b> 0.85	1990 <u>-</u> 1810	4,953	
1	计	493,874	363,086	65,300	249	65,239	

### (2) 補正予算費目別内訳

単位:千円

区	······分		子算金額	J.	源	内	訳	摘要
	7,1		1 为在116 684	国道·支出金	起價	その他	一般財源	1間女
災 害 **	寸 策	費	11,832	_	<del>-</del>		11,832	
特別会	十 繰 出	金	2,333		_	<b>-</b>	2,333	平和简水
特別会記	十 補 助	金	2,571	_	<del>-</del>	-	2,571	水道事業
公共土木施設	<b>货货害復日</b>	理	363,105	258,864	64,700	_	39,541	
農業施設	災害 復 E	費	90,717	88,343	600	**-	1,774	
農地災音	區 復 旧	費	6,631	5,972	_	249	4!0	
町 有 林	管理	費	3,163	1,338		_	1,825	
白 金 開 発	特別会	計	300		_		300	
平和簡易水道	事業特別会	会計	8,507	6,425	_	_	2,082	
水道事業	特別会	<u>i</u> +	4,715	2,144		_	2,571	
合	計	1574	493,874	363,086	65,300	249	(60,286) 65,239	( )一般。 会計財源。

### (3) 事業費内訳

单位:千円

	А	기는 사는 가니	I	事 請 負	贄	原材料費	使用料及	11t -k- 11ft	4:6:	2685
区	分	事業費	金 額	内補助	内単独費	<b>原444</b> 年取	負借料	調査費	摘	要
公共土木施設	災害復旧費	344,900	335,300	314,300	21,000	2,600	1,000	6,000		
農業施設災	害復旧費	87,579	86,629	86,629				950		
農地災害	: 復 旧 費	6,440	6,040	6,040				400		
町有林管理費	(倒木起し)	3,013	3,013	3,013						
白金開発	特別会計	300	300		300					
平和简易水道。	<b>F業特別会計</b>	7,438	7,438	7,198	240					
水道事業	特別会計	4,135	4,135	2,870	1,265					
台	ál:	453,805	442,855	420,050	22,805	2,600	1,000	7,350		

# 2. 応急対策の機械・労力等

応急対策については、町災害対策本部と行政区 ・町内部落会が一体となり、陸上自衛隊・町内外 関係機関及び美瑛町建設業協会・その他各建設業 者・商社の協力と援助を求めて実施したものであ る。

その費用は前項の予算措置のうち災害対策費の とおりで、機敏に対処するため専決を行ったもの である。

### (1) 一般災害対策費

この予算は4,707千円で、町職員の超勤手当・ 旅費・需用費・行政区交付金等全般にわたって いる。

資材については、道及び国で調達したものも あるが、ほとんどは町で備蓄資材のほか町内の 商社、建設・木材業者の在庫をかき集め使用し たもので、その主なるものは次のとおりである。

杭丸太類 長1.5~3.65m 径9~10cm 997本 タル木等 長3.65m 300本 鉄線類 8 #~12 # 1.76 t ワイヤー等 100 m 土のう等 土のう・麻袋 12,880袋 砂利等 切込・砕石・土砂 2,450㎡ 以上のほか行政区において調達したもの、器 具・容器・流し木立木等多岐にわたるので省略 する。応急対策として出動した概数は次のとお りである。

災害出動人員

単位:人

月日	町職員	消防署	消防団	自衛隊	民間	<b>1</b>
8月4日					74	74
5 El	135	42	137	169	959	1,442
6 H	131	9	64		604	808
7日	87		24	64	184	359
8 E	90			64	58	212
9 H	86					- 86
10 H					10	10
12日					126	126
13日					13	13
14日					5	5
at	529	51	225	297	2,053	3,155

注) 調査漏れの民間出動が約 3,600 名程度ある見込みで、これを含 めると総計で6,756名となる。

また、各行政区においても応急対策を実施したが、炊出し材料、機械借上げ、原材料、燃料費等の実費に限って、14行政区に対し最低5,000円・最高 137,800円、合計で 1,047,627円の費用を交付した。また、町で使用した資材については、激甚災害法の指定により補助対象となるので申請中であるがまだ決定されていない。

床上浸水家屋10戸に対しては、1戸当り1万円の見舞金を贈った。

### (2) 現場災害対策

現地における災害対策は、町本部指揮のもとに、町職員・自衛隊・美瑛町建設業協会・町内建設業者が主力となり、地元行政区と地域関係者の協力を得て実施した。

この予算は7,125千円。修繕料(重機・運搬車両・労力)と原材料費で、現場の応急対策のため、町内16建設業者の協力を求め、重機類を総動員して実施した工事費と、町内13商社から調達した材料費である。実施箇所は美瑛川緑橋下流ほか約50ヵ所で8月末にほぼ完了した。

### (3) 道の対策

道では北海道災害対策本部と上川支庁管内災 害対策本部を設置し、その指揮にあたったが、 本町では特に農地・農業施設災害の指導を受け た。

旭川土木現業所では8月3日の注意報発令以後、関係課の主なるものが待機に入って夜は交替で仮眠し警戒に当ったようである。3日は出水は特になく、4日は旭川市内の道路側溝等が溢れ出して活動が始まった。本町の場合5日から被害が発生したので、現地情報により道施設の状況連絡をしたが、土現は現地対応は困難であるから応急措置は町に任せる旨の指示を受けた。事業課長ほかの現地状況調査もあり、土現と連携をとりながら町で資材、労力、重機等の手配を行い対応したが、特に辺別川上流、宇茣別川・置杵牛川が各所で欠壊浸水したので、こ

の3河川を重点に、重機による応急対策の河道整 正を8月6日より8日にかけて実施した。

置杵牛川約15ヵ所で92時間、辺別川は朗根内 九線橋上下流 116時間、字茣別川下字茣別地区 115時間等で、計 323時間のブル等借上料、約 3,000千円を道で支出した。

さらに10月より11月にかけて置杵牛川の河道 整理を、被害ヵ所の再災害を防止するため、災害 復旧工事施工までの暫定処置として、ブルドー ザー 104時間、借上料 1,100千円で直接実施し た。

### (4) 国の対策

旭川開発建設部においては、8月5日13時災 害対策本部を設置し、水防準備体制第1号を発 令した。

このとき美瑛川西神楽水位観測所で指定水位を超え、14時30分町の要請に応じ旭川河川事務所美瑛直営班(安藤・星課長外9名)が美瑛川水防に出動した。現地は美沢9線と19線・20線は欠壊が甚しかったが、後背地(畑)が高いので破堤しても堤内に流入の危険なしと判断し、すでに破堤して堤内に流入の恐れある19線に主力をそそいだ。現地は町の関係者と自衛隊の協力のもとに約150mの欠壊部分に木流しを行うとともに、ブル1台、クレーン車1台を配車し、3t三基ブロック50個を搬入して根固めの用意をするとともに、土のう積み作業約3,000袋を実

国の応急処理概要

(本復旧までの再度災害防止工事)

被	災 個 所 名	実施額	5	夷	施	概	要		エ	期
美瑛川	左岸美沢19線地先	444	42 t ブ	ルド・	ーザー	仮締	切工	1式	8月7日	~8日
11	右岸綠橋上流地先	418	42 t ブ	ルド・	ーザー	仮締	切工	1式	8月10日	~11日
11	左岸旭稜橋下流地先	3,050	42 t ブ	ルド・	ーザー	仮締	切工	1式	11月14日	~12月23日
11	右岸美沢24線地先	500	42 t ブ	ルドー	ーザー	仮締	切工	1式	12月3日	~12月5日
辺别川	左岸旭橋下流地先	384	42 t ブ	ルド-	ーザー	仮締-	切工	1式	8月12日	~8月13日
台	āt	4,796								

施した。

23時頃より減水著しく、作業も一段落となったので後整理等を行い、6日1時に事務所に帰着した。

また、6日2時20分、町から連絡して辺別川旭 第4青島地先の築堤欠壊対策に、安藤課長外1名 が到着し、技術指導等を朝まで受けた。 6日13時~17時まで、美瑛直営班により辺別 川鉄道橋下流左岸に水防木流しを実施した。

8日より美瑛川班(安藤課長外3名)を編成して災害ヵ所の調査を開始するとともに、本復旧迄の再度災害を防止するため、次のように被災箇所の仮締切をブルトーザーで実施した。



▲天侯は回復し、豪雨はうそのよう。 8月24日から緊急災と して工事は急ピッチで進められた。(辺別川旭第4 青島地先)

# 水道の被災と給水及び復旧状況

## 1. 美瑛町水道事業

### (1) 被災の状況

豪雨出水により、オヤウンナイ川に設置されている取水施設に土砂が流入、沈砂池4ヵ所が埋没し、集水埋渠が埋塞したため、5日20時30分取水不能となる。これに対処するため21時から広報を行い、22時より翌6日5時まで断水し昼間配水量の確保を図ったが、この時点ではろ過池・配水池とも満水であった。一方23時から徹夜で、取水施設の土砂除去と集水埋渠の逆洗水槽より第1号接合井までの排泥を行うとともに、取水より100m下流の排気弁からボンブで加圧送水し、導水管内の土砂除去を行うも効果がなかった。

対策を協議して、取水施設約 100 m 上流から 下流120 m 地点の導水管に、150 mm塩ビ管を設け 仮取水することとし、ただちに資材の手配を行 い21時に着手、7日4時に完了。6時迄排泥を 行ったが水量が増加せず、配水の見込みが立た ない状況となった。

### (2) 給水対策

緊急事態となったため、5時30分に町の災害 対策本部に連絡し町長に報告協議して、町職員 を動員するとともに、上富良野駐とん地陸上自 衛隊の救援をもとめて給水を行うこととする。

浄水場の水位は、ろ過池0.3 m、配水池0.9 m で、5時に配水を開始し10時迄行う予定であっ たが、8時30分に至り水位がろ過池0.3 m、配水 池0.3 mとなったため、予定を早めて8時30分 配水を停止した。

他方、8時より3日間程度緊急に給水を行う 旨広報を行うとともに、10時30分から町職員と 上富良野自衛隊120大隊の出動により給水を開 始し、22時終了した。給水量については町長と 上富良野駐とん地司令が協議し、1日1戸当り 40 (をめどに計画実施したが、結果的におおむ ねこの範囲で間にあった。

仮取水対策については本部で協議の結果、仮取水管 150mmを更に 1 本追加設置して増水することになり、7日9時に着工15時30分に完成した。この間導水管の排泥を行い21時、ろ過池へ日量で 1,530m を送水する。



取水施設が、流入した土砂により閉塞されたため、施設の清掃と並 行して 220mの仮導水管を設置し、一日も早い送水を開始した。



設置した仮取水施設

8日も、引続いて6時から給水を開始するとともに、貯水を継続し配水池の水位が2mに達した15時に配水を開始した。

自衛隊は14時30分まで給水作業を行い、15時 15分役場前で通水を確認し、町長以下に見送ら れ帰隊する。

町ではさらに給水を続けるとともに、配水を 開始した旨を広報し、17時末端まで到達したの で給水を終了した。

### (3) 災害復旧仮設工事

9日は、11時から19時迄水源の監視及び着水井の調整を行ったが、19時の時点で毎時着水量100mとし配水池の水位1.9mであったが、10月6時で満水の3mに達し水量においては平常に復した。

応急対策及び給水については、旭川保健所と連絡をとりつつ実施したが、表流水を直接取水しているため若干の濁りがあるのでろ過池の維持に障害が生じ、またさらに異状出水の場合は断水しなければならないため、厚生省の災害復旧査定を待てないので仮取水施設を含めて、次のように工事を発注し、11日と12日の2日間で沈砂池及び集水埋渠の土砂除去、ろ過砂利の洗滌、アクアピッグによる導水管洗滌と、仮取水管の取り外しを行った。

工 事 名 美瑛水道施設災害復旧応急仮施

#### 設工事

工事発注 昭和56年8月7日随意契約で緊 急に小笠原建設株式会社と契約す る。

契約金額 2,307,000円 着手完成 昭和56年8月7日着手 8月14 日完成

### (4) 厚生省の災害査定と

### 災害復旧工事

災害の復旧については国の補助を受けて行うこととし、厚生省の上水道施設災害復旧費、及び簡易水道施設災害復旧費補助金交付要綱、及び厚生省所管水道施設災害復旧費調査要領に基き8月11日道知事に対し災害報告書を提出、8月26日には、災害復旧事業計画書を提出して、9月29日と30日の両日にわたり厚生省の査定を受け、次のような採択となり、ただちに着工が認められた。

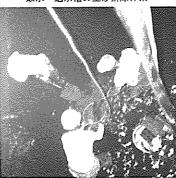
内訳 本工事費 851,531円 工事雑費 25,545円 諸 経 費 127,729円 小 計 1,004,805円 応急仮工事費 1,622,132円

工事雜費 48,663円

**装着洗浄でアクアポリビッグを挿入** 



取水・送水槽の土砂排除作業



取水施設の集水埋渠逆洗洗浄



諸 経 費 243,319円
 発 生 材 △48,800円
 小 計 1,865,314円
 合 計 2,870,119円

補助率 1/2

厚生省当の査定が終ったので、道と打合せ本 復旧工事を次のように発注した。

工事発注 昭和56年10月22日指名競争入札 を行い小笠原建設株式会社に落札 契約する。

契約金額 1.090,000円

工 期 昭和56年10月22日着手 11月10日完成

工事内容 上流に沈砂地1ヵ所増設、沈砂 池と集水埋渠導水管の土砂除去洗 滌

この業者に仮施設の取水管撤去と、台風15号による機械室屋根の被災修復を、120,000円で町 単費で発注し併せて完成した。

以上の災害復旧工事の総額は、3,517,000円で 査定額を超過したのは、実施単価歩掛の差、発 生物件の一部、及びこれが撒去費等が補助対象 外となったためである。

予算は、災害応急対策費と復旧費を合せて収 入では第1款水道事業収益第2項営業外収益で 4,715,000円、支出では第1款水道事業費第2項 営業外費用に同額を補正し、第3目で「災害復 旧事業費」を新設する専決処分を8月7日付で 行い、9月町議会で承認を得た。

### 2. 平和簡易水道事業

# (1) 美馬牛新栄地区配水管の 被害と応急工事

美馬牛新栄地区下川地先の町道欠壊により、 8月5日10時頃 径100mmの配水管が延長70mに わたり切断され断水した。ただちに資材を収集 し、径50mm延長120mの仮配管工事を14時に着手 17時に通水する。

応急工事及び復旧工事は、上川支庁と道に協議 し国の補助を受けることとして、応急工事を次 のように発注する。

工事名 昭和56年災新栄地区団体営農地 (畑)災害復旧応急工事

工事発注 昭和56年8月7日随意契約で緊 急に有限会社河村建設業と契約す る。

契約金額 248,000円

着手完成 昭和56年8月7日着手 8月14 日完成

### (2) 妙見水道取水施設の被害

妙見水道取水施設が、推定5日16時頃上流地域よりの土砂流入と貯水池右岸法面崩壊2ヵ所20mが発生したため、貯水池及び集水埋渠が土砂で埋没して断水した。配水はあらかじめ平和簡易水道の配水管を接続してあったので、切換え給水を行い応急工事等は必要としなかった。

# (3) 清富地区送水管の 被害と応急工事

上富良野町字清富地区、道道美沢上富良野線の肩切土沢斜面が110mにわたり欠壊し送水管が切断された。6日22時30分に浄水場を調査したところ、水位が著しく低下していたため故障を察知し調査の結果、7日3時に被災ヵ所を発見した。

被災時間は6日21時から22時頃と推定されるが、7日0時では浄水場の水位は0で、送水管の被害であるため全戸断水状態で、急速な復旧作業は因難であり、災害対策本部に連絡をとり美瑛町上水道と同様の給水措置をとることとした。

7 日 5 時、関係行政区長に断水の連絡を電話

で行い、部落会長を通じて利用者に周知方を依頼するとともに対策本部内で協議し、美馬牛市街地は町で現地給水し、他の地域は美瑛市街地指定場所で各自受取り給水する。また畜産農家は、白金水道で白金において給水することにして、この旨電話で行政区長を通じて周知する。

応急対策としての道道の路肩側溝部分に、仮送水管を設けることにして旭川土木現業所の了解を得、上富良野町有我工業所に依頼し8時に着手、18時に完成送水を開始して8日9時に憩町を除いて末端迄通水した。

この間に美馬牛市街地送水ポンプ場を整備し7日17時30分より送水し、8日9時通水したので運転を停止した。この復旧についても、妙見地区と同様に国の補助を受けて行うこととし、応急工事を次のように発注する。

工事名 昭和56年災清富地区団体営農地 (畑) 災害復旧応急工事

工事発注 昭和56年8月7日随意契約で緊 急に有限会社有我工業所と契約す る。

契約金額 1,455,000円

昭和56年災農地災害復旧事業費調書(第2次查定)

(単位:千円)

地区名	費 目	本工事費	応急工事費	<u></u> }+	備	考
98~102	工事費	1,314	1,455	2,769	補町	2,539 230
補助 0.9169 町費 0.0831	工事雜費	19	21	40	補 町	37 3
	事務雜費			42	補町	38 4
	計	1,333	I,476	2,851	補 町	2,614 237
98~103 新 栄 地 区	工事費	1,259	248	507, ا	初町	1,426
補助 0.9466 町費 0.0534	工事雜費	18	3	21	補i 町	20 I
	事務雑貨			22	町補	21
	計	1,277	251	1,550	補 町	1,467 83
98~104 妙 見 地 区	工事費	4,592		4,592	補町	4,395 197
補助 0.9572 単費 0.0428	工事雜費	68		68	補 町	65 3
	事務雜費			69	補町	66 3
	ât	4,660		4,729	補 町	4,526 203
総計	工事費	7,165	1,703	8,868	補町	8,360 508
	工事雜費	105	24	129	補町	122 7
	事務雜費			133	補町	125 8
	計	7,270	1,727	9,130	削町	8,607 523

注)補助率は未定であるが、予算上は暫定で89.2%を計上し、12月議会で96.7%に補正した。

着手完成 昭和56年8月7日着手。8月14 日完成

### (4) 平和簡易水道取水施設の被害

貯水池及び支流取水ヵ所に若干の被害があり 直営で応急措置を行い、第三地区開拓地等整備 事業で整備を行うよう上川支庁と協議を進めて いる。

### (5) 農林水産省の災害査定

10月1日、2日の両日、災害の第2次査定を

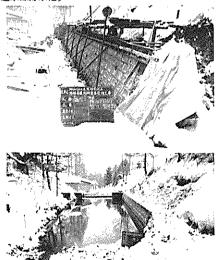
受けた結果は、前表のとおりで、飲料水(人)は 査定対象とならないため、比率で町単費復旧とな った。

### (6) 災害復旧工事の実施状況

災害復旧工事は、実施設計の結果、査定金額 を下回り、次のように実施しすべての復旧を完了 した。

工 事 名	工事概要	金 額	着 手	完 成
滑富地区災害復旧工事	塩ビ径 100mm 延長 112m	<sup>千円</sup> 1,180	11月17日	12月15日
新栄地区災害復旧工事	塩ビ径 100mm 延長 147m	835	11月17日	12月15日
妙見地区災害復旧工事	擁壁 22m U溝 32m 盛土 22m 他	3,150	11月17日	12月15日
同上単独災害補修工事	排水路 94m 他	570	11月17日	12月15日

### (妙見水道水源貯水池)



(7) 予算措置

そめると喜こんだ。(12月5日完成)

補正予算(第2号) 応急工事を含め各種応 急対策費として、歳入・歳出それぞれ 2,333千円の追加を8月7日付で専決 処分を行い、9月町議会で承認を受け た。

補正予算(第3号) 農林省の査定の結果、 補助対象となり、さらに本復旧を行う ため、歳入・歳出それぞれ9,723千円 が、11月町議会で議決された。

# 3. 白金簡易水道事業

5日8時水源の調査をしたところ、「アバレ川」 第2治山堰提上流より増水のため、左岸作業道に 溢水し、道路を流下した濁水が水源に流入してい るのを発見した。

水質は濁度(1,000度以上)が高くなり使用に耐えない状況となったため、9時に取水を停止し、各戸に断水する旨を電話連絡するとともに、青年の家に要請しブルドーザーとショベルの出動を求めて、川の切換えと排水路を設け、川水の流入を応急的に防止したが、作業は13時に終った。

15時からは導水管の、16時からは配水管の排泥 を実施して、18時に各戸配水を開始する。 この間、背年の家に美瑛水道より3mの給水を したほかは、各戸がそれぞれ対処し、営業に大き な支障はなかった。

水源の災害補修は、9月の議会に300千円の追加補正を提案、議決を得て9月28日に業者に発注して実施した。

## 4. 給水の状況

町水道と平和簡易水道が同時に断水したので、 給水の供給場所の確保に困難を来した。

上富良野町陸上自衛隊駐とん地第4特科群第120 特科大隊の出動を得て給水したため、上富良野町 においても今回の災害を受け配水は制限を受けて いたが、運搬の利便上7日については好意を受け て供給を願ったところである。

また、主としては、旭川市の特別なご協力を戴き、主に東神楽浄水場より供給を受けたが、車の回転・注水時間待ち・給水量の関係から白金簡易水道より受水したほか、市街地の大口径の自家用水道利用者から提供を受け、さらに市街地自家水所有者が自発的に近隣に給水するなど、町内民間、旭川市、上富良野町のご支援に深く感謝する次第であります。また旭川市をはじめ、青年の家、町内民間業者より機械車両・労力の好意による提供を受け、第120特科大隊、ほかの隊員、町職員

の2日間にわたる献身的努力と利用者の暖い理解 により、生活用水の確保がなされたところで、そ の作業概要は次の通りとおりである。

出動人員 第120特科大隊 124名

(2日間) 町職員計

177名 301名

給水車両(1日当り)

陸上自衛隊 14両(120大隊 1 m<sup>3</sup>車12両、 4 m<sup>3</sup>車1両)・旭川第 2 師団 5 m<sup>3</sup>車1両・水缶 371筒

町衛生課 1両(町水道局1㎡タンク)

青年の家 1両(背年の家1m³タッ )

秋山建設 1両(旭川市水道局 1 m' ")

丸善建設 1両( ")

大門ポンプ 1両

小杉石油店 1 両

遠藤商店

(携行ポリタンク 200

寺島商会 1両

箇を回転積載給水)

計 22両

給水量 7日~92m' 8日~68.8m'

1 所

計 160.8m³

受水場所 旭川市東神楽浄水場・上富良野町・ 白金簡易水道・やまとスーパー本店・ やまとスーパー丸山店・土井商店・福 井食品工業本店・美瑛農協背果部



住民からの給水要請に備え、タンクを満 水にして待機する自衛隊(8月8日写)

# 災害復旧対策

町の管理に属する公共土木施設、及び農地・農業施設で、法定の事業主体のうち町の施行が望ましいものと、土地改良区等管理者の明確なるものを除いては、町が事業主体となり復旧事業を施行する。

復旧費は膨大となるため、極力国・道の補助・ 負担を受け復旧することとして各種手続を行い、 残余は町単独費で復旧する。

国は復旧率を、従来は3:5:2の割合で3カ 年をめどとして予算措置をしていたが、昭和57年

の財政再建と昭和56年度の景気浮揚の関係で 5:3:2の前倒し予算配分がされることになり 相次いで追加予算補正と追加工事発注が行われ、 著しい復旧をみたところである。

財源は町が管理するもの以外については、受益

者負担を条例にもとづき徴収して実施する。

## 1. 農地•農業施設災害復旧事業

この事業は農林水産業施設災害復旧事業費国庫 補助の暫定措置に関する法律(昭和25年法律第169 号)にもとづいて申請する。

今回の災害の法定補助率は普通率と「次・2 次効率を見込んで、農地88.5% (予算は激甚薬上を若干見込み96%)農業施設は98% (同99.2%)であるが、激甚災害法の適用により、さらに上積みされる(別項参照)。

### (1) 農林水産省の災害査定

査定は3回にわたり実施されたが、その状況は 次のとおりである。対象となる被災ヵ所はすべて査 定を受け採択されたので残事業はない。

### 農地農業施設災害査定集計表

···						L	-	種	別	カ	Йf	数		<b></b> 查定金額
<b></b> 在定	区分	査 定 日 時	事業主体	道	路	橋	粱	排水路	農地	地 水 道	用排水路	頭首工	計	(千円)
1	次	S 56年 9 月 3 ~ 4 日	N		2			3	ı				6	58,130
			団体									1	ı	210,145
		小 計			2			3	-				7	268,275
2	次	S 56年10月1~2日	町		2			11	3				16	112,196
			団体	T							ı	I	2	53,022
************		小 計			2		-	11	3		1	1	18	165,151
3	次	S56年11月4~5日	町		1		5	1	ı				8	79,766
**********			団体										_	
		小 計		<b>T</b>	ı		5	ı	1				8	79,766

合 計			町	5	5	15	2	3			30	250,025
			団 体						I	2	3	263,167
	合	計		5	5	15	2	3 🤻		2.	33	513,192

農地・農業施設災害第1次査定一覧表 (査定年月日 56.9.3~4)

地区番号	地区名	受 益 戸 数	受 益 面 積	査 定 事 業 畳	<b></b>	工種	被災原因
98-1	藤 野 第 1	6	9.73 <sup>ha</sup>	L=216m (右岸215.1 左岸165.7)	16,521	排水路	梅雨前線災
98-2	藤 野 第 2	3	5.29	L=139m (右岸139 左岸36)	`5,287	排水路	梅雨前線災
98-3	藤 野 第 3	2	12.93	L=416.1m (右岸416.1 左岸416.1)	24,848	排水路	8月豪雨災
小	ā1·				46,656		
98-4	ルベシベ第3	4	14.89	L=36m	4,221	道路	8月豪丽災
98 5	ルベシベ第4	3	18.88	L=6  m	413	道路	8月豪雨災
小	3-1·				4,634	道路	
98-6	旭	101	355	頭首工、護岸、導水路	210,145	頭首工	8月豪雨災
小	ā†				210,148		
98-101	旭第6(中地先)	ı	4.62	4.62ha	6,840	農地	8月豪雨災
小	計				6,840		
合					268,275		

農地・農業施設災害第2次査定一覧表 (56.10.1~2)

## 査定事業費上段()は関連事業

地区番号	地区名	受益戸数	受益面積	<b></b>	<b></b> 查定事業費	工 種	被災原因
98-7	北斗第1	10	16.29 ha	(8.0) L=15.2m	(I,009) 2,205 <sup>年円</sup>	排水路	8月豪雨災
98 8	北斗第2	10	16.29	L=21.0m	3,046	n	n
98 9	北斗第3	10	16.29	L=55.0m	7,953	n	"
98-10	北斗第4	10	16.29	L=67.0m	9,282	"	"
98-11	北斗第5	10	16.29	(18.0) L=32.0m	(2,227) 4,850	11	JJ
98—12	北斗第6	10	16.29	L=51.0m	7,214	"	77
98-13	北斗第7	10	16.29	(25.0) L=321.0 m	(8,019) 25,584	"	11
98-14	西美第1	5	3.68	L=54.0m	(1,120) 6,847	11	"
98-15	西美第2	5	3.68	L=52.0 m	8,045	"	n
98—17	拓 殖	2	2.13	L=15.0m	981	"	n
98—18	旭 第 1	2	2.78	L=12.0m	924	n	n
98-25	オキキ第3	2	2.45	L=60.0m	6,736	道路	n

98—26	北瑛	第 3	2	12.24	L=286.0	7,480 <sup>ŦĦ</sup>	道 路	8 月豪雨災
小		計				(12,375) 91,147		
98-102	排	益	167	ι,887	L=II2m	2,614	畑(農地)	8 月豪雨災
98-103	新	栄	10	102	L = 147 m	1,467	"	"
98-104	妙	見	11	111	擁 壁 L=22m Uトラフ L=26.6m	4,526	n	ŋ
小		計				8,607		
98—16	中	宇	2	5.70	L=40	3,372	排水路	8月豪雨災
98—19	横	牛	31	127.80	(45m) 1ヵ所	49,650	頭首工	n
小	d	<b>#</b>				53,022		
	計					(12,375) 152,776		
合		計				165,151		

農地・農業施設災害第3次査定一覧表 (昭和56.11.4~5) 査定事業費上段()は災害関連事業費

地区番号	地区名	受益戸数	受益面積	<b></b>	查定事業費	工 種	被災原因
98-24	下 精 美	7	6.03	P C 橋 m B = 3.0 L = 14.7	<sup>千円</sup> 10,525	橋梁	8月豪雨災
98-21	川向第一	6	16.32	PC橋 B=3.0 L=13.9	12,385	n	n
98-20	川向第二	2	7.49	PC橋 B=4.0 L=13.9	15,218	II .	"
98-22	川向第三	4	22.97	PC栃 B=3.0 L=7.2 m	8,371	"	n
98-23	川向第四	3	5.53	PC橋 B=3.0 L=10.4	10,668	"	"
小	ä+				57,167		
98-27	美 開	3	26.47	法面保護 L=269.3m	14,468	道 路	8月豪爾災
小	計.				14,468		
98-28	夕 張	2	1.4	L=245.0 m	(1,340) 4,315	水 路	8月豪雨災
小	äl-				(1,340) 4,315		
98-106	旭 第 6 高林地区	ı	1.72		2,476	農地	8月豪雨災
小	류(-				2,476		
	ā†				(1,340) 78,426		
合	al al				79,766		

### (2) 災害関連事業

被害ヵ所が部分的に直接の被害はないが、ぜい弱で不安定のため、本災害と一連工事で施工するとその施設全体の機能が発揮され、再度災害を防止できる事業を災害関連事業という。

採択の要件は原則として関連事業費が 100万円以上で、かつ本災害復旧事業費をこえないものであること、また上回るものでも非常に効果的な場合は採択される。

内容的には差額関連・延長関連・断面関連と これらの2~3の組合せ関連があるが、災害査 定では次のように採択された。

再 掲

単位: 于四

地区番号	地区名	全体費	本災費	関連費
98 7	北斗第1	3,214	2,205	1,009
98-11	北 斗 第 5	7,077	4,850	2,227
98—13	北斗第7	33,603	25,584	8,019
98-14	西美第1	7,967	6,847	1,120
98-28	夕 弧	5,655	4,315	1,340
合 計	5 地区	57,516	43,801	13,715

### (3) 災害復旧工事の実施状況

昭和56年度における復旧工事の実施状況は、 次のとおりで現年度の復旧率は49.9%である。 残事業については昭和57~58年度で施工するが、川向第2地区番号98-20の橋梁は、昭和56年度で仮橋のみ応急工事を行い、本橋復旧は昭和57年度で実施する。

昭和56年度における工事の発注は、4回にわたり行った。

第1回発注 8月29日 3次査定分ではあるが 査定を待てないので川向第2の仮橋を一部応急仮 工事で発注、工事費1,854千円

第2回発注 10月6日 1次**在**定分 4ヵ所 工事費 46,476千円

第3回発注 11月17日 第2次査定水道分3ヵ 所 工事費 7,438千円 (8月7日発注応急仮工事 を含む)

第4回発注 12月19日 第2次査定分2ヵ所、 工事費 2,530千円

第5回発注 12月21日 第2次查定分5ヵ所、 工事費 42,530千円

発注合計 15ヵ所

工事費 108,266千円

農地・農業施設災害復田事業実施状況

単位:千円/( ) 関連事業分

地区番号	地区名	工 種	查定事業費	復旧工事費	事 業 費	契約年月日	<b>治工年月日</b>	完成又予定年月日
98-1	藤野第1	排水路	16,521	13,750	右岸215.1m、左岸165.7m	s 56.10.6	s 56.10.7	s 56.11.30
98 2	〃 第 2	11	5,287	5,000	右岸139.0m、左岸 36.0m	s 56.10.6	s 56.10.7	s 56.11.16
98-3	# 第 3	11	24,848	21,696	L=416.1m	s 56,10,6	s 56.10.7	s 56.11.30
98-14	西美第1	#	(1,120) 6,847	7,850	(右岸20.0m) L= 54.0m	s 56.12.21	s 56.12.21	s 57 . 320
98-15	"第2	11	8,045	7,540	L=51.8m	s 56.12.21	s 56.12.21	s 57.3.20
98-17	拓 殖	11	981	1,390	L=14.75m	s 56.12.19	s 56.12.21	s 57.2.27
98-18	旭 第 1	11	924	1,140	L=11.8m	s 56.12.19	s 56.12.21	s 57.2.27
9820	川 向 第 2	橋梁	15,218	® 1,854	L=13.9m	s 56.8.29	s 56.8.31	s 57.8.31
98-21	# 第 1	"	12,385	12,220	L=13.9m	s 56.12.21	s 56.12.21	s 57 . 3 .25
98-24	下 精 美	"	10,525	9,070	L=14.1 m	s 56.12.21	s 56.12.21	s 57.3.25
98-25	オキキ第3	道 路	6,736	5,850	L=60.0m	s 56.12.21	s 56.12.21	s 57.3.20
98~101	旭 第 6(中)	農 地	6,840	6,030	4.62ha	s 56.10.6	s 56.10.7	s 56.11.30
小	計		(1,120) 115,157	93,390	12ヵ所			
98-102	清 苗	農地(水道)	2,614	2,635	L=112m Ø100mm	56.8.7 \$ 56.11.17	s 56.8.7	s 56.12.15
98-103	新 栄	"	1,467	1,083	L = 147 m	56.8.7 \$ 56.11.17	s 56.8.7	s 56.12.15
98-104	妙 見	11	4,526	3,720	摊壁22m他	s 56.11.17	s 56.11.17	s 56.12.15
小	計		8,607	7,438	13ヵ所			
合	計		124,884	108,266	15ヵ所 復旧率=1	24,884÷250	0,025=49.	9%

### 2. 公共土木施設災害復旧事業

町で管理する道路・橋梁・河川の復旧は、公共 土木施設災害復旧事業国庫負担法(昭和31年6月 12日法律第148号)に定めるところにより申請し 事業を行う。

今回の災害は法定補助率は80%であるが、激甚 災害法の適用になればさらに上置きされる。(別 項参照)

### (1) 建設省の災害査定

法の定めるところにより、河川17ヵ所456,900 千円 (うち8,321千円は融雪災転属)、道路17ヵ 所 241,500千円、計34ヵ所 678,400千円の被害 報告を行った。内容は表-1のとおりである。

災害の査定は、次のように行われた。

### 1) 第1回 (2次查定)

9月3日-9月8日に行われ、申請12ヵ 所・174,703千円に対し決定13ヵ所(1ヵ 所分割)・156,988千円(89.9%)となった。

### 2) 第2回 (3次査定)

10月23日-24日と26日の3日間行われ、 申請20ヵ所・458,084千円に対し決定20ヵ所・ ・403,462千円(88%)となった。

### 3) 第3回 (4次查定)

11月25日-28日に行われ、申請6ヵ所・46,113千円に対し決定は6ヵ所・43,907千円 (95.2%) となった。

### 4) 査定3回の合計

申請38ヵ所・672,900千円(うち転属8,321 千円)に対し、決定は39ヵ所・604,357千円 (うち転属 8,321千円)・採択率89%となっ た。

尚、美瑛町の査定額は上川支庁管内の他市町村に比べ極めて大きく、管内の24市町村の合計2,616,884千円の22.8%に及び被害の大きさが解る。

異例の鐂中査定を行う建設省藤原



以上の査定内訳は表ー1のとおりである。

### (2) 査定に漏れたものの今後の措置

島牛川(五稜)・ポン旭川・第8川(旭)、二股川・下二股川(二股)など被害がありながら時間の都合等で査定を受けられなかった河川がかなり残されている。

これらは昭和57年の融雪災で対応したいが、 その復旧額は1億5千万円程度に達するであろう。

### (3) 災害復旧工事の実施状況

### 1) 応急復旧工事

緊急を要し査定まで待てないバス路線で交 通止となっていた、朗根内上俵真布線九線橋 地先、美瑛五稜線谷地先は全応急復旧工事と して8月10日に発注した。

また新栄新星線(新栄下川)地先については、 内応急復旧工事として通行に著しく支障のあ る部分を8月17日に発注した。

応急復旧は、計3ヵ所査定額18,049千円に 対して工事請負発注額17,692千円である。

尚、予算は新栄新星線は、内応急で本予算 で追加し、その他は専決処分による。

### 2) 第1回発注

第1回の査定を受けた13ヵ所のうち、応急 復旧分を除く10ヵ所のうちから、道路4ヵ所 と河川の積ブロック工によるもの1ヵ所計5 ヵ所について9月18日発注し、その査定額、 39,395千円に対し工事請負額は38,900千円と なった。

### 3) 第2回発注

第1回査定のうち、残った5ヵ所(河川のみ)について10月17日に発注し、その査定額99,544千円に対し工事請負額100,200千円である。

### 4) 第3回発注

昭和56年度の発注は工期的条件もあり、第 1回査定分の13ヵ所に止める予定であったが 11月9日の議会当日、道より「発生年度の実施 額は通常30%であるが今回は40%を目標に実 施のこと」の通知があり、議会の了承を得て 専決処分で予算の追加補正を行い、更に1億 円程度を発注することとなった。

11月18日に、第2回査定のうちから、河川 6ヵ所・査定額で95,586千円・工事請負額で 97,100千円を発注した。

### 5) 第4回発注

第3回の発注後、更に翌年度の繰上げ実施で全道平均45%の目標が示され、支庁の強い指導もあり、12月議会で予算を補正し、3ヵ所査定額51,632千円を12月19日に発注したが工事請負額は50,800千円であった。

### 6) 全体の発注

工事の発注は22ヵ所・査定額304,206千円・ 工事請負額 304,692千円となり、これが完了 すると復旧率は50.3%となる。

尚、発注の内訳は表-1のとおりである。

### 3. 町単独災害復旧工事の概要

災害発生と同時に水防活動を開始し、被害の増大を防ぐとともに、8月7日に災害対策費とあわせ現年災町単独災害復旧費11,100千円(工事請負費7,000千円・重機借上運搬1,500千円・資材費2,600千円)の補正予算を専決処分で措置、当面の復旧に着手した。

また、調査結果により9月定例議会でさらに、 14,000千円を追加して町単独費の復旧工事を実施 した。

この実施状況は、

- (1) 請負による工事カ所道路41ヵ所・河川27ヵ 所・計68ヵ所で、工事費は25,150千円 (予算 補正との差額は補助事業分を流用したもの)
- (2) 河道整理など重機借上による実施分42ヵ所 1,451千円
- (3) 資材費のみを支出し、町の重機等と「道路 工手」により直営実施したもの28ヵ所・2,598 壬円
- (4) 台風15号による「公園・街路」の樹木復旧3.750千円
- (5) 町有車両が災害復旧に稼働した状況は、8 月5日より20日迄の間で、ダンプ1日5台、 延69台/日、12,424km、ショベル1日2台延21 台/日81時間、グレーダー1日2台延26台/日 176時間である。





夕張川太田地先( 新工前と完成)

### 4. 国費関係災害復旧工事

旭川開発建設部が行ったもので、工事は旭川河 川事務所が実施した。

### (1) 被害の状況

美瑛川及び辺別川の直轄管理区間(1級河川 指定区間外)の被害が主で、国道等はなかった。







被害は築堤の欠壊など美瑛川で6ヵ所、辺別川で4ヵ所計10ヵ所、被害額は435,655千円である。尚、緑橋下流「花園5丁目」左岸は、実施中であった築堤工事の施工により復旧された。

国の災害は、一般災害と緊急災害復旧工事があり、8月8日には緊急災害の承認があり、ただちに概算設計で緊急分を業者発注して、実施設計を11日に取まとめ契約したようで、危険ヵ所については、極めて敏速に対応した。

一般災害についても8月12日より設計の取りまとめを開始して、9月7、8日に建設省の工法協議(補助の場合の査定)を行い逐次承認を受けて着工したようである。

### (2) 復旧状況

災害発生後ただちに緊急災分を辺別川は3ヵ 所のうち西神楽頭首工地先(旭第4 青島地先) 外1ヵ所を、美瑛川は美沢19線地先外3ヵ所、 計5ヵ所を8月10日より着工し、機械・資材・ 労力等を総動員する昼夜にわたる突貫作業を行い、早いところで8月19日に完成し8月29日に は5ヵ所の全部を完了する素早さであった。

関係住民はその迅速さに驚嘆している。

一般災は辺別川旭橋下流地先と、美暎川の憩 橋下流地先を除いて3ヵ所計4ヵ所が、10月31 日~11月21日までに着工され、12月18日までに 3ヵ所が完成し、みどり橋上流地先も近く完了 の予定で、昭和56年の復旧事業費は391,926 千 円となり、復旧率は93%となる。この内訳は表 -2のとおりである。

### 5. 道関係災害復旧工事

道関係は旭川土木現業所の事業が主である。このほか旭頭首工が上川支庁の道営で実施予定であるが別項に記載したので省略する。

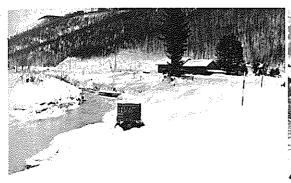
### (1) 被害の状況

宇萸別川・辺別川・置杵牛川・ルベシベ川など 道費河川(1級河川指定区間外)が大きな被害 を受けたが、昭和56年度内に建設省の災害査定 を受けたのは、宇萸別川・辺別川・置杵牛川の 3河川である。ほかは昭和57年度以降の機会に 回されており、また査定を受けた3河川のなか でも査定漏れがある。

被害の状況は表-3のとおりで、宇莫別川の被害が大きく、特に辺別川合流点から1番橋の間3.8kmの下宇莫別地区の被災が甚だしく、災害復旧費だけでは再度災害を受ける恐れがあり、改良費を加えた災害復旧助成事業として申請することになった。尚、助成区間を含む道の被害額は1,651,467千円に達し、上川管内合計額4,626,438千円の35.7%を占めている。

### (2) 復旧の状況

災害発生後8月25日に、辺別川俵真布九線橋 地先右岸300mを応急復旧として着工し、他は 災害査定を待って緊急度の高いものから順次発



注され、10月に4ヵ所、11月に8ヵ所が完了。 12月以降に6ヵ所が予定されており、昭和56年 度内に計18ヵ所査定額で56%(助成区間を除く) の復旧率となり、その状況は表-3のとおりで ある。

### 6. 道費下字莫別地区字莫別川 災害復旧助成事業

聖台ダムの水文記録は後に詳述するが、通常の場 合は、満水時(約400万m')の2分の1(191万m')程度 であるが、今回は降水量が多く、8月4日14時で 約370万㎡が貯水されていた。(昭和50年8月災 害の場合は水不足ぎみで 50m 程度)

このため5日7時30分には満水となり越流しだ し、10時には下流宇英別川の流下能力限度約70m<sup>2</sup> (河積が狭いため少い)に達し(68m)、11時には98 mとなり、各所で氾濫しだした。

14時30分には 130㎡に達したが、17時頃から減 水しだした。

下字英別市街地が全面的に浸水し、道路も通行 不能となったのは、聖台ダム下流の河川岸の立木 が倒れて流出し、河川のカーブ・頭首工等にこの 流木が懸り、流れをせき止め低地や用水路に流入 してこれがあふれて浸水したためである。

一番橋上流から聖台ダムの間でも、前川地先田 流失 0.8ha 等の被害はあったが、下流の辺別川合 流点まで 3.8km間がもっとも激しく、12ヵ所の河



·川藤田地先(煮工前2月16日写、3月5日護岸完成

川欠壊・床上浸水12戸・床下浸水22戸・田畑の流 失埋没9.52 ha・冠水34,64ha・浸水3.8ha・その他 の浸水59haの被害を生じた。

### (1) 事業申請の経過

被害が激甚であったことから、地区内では単 に被災ヵ所の災害復旧をするだけでは根本的解 決にならず、将来に不安があるので、この際復旧 とあわせて築堤新設を要望すべきとの声があがっ た。時を同じくして旭川土木現業所においても 改良費を加えて一定計画の河川改修を実施すべ きとの意見が強く、災害復旧助成事業の検討が 開始された。

被害の状況から助成事業成立の見通しはある が、本格的築堤となり用地を大きく要すること から、関係者の用地に対する協力が不可決であ る。土木現業所としては、この点が最も懸念さ れることから、地元関係者と協議し、同意を得 てから申請をすることとなった。

地元関係者は8月16日に下字英別川災害対策 委員会を結成していたが、これを宇茣別地区災 害復旧促進期成会に名称を変更して、9月5日 陳情と説明を受けるため山崎久豊会長ほか10名 の役員が土現に出向いた。

土現は、助成事業として申請する要件として、 地元関係者の同意書の提出を求め、9月9日に 現地において全員を集め説明会を開催すること になった。

説明会の結果、反対の意向を表明するものも あったが、ほとんどが納得し後日同意書を提出 することになった。数日を経ずして全員の同意 が得られたので、9月21日助成事業実施につい ての要望書に同意書を添付し土木現業所に提出 した。これを受けて土木現業所は本格的申請作 業にとりかかり、10月9日には建設省災害復旧 助成事業専門官の事前調査を受け、計画のつめ に入った。

### (2) 事業成立とその概要

10月23日、災害部分の査定が行われ、12ヵ所 復旧延長 3.930m (左岸 1.351m·右岸 3,125 m・支流左右岸各80m) 857,460千円の申請に 対し、12ヵ所・3,966m (左岸1,285m・右岸 3.116m·支流左右岸各80m) 785,576千円の査 定となった。

この災害費に、助成費 944,424千円を加え、 1,730,000千円で災害復旧助成事業を申請した。 事業は助成費の割合が50%以下であることが 原則であるが、経済効果が大きい場合、或いは 用地費等だ多額にのぼる場合は、助成費が50%

以上であっても採択されることになっている。

本地区の場合は、橋梁・頭首工など附帯事業 が多くて、助成費が50%以上になった。しかし 用地費が多額ということにはならず、経済効果 が決め手となる訳であるが、これがさほど高く なく採択までに種々の問題はあったが、助成費 の申請額944,424千円に対し887,000千円(減 57,424千円) が認められ12月23日1,690,644 千 円で内定した。(内訳別記)

### 事業の概要

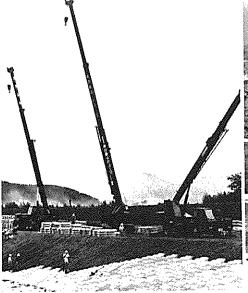
施行延長 3,820 m 計画洪水流量每秒410 m' 河幅堤間 60m低水敷幅、13.0~18.5m 附带事業 国道橋、鉄道橋、道道橋各1 頭首工1

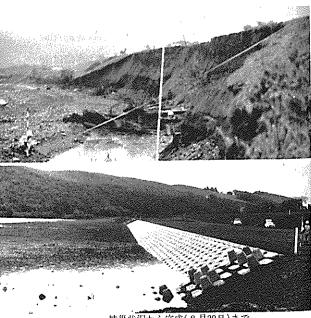
### (3) 実施状況

事業は災害発生年度を含めて4年間で実施す ることになる。昭和56年度は403,330千円の予 算がつき、年度中に用地買収補償(建物等の年 度中に移転できないものは除く)と、一部工事 が実施され上流より着手する。



(美瑛川美沢 9 線原田地先)





被災状況から完成(8月29日)まで

		٠ ا		4.4.		r:f->	J.F.		311			復	旧状	況
対図	被災	力所		被		事	状		況				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
番号	路線・河川名	地先名	報告額	申請額	査 定 額		復	IB	内	容	査 定	発 注	工期	完 成
3294	美 瑛 阿 満 線	花園土井	30,000	22,008	21,180	復旧延長	L=104	積ブロ	ックエ	,	1%-1%	11/18	1/19∼1/31	57.1.30
3295		" 大曲	20,000	15,603	15,603	IJ	L=95	,	,		IJ	12/19	13/20~3/20	57.3.13
3296		中本 KP %	50,000	71,490	61,095	η	L=239	コンク	リート	推壁工	11			
3297		″ KP %	35,000	54,213	49,130	11	L=146		n		n			
3298		" 中本橋	18,000	26,144	23,511	н	L=96	積ブロ	ックエ		11	11/18	%~%	57.1.30
949		美園 江 花	23,000	24,988	22,843	n	L = 120	J	'I		%~%	%	%~%	56.11.27
		小 計	176,000	214,446	193,362									
3299	新栄新星線	新栄竹内	3,000	1,754	1,754	"	L=27	盛土、	上留工	段耕工	1%~1%			
3300		<b>" 周東</b>	2,000	1,252	1,252	"	L=18		н		IJ			
3301		"佐藤	5,000	907	912	п	L=33	盛土	段耕工		IJ			
950		11 下川	9,000	6,719	6,840	n	L=71	盛北、	上留工	段耕工 内応急	%~%	%	8/1~1%1	56.10.21
		小 計	19,000	10,632	10,758									
4220	白金美瑛線	白金 育成牧場		819	819	II	L=7	盛土、	上留工	段耕工	%~%			
4221		" 両泉橋	9,000	6,535	5,440	11	L=91	盛土、	変芝、路 リート	盤舗装 擁職工し= 9	"			
		小 計	9,000	7,354	6,259									
4222	美望ヶ原 美沢線	白金 育成牧場		1,279	1,279	n	L=17	盛土、	上旬工	段耕工	11/25~11/28			
947	朗根内上俵真布線	朗根内 9線橋	10,000	7,883	7,688	"	L=55	盛土、	路盤工	舗装工 全応急	<i>1</i> 3~%	8/10	%-%	56.9.10
948	美 瑛 五 稜 線	夕 張 谷 屋	3,000	3,549	3,521	n n	L = 23	盛土、	上留工	段耕工	"	Н	n	56.9.10
951	美馬牛ルベシベ線	ルベシベ 横山	3,000	985	1,027	"	L=13	盛土	段耕工		)I	%	%-%	56.10.21
952	みどり線	みどり 滝 沢	2,000	1,784	1,818	"	L=20	盛土	段耕工	土留工	11	11	11	56.10.23
953	新区画下宇莫別線	新区画 嵯 城	4,500	4,147	4,049	n	L=90	盛土	段耕工	舗装工	"	H	n	56.10.31
3293	宇莫别明治線	下 宇 前 川	15,000	4,613	4,524	"	L=180	盛土	張芝	路盤工	1%~1%			
	道路計	19カ所	241,500	256,672	234,285	grafic description of the	enter en en en en en en en en en en en en en		rass, is sign and	ologia veljeti iz Leiovanovi veljeti ne	年内発	£ 108,08	30 発担	46.1%

942	宇	英	別	]][	藤山	稲川上	}	)	15,102	復旧延長	L=177	蛇酱工	L=17	7	%~%	19/17	10%~12%	56.12.19
942-1					"	稲川下	75,000	25,949	4,200	"	L=44	"	L=44		"	,11	11/18~11/30	56.11.28
943					JI	7/2	45,000	46,243	47,108	n	L=398	11	L=55	·	i	")	11/18~1/31	57. 1 .30
					小	 計	120,000	72,192	66,410		- 000							01.1.00
3282	從	杵	4:	):[	協英	下司		9,395	9,395	II	L=70	連結	ブロック	クエ L=95	1%-1%	12/19	12/0~3/0	57. 3 .13
3283					"	餌 取	9,600 {	9,791	7,814	IJ	L=69		n	L=79	1/23 726	11/18	11/19~12/30	56.12.17
3284					n	桑 尾	18,000	31,708	30,429	н	L=282		н	L=416	"	11	1/19~1/31	57. 1 .11
3285					11	協英橋	45,000	28,456	26,634	ŋ	L=279		n .	L=368	,,	13/19	1/20~3/20	57.3.13
					小	 計	72,600	79,350	74,272							7 1.1	1	
944	夕	<b>9</b> 1.		][[	美田	太田	14,000	16,790	9,658	н	L=69		ロック	L L=149m	%~%	9/18	%~%	56.11.20
3287					11	東	ſ	60,603	52,481	ħ	L=325	位プ	ロック	L = 647 L L = 325	%~%	716	713 730	
3288					11	北美橋	96,000 {	34,775	28,629	n	L=183	一 遊 位プ	ロックニ	L L=216	11			
					小	計	110,000	112,168	90,768			11274	<u> L — </u>	62.落差工 4 基				
945	美	Į.	 I	Щ	美田	岩田	25,000	20,264	18,216	ŋ	L=130	連結	ブロック	クエ L=230	%~%	11/17	11/18 - 1/20	56.12.19
946					n	水口	8,000	15,402	14,918	n	L=107		"	L=107	n n	11	111	56.12.19
					小	計	33,000	35,666	33,134									331333
3289	俵	Ų(	布	Щ	俵真布	稲辺下	11,000	8,569	7,142	n.	L=98		11	L=196	%~%	11/18	1/20~1%	56.12.24
3290					1)	稲辺上	8,000	6,664	5,510	"	L=75		n	L = 150	11	11	"	56.12.25
3291					П	畑 野	11,000	12,173	8,941	<i>n</i>	L=79	位プロ	ックエ	L = 158 L = 79	n n			
					小	at-	30,000	27,406	21,593	***		15K 14K		L-75				
3286	藤	II.		Щ	藤山	入 江	27,000	24,620	17,677	"	L=145	横プロ	ックエ	L = 283	"			
3292	ル~	ベシベ	3 积	——— 泉川	ルベシ	べ西出	33,000	33,346	29,849	n	L=213				ıı			
4217	オ	7	ン	Щ	美園	1 号橋	2,000	3,538	3,538	"	L=26				%~%	2/16	2/7-3/2	57.3.13
4218	美人	馬牛 中	中のり	R JII	美馬牛	佐藤	(8,321) 15,000	(8,321) 17,245	(8,321) 16,835	n	L=210				"	-	1	
4219	ポ	ン	旭	Л	旭	石 井	14,300	16,697	15,996		L=127				11			
		河川	<u>}</u>		20 ;	が所	(8,321) 456,900	(8,321) 422,228	(8,321) 370,072	U		10名 1本	_1	L-102	発達額 1	196,126	】 発記率 53	
	CONTRACTOR OF THE PARTY OF THE		ät		301	HIFF.	(8,321) 698,400	(6,321) 678,900	(8,321) 604,357		177115644	1750(4:1	(分寸内	<b>だてある</b>			SELECT 50	

表-2 昭和56年度 直轄河川災害復旧事業概要

対図番号	被災個所名	承認額	実施額	実 施 概 要	工 期	備考
1	辺別川旭橋下流地先	<sub>千円</sub> 25,850	千円 24,550	・護岸工 L=170m A=1,972m²	56.10.31 ~57.2.8	一般災 56.12.18完成
2	辺別川旭第3地先	21,103	19,400	・護岸工 L=90m A=1,476m <sup>r</sup>	56.10.31 ~57.2.8	一般災 56.12.18完成
3	辺別川西神楽第1頭工地先	37,125	35,900	· 築堤 L=150 m V=5,300m · 護岸工 L=150 m A=2,850m	56.8.10 ~56.8.24	緊急災 56.8.24完成
4	辺別川鉄道橋下流地先	18,272	22,140	· 築堤 L=100 m V=2,290 m' · 護岸工 L=100 m A=1,668.5 m²	56.8.10 ~56.8.19	緊急災 56.8.19完成
5	美瑛川憩橋下流地先	31,594		・護岸工 L=150m A=1,650m	,	一般災
6	美瑛川緑橋上流地先	46,589	43,746	・護岸工 L=202.3m A=2,843.2m <sup>r</sup>	56.11.21 ~57.3.26	一般災
7	美瑛川美沢9線地先	98,090	88,850	・築堤 L=240 m V=10,900m'・護岸工 L=240 m A=3,360m'	56.8.10 ~56.8.29	緊急災 56.8.29完成
8	美瑛川美沢19線地先	81,386	82,600	·築堤 L=240m V=12,400m³ ·護岸工 L=240m A=3,120m³	56.8.10 ~56.8.29	緊急災 56.8.28完成
9	美瑛川美沢20線地先	69,129	69,100	· 築堤 L=170 m V=7,900m' · 護岸工 L=170 m A=2,210m'	56.8.10 ~56.8.24	一般災 56.8.24完成
9	美瑛川美沢20線地先	6,517	5,640	・護岸工 L=15m A=195m <sup>2</sup>	56.11.14 ~57.1.22	一般災 56.12.15完成
	<del>ā </del>	10ヵ所 435,655	9ヵ所 391,926			

					平 位:L=m A=m
************	被 災	個 所		被 災 状 況	復 旧 状 況
対図番号	路線・河川名	地先名	査 定 額	復 旧 概 要	発注月日 摘 要
1175	美馬牛 神楽線	美 園	26,243 <sup>刊</sup>	復旧延長 L=306 積ブロックA=153.5㎡ 嵩上コンV=116㎡ 切トラL=190mほか	56.11.13 57.2.20
1176		五 稜	1,436	" L=10 コンクリート擁壁L=10m 落石防止栅L=10m ほか	и 56.12.25
		小 計	27,679		
1172	松山美瑛線	長 城 壁	32,264	# L=62 コンクリート構築L=40m 根継工L=22m	56.10.13 56.11.16
3444		立琴の岩	9,709	〃 L=56 根固工L=56m 509空m'	56.12.18 57.2.15
		小 計	41,973		
3435	ルベシベ上富良野線	二股青葉	1,598	〃 L=17 積ブロック A=38m (L=17)	56.12. 8 57. 1.20
	道路計	5ヵ所	71,250		5 ヵ所 71,250 発注率100%
2429	辺 別 川	横牛 横牛橋下流	38,709	" L=佐198 連結ブロックA=1,764 m 根固工L=194	56.12.15 57.3.12
2430		" " 上下流	16,821	n L=(台81 n A=734 n L=82	年度内
2431		" " 上 流	25,006	n L=位125 n A=1,420 n L=80	56.12.15 57.3.5
2432		" 幸橋下流	13,001	n L=位75 n A=599 n L=56	57.1.26 57.3.2
2433		" 幸橋上流	10,959	" L=佐54 " A=440 " L=56	
2434		朗根内 藤 岡	18,148	n L=(台)132 n A=921 n L=73	年度内
2435		" 石 丸	13,876	$u = L = \frac{115}{115}$ $u = A = 828$ $u = L = 30$	
913		# 舟 木	30,595	n L=低160 n A=1,730 n L=110	年度内
914		" 大 渕	14,158	" L=位100 " A=753 " L=50	
917		リ 9線插上下流	62,757	" L=佑300 " A=2,630 " L=178 内応急	56.8.25 56.12.17
916		俵真布9線橋下流	11,380	n L=位)56 n A=504 n L=56	
915		"伊藤	27,092	n L=位133 n A=1,197 n L=133	
918		# 柴 田	25,613	# L=佐147 # A=1,204 # L=106	年度内
		小 計 13ヵ所	308,115		8 ヵ所 230,650 発注率74.9%
870	置杵牛川	向上藤野橋下の1	8,022	" L=铂62 連結ブロックA=558	56.10.30 56.12.10
871		# 下の2	12,757	〃 L=(台)99 〃 A=920	" 56.12.10
2437		"水野沢橋	26,978	″ L=炉133 炲110 連結ブロックA=1,780 根固工L=18	
2438		" 水野沢橋上流	3,143	n L=始25 連結ブロックA=175	
872		下精美 保 田	20,448	″ L=佑118 佑98 連結ブロック A=1,493	56.12.8 57.2.16
2439		" 佐々木	8,595	n L=佐88 連結ブロックA=574	
873		上精美 白滝橋下	6,575	〃 L=位50 〃 A=333 根間エL=19	

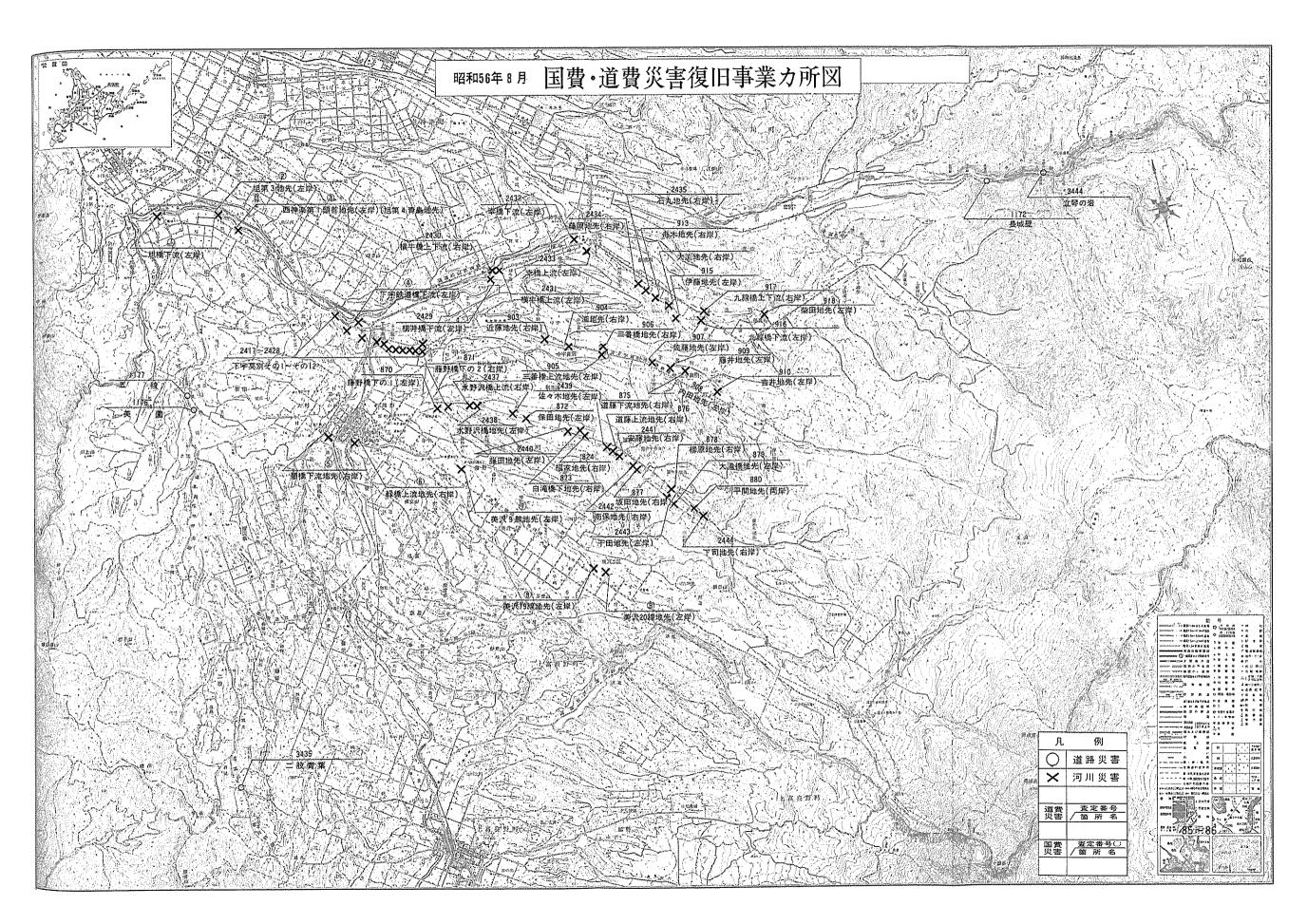
874	置档	- 4	- ][	上精美	福家	11.967 <sup>[]</sup>	復旧延長	L=(台)117	連結ブロッ	クA=866		57.2.12	
875	110				道藤下流	3,542	11	L=(行)30	IJ	A = 195			
876				<u> </u>	道藤上流	3,778	ıı	L=( <del>(i)</del> 32	11	A = 208			
2440					藤 田	6,970	II	L=(付56	n	A =388		57.2.12	
877				置杵牛中	央 坂田	9,166	н	L=(台)100	11	A =650		"	
878				n	柳原	6,468	11	L=(台67	11	A = 436		57.1.26	
2441				, n	安藤	9,321	11	L=(句)117	11	A =802		57.2.12	
2442				"	南保	8,853	11	L=(台)90	11	A = 561			
2443				"	千田	5,047	11	L=(左)46	11	A = 281			
879				置杵牛捣英	大滝橋上	5,036	11	L=付53	11	A = 345			
880				11	平間	20,263	11	L=佐114(	台118 "	A = 1,530	ò	年度内	
2444				"	下買	8,412	11	L=(右)93	11	A =592			
				小 計	19ヵ所	185,341	11					9ヵ所 18	05,382 発注率56.9%
903	宇 募	<b>5</b> 另	j 11	中字英别	近藤	25,718	11	L=(付)161	連結プロッ	クA=960	築堤工L=75		
				n							根固工.L=158		
904				"	浦	30,030	11	L=(台)110	連結ブロッ	クA =880	築堤工し=90	年度内	
											根固工L=110		
905				"三番	橋上流左	28,203	11	L=(加140	連結ブロー	クA=1,102	築堤工L=100	56.11.27	57. 2.15
											根固工L=140		
906				" 三番	橋上流右	34,536	B	L=做191	連結プロ・	クA=1,520	根固工L=189	年度内	
907				ŋ	佐 藤	39,202	11	L=(纪)221	連結ブロッ	ク A = 1,785	築堤工L=150	56.11.27	57.3.2
											根固工L=190		55.00
908				n	内田	32,160	"	L=佐165	連結ブロー	クA=1,320	築堤工L=114	56.11.27	57.3.2
											根固工L=165		
909				"	藤井	60,827	"	L=位403	連結プロ・	クA=3,459	築堤工L=160	56.11.30	57.3.8
											根固工L=180		rg 0 00
910				上宇莫別	吉 井	50,509	"	L=佐370	連結プロ・	クA =3,210	) 築堤工L=73	56.11.30	57.2.22
											根固工L=120		
				小 計	8ヵ所	301,185	ji					7ヵ所 2	75,467 発注率91.5%
	宇力	芝为	ij Jij	下宇莫別	その1	91,260	L=倍6	35 m 連結で	ブロック A =	3,869㎡ 排	水工~2ヵ所		(助成区間)
							根固二	LL = 370 m	1,295空m <sup>*</sup>	$(1 t \sim 1.48$	887)		

	字 英 別 川	下字莫別 その2	86,954 <sup>Ff1</sup>	L=492m(左61m 右462m) 連結ブロックA=2,998m 排水工~1ヵ処		(助成区画)
				根固工L=376m 1,332空㎡ (1 t~1,530ケ)		
その1		その3	92,051	L=406m佐145m 右370m) 連結ブロックL=515mA=3,605㎡		
5				帯工~2基 根固工L=515m 1,803空㎡(1 t ~2,072ケ)		
その12		その4	75,616	L=293m(左177m 右230m) 連結ブロックL=407mA=3,053㎡		
までー				帯工~3 基 根固工L=407m 1,425空㎡ (1 t~1,637ケ)		
括図示		その5	69,620	L=318m(左215m 右270m) 連結ブロックL=455m A=3,311m		
				帯工1基 積ブロック L=455m A=3,311m 根固工L=270m 1,015空m (1t~1,166ケ)		
		その6	67,111	L=255 m(左) 連結ブロックL=126 m A=995 m		
				コンクリート片法枠工 =129m 根固工L=205m 705空m'(1t~810ケ)		
		その7	59,484	L=322m(左19m 右322m) 連結ブロックL=341m A=2,618㎡		
				帯工~1基 根固工L=262m 917空㎡(1t~1,054ケ)		
		その8	91,795	L=510 m(右) 連結ブロックA=3,885 m <sup>*</sup>		
				根固工L=450 m 1,575空m'(1 t~1,810 m')		
		その9	36,560	L=185 m(左) 連結ブロックA=1,338㎡		
				根固工L=185 m 648空m' (1 t ~745ケ)		
		その10	32,180	L=177 m(右) 連結ブロックA=1,372㎡		
				根固工L=133 m 464空m'(1 t ~533ケ)		
		その11	55,784	L=234m 本流228m(左) 支流80m(両岸) 連結ブロックL=247m		
				A = 1,973 m' 積ブロックL=127 m A=378m' 根固工L=228 m 798空m'(1 t~917ケ)		
		その12	27,161	L=140 m(右) 連結プロックL=140 m A=1,050 m <sup>2</sup>		
				根固工 490空㎡(1 t ~563ケ)		
		小計 12ヵ所	785,576		57.1.27	
	河川計	52ヵ所	1,580,217			
	合 計	57ヵ所	1,651,467			

注) 1. 下字莫別川災害助成事業全体計画 事業費 1,690,644千円 (災害費 803,644千円 助成費 887,000千円)

災害費=查定決定額 785,576千円×1,023=803,644千円





### 各種団体による災害復旧対策

町は各関係団体と連絡協議を行いながら対策を 進め、各団体においても積極的な措置を講じたが、 その状況は次のとおりである。

### 1. 美瑛土地改良区

8月4日より6日までの間、全職員により17ヵ 所の取水頭首工の水門閉鎖、ゲート操作を行うと ともに巡視、被害調査に当った。

その後応急工事及び災害復旧工事の設計施工に 務めた結果は次のとおりである。

(1) 第3回理事会を8月27日に開催し、頭首工は 朗根内等9ヵ所、用水路は置杵牛協英等6ヵ所、

排水路中字莫別等 2 ヵ所、揚水機 1ヵ所、被害 額42,000千円の被害報告を行う。

- (2) 農林水産省第2次査定を10月1~2日の両 日に受け、横牛頭首工49,650千円、中宇莫別排 水路 3,372千円で採択された。
- (3) 臨時総代会を9月22日に開催し、中宇幕別 排水(事業費3,870千円)、横牛頭首工(事業費49,450千円)の施行議決と、協英頭首工等21ヵ 所1,600千円の単独費復旧事業の予算補正を行う。
- (4) 災害応急工事及び単独費復旧工事は8月10 日より着工し9月末に完成したが、工事箇所21 カ所事業費約2,500千円である。

農業施設災害復旧工事の施工状況は次の通り で、復旧率は90.6%になった。

地区番号	地区名	工種	<b>査定事業</b> 費	復旧工事費	事 菜 量	契約年月日	着工年月日	完成又予定年月日
98 — 16	中宇幕別	排水路	3,372™	3,000 FP4	L = 40 m	S 56年10月26日	S 56年10月26日	S 56年11月30日
98 — 19	横牛	頭首工	49,650	43,550	護床護岸他	S56年12月29日	S57年1月6日	S 57年 3 月30日
			(横牛頭	首工S56年実	施約90% 49,650「	$^{19} \times 0.9 = 44,685^{\text{FH}}$	)	
計	2 ヵ所		53,022	46,550	復旧率 <sup>48,057</sup> =	90.6%		

(5) **復旧は概ね年度内**に終るが、分割施工した 横牛頭首工(残量約10%)を、昭和57年度に実施 してすべて完了する。

### 2. 西神楽土地改良区

美瑛町旭地区 101戸、355haを灌がいする旭頭首 工の被害が最大であった。

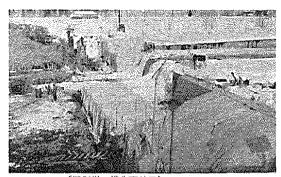
8月3日夜半より4日朝にわたる豪雨のため、 4日3時より出水状況、被害状況の確認のため見 廻りを行ったが、旭頭首工は6時現在で水位は上 昇中であったが被害は無かった。

同日18時見廻り時点でも同様であった。

5日6時見廻り時には、水位は高水敷を超え導 水路の一部が被災し遂次拡大、堰堤体の約50%を 流失するに至り取水不能となった。

6日美瑛町及び上川支庁に災害報告を行ふとと もに、緊急にポンプ揚水機5基を設けて、臨時取 水を行ったが、これが復旧対策についての経過は 次のとおりである。

- (1) 8月6日上川支庁及美瑛町で現地調査
- (2) 8月10日緊急理事会他4回にわたり理事会 を開催し、災害状況を報告し対策を協議する。
- (3) 8月10日上川支庁で現地調査を行ふ。
- (4) 8月11日旭川開発建設部長に陳情する。



[辺別川·横牛頭首工] 護岸·護床·床止工施行中(57.2写)

- (5) 8月13日農林水産省で災害査定事前調査を行ふ。
- (6) 8月31日及び12月21日総代会を開催し、予算その他につき議決。
- (7) 9月3日~4日農林水産省第1次災害現地 査定が行われた。
- (8) 11月6 日大蔵省協議が終り次のように本決 定された。

地区番号 98-6 旭地区

- 工 種 頭首工 堤体及護床護岸 査定事業費 210,145千円
- (9) 12月9日北海道開発局に陳情する。
- (10) 昭和57年4月に取水するため、応急工事を 実施するが、道に要請し道営事業として施工の 予定である。

本復旧工事は北海道開発局に要請し、治水上支 障のない施設とするため、河川費と災害復旧事業 費残額を合併し、国直割の河川付帯工事として、 昭和47年より4ヵ年の予定で実施される見込であ る。

### 3 聖台土地改良区

災害復旧事業等には直接関連はないが、下字莫 別地区及同市街地の災害につき参考までに、聖台 ダムの操作状況をダム管理事務所の資料により記 録する。

### (1) 概要

8月4日1時30分より6日4時までの連続降雨により、上流河川が増水し、8月5日7時30分流入が始まり、直徹的に常時満水位になり毎秒0.2m越流したが、増水前4日2時10分の貯水位は277mであった。

このためダム下流地域の危険防止のため、直 ちに美瑛消防署(美瑛消防団第5分団)に予備 警戒体制を要請する。

10時越流量が毎秒68㎡となったため下流域に 警戒体制を要請するとともに、サイレン及び公 報車により周知し、警報連絡系統にもとずき関 係機関に通報する。尚この措置はダム操作規程 により、70㎡に達する15分前に行うことになっ ている。

5日14時30分に越流量毎秒 130㎡に遠し最大 となったが、6日12時30分57㎡に減水し旭川気 象台の大雨洪水警報も解除されたので下流地域 の警戒体制を解いた。

### (2) ダムの操作状況

ダムには取水用斜樋がNo.1よりNo.6まであり、各々満開の1.20mで毎秒約5mの放水能力を有し、このほか排砂用とで7ゲートがあるが、通常はNo.1とNo.2で調整を行ふもので、その状況は次のとおりである。

- 1) 8月4日2時出水調整のため、斜樋ゲートNo.2を閉廊し0mとした。これは水位が上昇することにより水没し操作不能となるからである。
- 2) 8月4日2時10分出水整整のため、№ 1ゲートを0.60m開解する。
- 3) 8月4日18時出水調整のため、No.1 ゲートを1.20mに開扉する。
- 4) 8月5日9時下流河岸損傷及び危害防止のため、No.1ゲートを0mに開解する。 この時点で超流水位0.35mであった。
- 5) 放流は4)で全く停止して越流のみとな

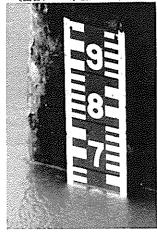
- り、14時30分最大貯水位に達し、越流水 位も 0.675 m となり、設計洪水位にあと 0.235mに迫つたが、幸いにしてその後 横這いとなり、17時頃より遂次減水した が、8月12日の豪雨の影響もあり、16日 に越流が止った。
- 6) 8月6日より7日に至り、越流堰に大 量の流木等が懸り流下の不安が生じたの と、下流の河川災害、応急工事の状況を みながら15日にダムの放流を開始した。
- 7) 流木は湛水中の9日に引揚を試ろみた が処理不能のため、放水後の冬期に機械 作業で実施し融雪期迄に完了するが、約

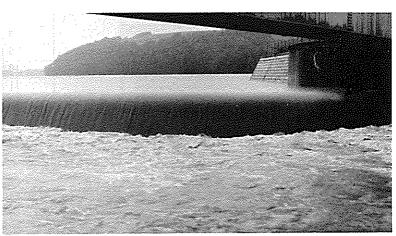
- 3,000m'の流木等を搬出し土取場跡地に 集積の予定である。
- 8) 下流取水頭首工は、4日1時にゲート を揚げ取水樋門をとじた。7日流木土砂 等を除去して、18時に毎秒 0.4m を通水 した。

### (3) ダム越流量の状況その他

今回の越流量の最大は毎秒 130m'で、設計洪 水流量 175㎡に対しまだ余裕があった。下流地 域に大きな災害をもたらしたのは河川岸の倒れ た流木等が流水を阻害したのも一因であるが、 無堤で河積の狭いのが最大の原因であった。ダ ムの諸元及水文記録と越流量を参考に記載する。







水深67.5cmを示す水位計、毎秒 130m'の 濁流が越流する越流堰(8月15日15時写)

### L 諸 元

### 聖台ダム ダム名

流	城	面	積	57.1	km²	貯	水	池	ītī	積	0.51 km²
総	貯	水	ilt	3,999	tu,	有	効	貯	水	ilt	3,962 千m <sup>*</sup>
5	ム天が	品 楞	高	281.30	m	ダ		L		髙	26.1 m
設	計 洪	水	位	279.18	m	常	時	満	水	位	278.27 m
設	計 洪 ;	<b>火</b> 流	· 量	175 г	n/S	計	画	В	酮	批	不明 咖/日

		項目	時間 最大	ダム最大 貯 水 位	最大流入量	最大越流量	累計雨量	特	īZ	赴	項
***************************************	時	刻	5 日 11~12 時	5日 15:30時	5日 15:30時	5日 (5:30時	日時~日時 4日~6日		***************************************	***************************************	
	数	値	nn∕h 14	m 278.84	m'∕B 130	m²,/ S 130	na 202.2				

盟台ダム越流量一覧表

(聖台管理事務所調)

月	В	時	問	流量 (毎秒m²)	月日	峙	间	流量(毎秒m²)
8.	5	7	30	0.2	8, 6	0	30	103
		9	00	52		1	30	103
		ğ	30	63		2	30	98
		IO	00	68		3	30	95
		11	00	98		4	30	92
		12	00	106		5	30	*87
		12	30	111		6	30	82
		14	00	128		7	30	77
		14	30	130		8	30	73
		15	30	130		9	30	70
		6	30	130		10	30	68
		17	Ō0	122		11	30	63
		17	30	117		12	30	57
		22	30	98		18	00	52
		24	00	98	8.7	6	00	12

- 註(美瑛町) 1. 洪水の越流能力(洪水吐能力)は203.29㎡で(越流水深0.91m)これ以上になるとえ ん堤に危険性が生じる。
  - 2. ダム天端標高281,30 m 設計洪水位279.18 m で、その羞は2.12 m あり設計洪水流量130 m をこえてもえん堤高2.12mの予裕はあるが、この部分は比較的弱く危険である。
  - 3. 今回のは能力203.29㎡に対し |30㎡であったのから、ダムとしては、まだ 73.29㎡の 余裕があった。
  - 4. ダムとしての限界能力 (ダム天端迄満水の場合) は 381.9㎡である。

### 4. 美瑛町農業協同組合

町その他各機関とともに災害状況の調査、資材 の手当等を行った。また組合所有の工場、倉庫等 の防災、排水及入庫中の米の倉替えを全職員で実 施し、3日間で処置を終らせた。

今回の災害状況より理事会の承認を得て、予算 措置を行い9月4日に、常勤理事が被災地を見舞 ったさい、1戸当り床上浸水20,000円を2戸、農 地の流失、埋没10 a 以上20,000円を32戸、またこ

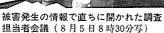
れ以下の被害に対しては、10,000円を25戸に見舞 金として贈呈した。

地区は大久保、新星・美馬牛第1・五稜第1・ 美田第3・旭・置杵牛協英・下字莫別、藤山等で あった。

小麦の乾燥調整には特に留意して、仮貯蔵中の 発芽を防止するために馬鈴薯倉庫を利用し、機械 の整備運転・乾燥技術に細心の注意をはらい操業 の結果、3等規格以内で全量政府買入れができた。

### 農林業被害と対応策





# 置杵牛協英地区の被害現地調査

### 1. 被害の調査

8月5日被害発生との情報により、8時30分か ら役場議員控室で町・農業委員会・大雪地区農業 改良普及所・美瑛農業協同組合・美瑛開拓農業協 同組合・美瑛町農民同盟の担当者会議を開催し、 方面別に次のように11班を編成し調査を行った。

|班 旭・北瑛

2班 大村・美田・五稜

3班 ルベシベ・二股

4班 美馬牛・新星

5班 福富三愛・水沢

6班 美沢・藤野・原野

7班 新区画・置杵牛・明治

8班 下宇莫別・中宇英別・上宇英別

9班 横牛・朗根内・俵真布・忠別

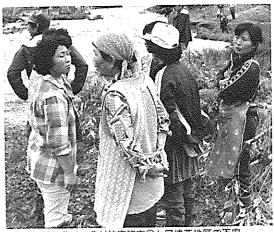
10班 酪農関係

|1班 総括

被害の数量及び金額を調査することは非常に困難であるが、この時点では冠水した水稲、馬鈴薯等の病害虫の発生、麦の倒伏による穂発芽が予想されるので、減収と規格外による所得減を想定し

て、8月6日現在における被害状況を取りまとめた。結果は表-2のとおりで道に速報した。





下精美での農村被害調査(全)と同協英地区で不安 そうに洪水を見いる人びと(5 日写)

### 2. 被害の報告

被害調査とともに、町及び各関係機関と被害農家自身の対応により状況が好転し、さらに上川農業試験場と大雪地区農業改良普及所の技術指導のもとに、関係団体の技術対策によって被害を軽減することが可能となったので、被害の算定には非常に困難はあったが、農業委員会、普及所、農開協による再調査の結果は、表-3のとおりで、これを道に対して8月15日現在の最終報告とした。

### 3. 対 応 策

大雪地区農業改良普及所を中心として、町内関係機関による各種対策を実施したが、これも確実なる手法と、その有効性をただちに見い出すことが困難であった。

被害は長雨と冷湿害、日照不足等と複合して、 農作物全般に及んだが、特に冠水地域における水 稲、豆類、甜菜の被害が大きく、また水稲転作地 帯に集中した傾向があり、時間の経過とともに実 態調査を行い、排水施設の修復、流入物件と土砂 の除去、病害虫の防疫、防除を中心にPRを行い 実施した。

また秋蒔小麦の刈取は、例年より5日~7日遅れて災害時点では約40%であったため、天候をみながら徹夜で収穫し、農協ライスセンターは3交替の連続操業を実施、受入後の仮置きに馬鈴薯貯蔵庫を使用する等乾燥調整に特別の配慮を行い、結果的に大きな被害は生じなかった。

### 4. 被害の実態

農作物の被害は、最終的に収穫をして出荷し、 はじめて実質的被害の有無が判明するもので、 これを予測することは全くむずかしいものである。 農作物最終被害報告を作成する時点においては

農作物最終被害報告を作成する時点においては これが衆目の一致したのころであったが、でき秋 においては、必ずしもこれが一致するものではな かった。

農作物は一時的な異常気象よりも、長期にわたる条件と、特に経営管理と技術による結果が大であり、また経済情勢にも左右されるため、被害を特定することは至難であるが、参考迄に今年農作物生産額をまとめると表-1のようになる。

なお収量において、平年より差の大きかった作 物の特殊事情を付記しておく。

(1) 豆 類 播種後の低温で発芽は例年より遅れ、さらに続いた低温のため生育が不良で軟弱であった。加えて豪雨・長雨により土壌は過湿のため着莢の減少、粒数も少なく特に、排水不良地域・転作地において根腐病も多発した。又台風15号によって落葉・莢の被害を受けるとともに、登熟期の天候不順も重なり地域的に相当の被害を受けたため、地域的にあるいは個々に、格差の出たことが特徴と言えよう。



美瑛川沿いの小豆被害(旭第6、8月5日写)

- (2) 馬鈴薯 前記豆類と同様であるが、特に男 の腐敗は例年になく多く、被害は甚大であ った。しかし農林1号の影響は軽かった。
- (3) てん菜 移植時は高温、多照で活着は順調であったが、その後低温で遅れぎみのところに豪雨・長雨で根群の活性が弱められ、排水不良地では根腐病も多かった。又台風15号によって成業が痛められ登熟期の不順な天候と

表-1 昭和56年農産物生産額調書

作	物	名	作付面積	平年10 a 当 収 量	本年10 a 当 収 量	本年収量	本年生産額	減収額	10 a 当 収量比率	摘 要
水		稲	1,271	kg 472	kg 456	kg 5,795,760	千円 1,611,221	<sub>千円</sub> 56,534	% 96.6	単価は、道の災害報 告用統一価格を採用
小		麦	2,880	330	340	9,792,000	1,653,868	_	103.0	
大		豆	284	209	170	482,800	138,482	31,769	81.3	
小		豆	1,172	192	105	1,230,600	470,950	390,216	54.7	
菜		豆	523	189	103	538,690	146,523	122,340	54.5	
馬	鈴	薯	1,516	3,520	2,640	40,022,400	1,680,940	560,314	75.0	
て	h	菜	842	5,295	4,633	39,009,860	819,987	117,166	87.5	
た	まね	ž	22	4,447	4,447	978,340	74,158		100.0	
1)	ん	Ţ.	2	724	724	14,480	2,493		100.0	
牧		草	1,640	3,820	3,782	62,024,800	403,161	4,051	99.0	
青も	刈 と ろこ	うし	241	5,987	5,628	13,563,480	166,472	10,641	94.0	
	······································									
合		計	10,393				7,168,255	1,293,031		



豪雨によって倒伏した小麦(明治地区、5日写)

重なって根部の肥大は著しく悪く予想外の減 収となった。

(5) 麦 類 越冬前の生育は良好で、融雪後の 雪腐病の被害も少なかった。4~5月上旬の 高温で越冬後の生育は極めて良く、茎数も例 年より多かった。収穫期における豪雨・長雨 で倒伏し、穂発芽が予想されたが、適期昼夜 刈り取りと、農開協の乾燥調整施設における



雨に叩きつけられ、濁流にあおられた水稲 (置杵牛上精美、8月5日写)



青だたみを敷きつめたように (村山、8月5日写) 牧草は倒伏した。

調整により、規格外を最少限に食い止めることができた。

### 表-2 農業被害速報

### 速報-1 農作物等被害

支 方	テ 彳	3	上	川支	庁								
市町	村名	3	美	瑛	町								
災害0			集中	豪雨及	び暴原	机雨		災害発生	<b>上月日</b>	昭和5	6年8月	5 日	
被害	地力	-	美	瑛	町			調査	月日	昭和5	6年8月6	<u></u> 日	18
				被				状		況			
区分	Ŋ	Į			目	電報記号	被智	子数 量	被旨	<b>斯</b>	備		考
	7	k		7	稲	ア		63ha	10,	937千円			
		麦	大		麦	イ							- 2
		2	小		麦	ウ		848	412,	036			<u> </u>
		類	そ	の	他	工							
			小		計	オ		848	412,				. 3
		豆	大		豆	カ		28		858			
農		-14-	小		豆	+		95	26,				
	農		菜		豆	ク		10	2,	155			
	/152	類	之	ん	豆	ケ							
		754	小		計	7		133	32,				
		馬	鈴	L	よ	サ		31	35,	611			
作		٤	ગે હ	ろ こ		シ							÷.
		そ	の 1	也 雑	費	ス		9		617	ソバ		
		エ	7	ん	菜	セ		16	3,	076			- 3
		芸	は	つ	か	ソ		***************************************					- 9
		作	そ	の	他	タ							- 4
物		物	小		計	チ		16	3,	076			3
190	作	果	ŋ	ん	ت	ツ							
		~	な		し	テ							
			.35°	کے	う	<u>}</u>							
		樹	そ	の	他	ナ							:
4.4.		191	小		計	=							
被		野	果		菜	ヌ		2	4,	722			
		3:1	葉	茎	菜	ネ		l		483			
			根		菜	7		9	19,				
		菜	そ	の	他	ハ		6		105	スイー	、コーン	
	物		小		計	と		18	25,	713			
害	190	飼	牧		草	フ		8		516			
			デン	<b>ㅏ</b> ㅋ -	ーン	^							
		料	え	ん	麦	ホ		1		126			
		作	根		菜	7		,					
		物	そ	の	他	"							
			小		ተ	ム		9		642			
		そ	の他	畑 作	物	У							

区分	T	項	E		電報記号	被害数量	被害額	備	考
	畑	作	物	計	Æ	ha	千円		
	合			計	ヤ	1,127	521,894		
	乳	用		牛	ユ				
家	肉	用		牛	3				
畜		馬			ラ				
		豚			IJ				
被	IC.	わ	ع	1)	ル				
害	そ	の		他	レ				
		計			ㅁ				
収穫!	物・カ	口工生産生	勿・畜産	産物	ワ	260 t	600		
採	草	放	牧	地	ン				
ide	営	農	施	設	(P)	3ヵ所	550	浸水畜含2棟 基礎破壞1棟	
施 設	共	同利	用施	嗀	(イ)	n			
	牧	野	施	設	(ウ)	n			
被害	果	樹の	樹	体	(エ)	n			
害	地プ	5公共[	団体加	放設	(才)	ŋ			
総				Ħ	(カ)		523,044		

### 速報-2 農 地 等 被 害

支	宁 名	上	Ш 3	支 庁									
市町	村名	美	瑛	町									
災暑	写 名	集中	豪雨是	及び暴力	<b>以</b> 雨		災害発生	上月日	昭和	年	月	E	
被害	地 域	美	瑛	町			調査	月日	昭和	年	月	Ħ	
			ł	波	書		状		況				
Ţ	 質			1	電報記号	被誓	喜数 量	被	害 額	1/	lti III		考
農		H			(+)		ha		千円				
農地被害		炽	I		(ク)		11 11	34	,430千円				
害		Ħ	l <u>.</u>		( <del>/</del> )		11 //	34	,430千円				
施設	1	業 用 地 改			(コ)		上ヵ所		175千円	農業	と 用 フ	k路	
被害	代行》	災害復旧		- 3施設	( <del>1)</del> )		力所		千円				
合				計	(₺)			34	,605千円				

- 注1. 備考欄には、緊急飼料必要量、浸水畜舎数、死亡、流失疾病別頭数等応急対策に必要な事項を記 入する。
  - 2. 収穫物、加工生産物、畜産物のうち、農協又は同連合会の保有分については ( ) 書で内数とする。

確報(集計)~1

農作物被害報告書~1~

支庁名上川支庁

災害の種類 昭和56年8月豪雨災害災害発生年月日 昭和56年8月3~6日調査年月日 昭和56年8月15日

																	i		
調子	在 年 月 日	昭和	初56年8月	15日												市町村名	艺 美	苂	뗈
	K	分	総作付面積	基準反収	基準生產量	基準生產額		被被	害 甚 程	面 度	机机	ha M			収穫皆無 換算面抗	後 審 減収量	単 値	被 害 見込額	
作节	为 名		likit	kg	10 a 編り t	千四	10%未満				70~80%		90%以上	#	ha ha	1 1	Fil	产 并用	
111 1	Ø 41	-	â	ь	С	ď	е	ſ	g	h	i	j	k	1	m	n	0	p	1
水	\$4 <b>4</b>	1	1,271	462	5,872	1,632,416	32	14	- 10	1		4 (	2	58	10	46	278,000	12,788	I
	大 发																		2
麦	二条大炎		28	240	67	13,534					10	and Alas Healtha		10	8	19	202,000	3,838	~ <del>*</del> ~~~
	小 麦		2,852	337	9,611	1,851,078	ļ	ļ			600		1	601	451	1,520	192,600	292,752	4
狐	裸 表	<del></del>	L				<u> </u>							n.m.eChillada					5
	***	6	2,880		9,678	1,864,612	221	56		ļ	610		1	611	459	1,539		296,590	
	大 豆	17	284	205	582	170,735	12	1					1	17	2		293,360	1,173	
豆	4 9		1,172	188	2,203	843,088	65	20					8	93	15	28	382,700	10,716	
4000	¥	9	523	185	968	263,296	10	2			<b> </b>			12	1	2	272,000	544	
類		10	199	189	376	119,455		6	10		<b> </b>			16	5	9	317,700	2,859	· • ···
rgd -	計	11	2,178	0.011	4,129	1,396,574	87	32	10		ļļ		9	138	23	43	22 0.66		
馬鈴	(原 料) (食 用)		141	3,914	5,519	98,569	2						1	3	1	39	17,860	697	
		13	1,266	3,745	47,412	1,991,304	6	2	4	6	6		6 I	30 1	16 1	599 <b>3</b> 0	42,000 70,800	25,158 2,124	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
l 1	計	15	1,516	3,039	3,313 56,244	234,560 2,324,433	8	2	1	6	6		8	34	18	668	70,600	27,979	
推	とうもろこし		1,310		30,244	2,324,433	0		*	0	0		0	24	10	000		21,319	16
報報	雑り製		27	109	29	7.064	2	6		<u> </u>	<del>                                     </del>			8	1	1	243,600	244	
類	計	18	27	103	29	7,064	2	6	434	<del></del>				8	1	1	240,000	244	
Ī	てん菜(原料)		842	5,295	44.584	957,664	1	8	2				1	11	3	159	21.480	3,415	
荟	" (揉種)			1 0,000	1,,,,,,,,	00.3001	1		<del></del> _		i	·			<u> </u>		22,.00		20
作	はっか			A h. IHEBAA A. d.			<u> </u>			<u> </u>				······					21
物	その他工芸															ļ			22
類	計	23	842	<u> </u>	44,584	957,664		8	2				1	11	3	159	*(H#H#	3,415	23
果	)	24	2	724	14							ng manalanda di dina		<u> </u>			172,200		24
本	なし																		25
樹	ぶどう					Ĺ													26
類	その他果昔	1 27																	27
ron.	îl îl	28	2		14									,			A A A A A A A A A A A A A A A A A A A		28
1		1	ł	1 h		1 4		1	27	h.	1		l l		. 200		and none	Assess hardened	100

### 農作物被害報告書~2~

支 庁 名 上 川 支 庁 市町村名 美 瑛 町

											_,									1		
		,	<del></del>			総作付面積	基準反収	基準生産量	基準生産額			被		面		積	ha	収穫皆無	被害	単 価	被害	
	_		<u>X</u>	分		松叶門田田	巫华人以	左年王座風	至华土庄朝			县 程	度	別			計	換算面積	減収量	- pu	見込額	
作	物	名				ha	kg	t	千円	10%未満	10~30%	30~50%	50~70%	70~80%	80~90%	90%以上	āi 	ha	1	円	千円	
	172	LF				a	Ъ	c	d	e	f	g	h	i	j	k	1	m	n	0	р	
	果		菜	類	29	91	1,735	1,579	161,374							3	3	3	45	102,200	4,599	29
野	葉	茎	菜	類	30	34	2,803	953	68,807			1					1	0		72,200		30
	根		菜	類	31	175	3,105	5,434	383,097				1	1	1	5	8	7	222	70,500	15,651	31
菜	E		h	ŧ	32	22	4,447	978	74,132		1						1	0		75,800		32
	7	゚スノ	<b>ヾラ</b> ;	ガス	33	109	352	384	165,120											430,000		33
類	7	の	他里	7 菜	34	308	826	2,544	198,764	5						1	6	1	7		266	34
			計		35	739		11,872	1,051,294	5	1	1	1	1	1	9	19	11	274		20,516	35
	牧			草	36	1,640	3,820	62,648	407,212	5	3						8	1	38	6,500	247	36
飼	デ	ン	١.	ーン	37	241	5,987	14,429	177,477											12,300		37
料	子	・実月	月え	ん麦	38	55	210	116	12,987	3						1	4	1	2	111,960	224	38
作	背	刈月	月之人	ん麦	39																	39
物	100	科	用机	艮菜	40	21	5,866	1,232	15,030											12,200		40
類	7	の	他包	司料	41																	41
			計		42	1,957		78,425	612,706	8	3					1	12	2	40		471	42
そ	緑	肥	料作	上物	43			7.0														43
0	7		の	他	44																	44
他			計	•	45																	45
烟	· f	F	物	計	46	10,141		204,975	8,216,758	110	52	17	7	617	1	29	833	518	2,724		364,507	46
台				計	47	11,412		210,847	9,849,174	142	66	27	7	617	1	31	891	528	2,770		377,295	47
永	£	F	牧	草	48						*****											48
						a	b	С	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	0	р	

1.調査対象は主業農家(専業農家及び農業を主とする兼業農家、開拓者を含む)とすること。

2. 開拓者分のみについては別葉に作成し右上に「開拓」と表示すること。

3.面積はすべて「ha」単位とし、単位未満は四捨五入とし、端数をつけないこと。

### 被害程度別農家戸数

### 確報(集計)~4

市町村内	左のうち災害		 被 害	程	度 別	芦数		(戸)			参				考			
主業農家戸数	をうけた戸数	100/丰法	10~30%	30~50%	50~70%	70~80%	80~00%	90%以上	市町	村農	業総収	額 (千円)	被	ŧ	書		額	(千円)
戸	戸	10/0不倒	10~30/0	3030/0	20-1070	10 - 60 70	00-90/6	30/00人	農	産	畜 産	äł	農産		畜	産		ā l
1,055	285	230	43	7	5		and the state of t	-	9,23	6,468	1,989,50	11,225,968	377,2	95				377,295

注1. 主業農家 (開拓者を含む) について記載のこと。 2. 開拓者分のみについては、別薬に作成し右上に「開拓」と表示すること。

3.被害程度は、農業総収入額に対する農作物、収穫物及び畜産物の被害額合計の割合とすること。

### 5. 資金及び共済金

### (1) 資金手当

天災による被害農林漁業者等に対する資金の

融通に関する暫定措置法(昭和30年法律第136号)並びに自作農維持資金融通法(昭和30年法律策165号)の適用を受け、資金手当を行った内容は次のとおりである。

### 表-4 昭和56年8月豪雨災害による災害資金内訳表

### 1、被害程度別農家戸数

	左のうち災害	A HIVE	被	害	程	度	别	Ħ	数	
王安展家尸数	を受けた戸数	10%未満	10	~30			30~	50%		50~70%
1,055戸	285戸	230			43				7	5

### 2. 天災資金、自作農維持資金

[ <del></del>	<u> </u>	被害による	b 資金希望農家	内訳		被害に対す	る資金	肯置.
区	分	農家法人数	左 の 被	害 額	天	災 资 金	自作	農資金
		Ħ		千円	F	干円	声	千円
般	個人	10		47,527	10	12,959	4	6,100
農業者 開	法人							
者	計	10		47,527	10	12,959	4	6,100
翔	個人	5	***************************************	12,132	5	5,311	5	4,700
拓	法人							
者	#1	5		12,132	5	5,311	5	4,700
	個人	15		59,659	15	18,270	9	10,800
合計	法人							
βT	<u> </u>	15		59,659	15	18,270	9	10,800

### 3. 天災資金融資、農協、開協別

	X		5	}	借入農家数	借入金额	佛	考
-	美	瑛	農	踸	15戸	18,270千円	3343	
	美	瑛	副	協				
		ij.			15	18,270	a population of the second of	

### 4. 天災资金利率别内訳

配率所	jsi	数	戸数割合	ال عرا	2		協		ş-)-	495	7	金 額
1 1149×28	<i>j</i>	WX.	广级和宣	被	基	膟	芦苇	数	şŧ î	113		-21. 10/4
3.0 %			%						戸数			千四
5.05		12	80	10~30 30~50	) (—	般分)		5 2	2		****	5,311 676
				50 ~- 70	) ( <u> </u>	般分)		5	5			10,333
6.05		3	20	10	)-30			3	3			1,950
ät		15	100					15	15			18,270

### 5. 自作農維持資金融資内訳

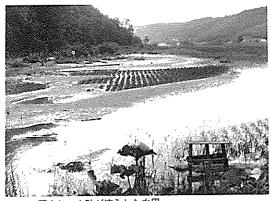
区	分	借入農家数	借入金額	備	考
美 瑛	農協	9 戸	10,800千円		

### 6. 天災资金利子補給内訳

* AE7 A	基準	利 子	左	Ø)	負	担	区	分		
资金区分	金利	補給率	E		道			तंत्र	町	村
3%資金		年	6 %×-65 100	6 %×	17.5 100	-		6 %×-	17.5 100	
0 70 90 1112	4	6%	=年 3.9%			=年1.	05%			1.05%
5.05%	年 9%	年	$3.95\% \times \frac{50}{100}$	3.95%	$\times -\frac{2}{10}$	<del>5</del> 10		3.95%	$\times \frac{25}{100}$	derke
资 金	0 70	3.95%	=年 1.975%		=:4	E0.98	75%		=年0	.9875%
6.05%		年	$2.95\% \times \frac{50}{100}$	2.95%	$\times \frac{2}{10}$	<u>5</u> )0		2.95%	$\times \frac{25}{100}$	
资 金		2.95%	=年 1,475%			F0.73	75%		=年0	.7375%

### (2) 農業共済金

豪雨並びに台風15号の影響は特定できないが 水稲及び畑作共済金の支払内訳は表-4のとお りである。



冠水し、土砂が流入した水田 (流杵半川・上精美、8月5日10時年)

### 6. 治山·林道関係

### (1) 治 山

災害報告は1カ所150万円であったが、その後の調査で4カ所の増となったほか、国有林においても復旧計画があり、いずれも昭和57年及び58年度で採択実施される予定で、その内訳は次のとおりである。

### 民有林治山事業要望個所調醬

カ	所	被		k	状	況
旭第 4 1	中村地先	地滑り		山服	頒墽	
旭第87	<b>高林地先</b>	地滑り		山腹	頂崩壞	
旭第8	平間地先	地滑り	,	山應	頂坡	町道欠墩
美田第	3 共済組 3 合地先	地滑り	,	山縣	頂坡	
北瑛第	1 大西地先	地滑り	`			
i	H					

### 国有林治山事業計画

計画区分	力門	計劃內谷	金 額
緊急復旧計画	アバレ川	ダム1基 400㎡	20,000千円
緊急復旧計画	石の沢川	ダム2基 333』	20,000千円
復旧計画	涸沢川	ダム2基 440〃	22,000千円
計		ダム5基	62,000千円

### (2) 林 道

民有林についての林道被害は大きなものはな く、逐次所有者が必要に応じて砂利敷、土盛等 を行い復旧する。

国有林は上俵真布林道等10路線・43カ所・延 長3,817m・71.880千円の被害で、災害復旧林道 等緊急対策費をもって、昭和56年度では応急復 旧を含めて約50%を復旧し、残事業は昭和57年 度以降に実施する。

表 4						D.	台和56年度	水稻、畑作	-400、	、	何並又也	4 P 3	武本	Z							
看	afe	别				引		受 A			共 済	金	支	払	高	В		科	皮	害 2	枢 <u>B</u>
12	<b>业</b>	70		戸	数	面積	収 量	共済金額	戸	数	面積	減	収	湿	共	済		戸	数	面積	金 額
	①水		稲	4	## 189	126,229	kg 5,236,112	円 1,455,639,136		戸 65	8,957.5		60,	kg 503		16,81	円 .9,834	1	% 3.3	% 7.1	% 1.2
M.	回小		麦	{	639	286,386	7,332,982	1,312,603,778		293	65,094		675,	362	1	20,88	9,798	4	5.9	22.7	9.2
農	大		麦		11	2,848	50,834	9,099,286		6	1,678		17,	189		3,07	6,831	5	4.5	58.9	33.8
,,,	(-	般 一期)	)							220	47,752		474,	325		84,90	4,175				
作	(	" 二期)		,,,	ent-re	-t- ==				23	2,596		29,	004		5,19	1,716				
aL t	(穂	発芽 一期)		災	害	内訳				26	3,205		35,	469		6,34	8,951				
物	(	" 二期)				mere et al.				70	13,219		153,	753		27,52	21,787				
	麦	合	計	,	639	289,234	7,383,816	1,321,703,064		297	66,772		692,	551	1	23,96	6,629		47	23.1	9.4
	DE:	①加 工	用	:	236	41,389	17,104,055	233,025,566		67	12,360		895,	169		15,17	6,578	2	8.4	29.9	6.5
	馬	②種 子	用		38	9,348	2,359,435	115,631,045													
畑	鈴	3食	用	:	270	37,944	12,275,955	441,836,095		133	20,246	1	,301,	121		58,53	37,371	4	9.3	53.4	13.2
	碆	合	計	;	336	88,681	31,739,445	790,492,706		169	32,606	2	,196,	290		73,71	3,949	5	0.3	36.8	9.3
and the state of t	大		豆		108	15,216	327,346	73,324,720		65	7,847		45,	262		12,67	73,360	6	0.2	51.6	17.3
作	小		豆.		323	63,492	1,347,158	348,922,580		250	48,343		354,	514	1	31,17	0,180	7	7.4	76.1	37.6
	-15-	①手	Ċ		95	11,722	248,137	38,387,037		52	6,547		56,	091		12,37	79,536	5	4.7	55.9	32.2
	菜	②金	時	:	105	12,075	256,151	55,229,636		63	7,611		45,	667		14,06	55,436	6	0.0	63.0	25.5
物	豆	合	計	:	164	23,797	504,288	93,616,673		104	14,158		101,	758	-	26,44	14,972	6	3.4	59.5	28.2
	甜		菜		182	47,229	25,334,372	415,078,279		48	12,785		464,	154		9,50	)5,853	2	6.4	27.1	2.3
	②畑	作	計	(1,	113) 413	238,419	59,252,609	1,721,434,958	(	(636) 356	115,739	3	,161,	978	2	53,50	08,314	8	6.2	48.5	14.7
<b>3</b>	+ 合	回 + © 計	)	1	241) 052	653,878		4,498,777,158		998	191,468.5				3	94,29	94,777	4	4.5	29.3	8.8

### 台風15号の被害と対策



町有林・民有林を併せて 1,077haの風倒被害が出た山林(置杵牛)

### 1被害報告

8月23日降雨はともなわないが早朝より強風となり、14時から17時までが特に強く夜迄続いたが、13時頃より道道十勝岳温泉美瑛線他の町道等が風倒木により通行不能或いは片側通行となり、また電信電話、電気等の架線障害が発生して電気通信、交通運輸にも混乱をもたらした。

町は、各地域からの情報をもとに、14時30分から主として道路を中心に調査を行い、各関係機関に通報し応急処置を求め、同日中に町道等の倒木の除去を行った。

8月24日8時30分から課長会議を開き、対策を協議し、農林業被害と家屋等の施設について、9時から町と関係機関により11班を編成して地区毎に調査を行った。

まに公共施設、市街地一般被害については担当 各課で調査を行うとともに、さらに被害の大きな 地域は25、26日に再調査を実施し表-1のとおり 被害の状況を道に報告した。



町有林力ラ松被害 8月23日14時30分頃

民有林被害 ( 置杵牛鈴木・鈴江所有)

表-1 被害状況報告(最終)

災:	害の原	因には	和56年 8 月21日 ての台風15号 8	日から8月24日か と前線による大雨	災暑	§ 発生 日	時	月日	時 分	
災暑	5 発生場	:所								
報	告の時	묓	10 月 26 日	9 時 現 在	発	受信日	時	月 日	時 分	
発	信 機	関	美 瑛 『	丁 役 場	受 信 機 関					
発	信	者			受	信	者			
IJ	ĺ	E	件 数	被害金額(千円)	非	項	E	件 数	被害金額(千円)	
	死	者		1 of &	住家	全	墩	2	200	
人加	行 方	不 明		1. 氏名	被害	44	墩	5	288	
的	M	<b>(3)</b>		2.性别		1	lt .	7	488	
被	蛏	199	2	3.年齢	農	農地	H	ha		
害	2 (1	Ŧ	2	4.原因	業		畑	ha	:	
		棟 数			被害	農作物	畑畑	ha 602ha	38,554	
	全 墩	世帯数					河川	00211a	30,334	
		人贝			土	道	道路			
住		棟 数				エ	橋梁			
	半 坡	世帯数			木	計	小 計			
		人贝				īĦ	河川		7	
		棟 数	18		被	(II).	道路			
家	一 部	世帯数	19	3,870		村 工	橋 梁			
	破損	人貝	69		督	4Ji	小計			
		棟 数				i	<del>  </del>	602	38,554	
	床 上	世帯数			水産	漁	沈没			
被	漫 水	人员			被	4.85	流失			
		棟 数			響	報告	被 担 股被害		1,060	
	床下	世帯数			そ		:政政官:		7,906	
	漫水	人員					設被害		500	
書	9 12 2	棟 数	18		Ø	}	设被害		4,005	
	計	世帯数	19	3,870			被继	1,077	453,696	
		人員	69		他	ı	il:		510,079	

### 摘要

- 1. 人的被害は美沢16線道路作業現場宿舎修繕中及び街路樹倒木処理中の負傷。
- 2. 農作物の内訳は、別項の「農作物被害と対応」に掲載。
- 3. 商工被害は、日除け等の被害。

表-2 住宅及び非住宅被害内訳

地		X.	建物桶	别	被害私	度	mi fit	被害額	摘	要
زاز	街	地	住宅兼	店舗	一部破損	1棟	π <sup>γ</sup>	刊 25	1 世帯	3 名
like The	村	部	住	宅	一部破損	15棟	858	1,845	15 "	57 "
そ	Ø	他	n		一部破損	2棟	70	2,000	3 "	9 <i>n</i>
fi:	<b>"</b> E	31.			一部破損	18排	940.4	3,870	[9 <i>II</i>	69 "
農	村	部	ίτ	hji	全 坡	2棟	60	200		
īlī	佳	地	介庫・そ	の他	半 坡	5棟	117.1	288		
:]]:	供 宅	äŀ.				7棟	177.1	488		

表-3 文教施設被害内訳

(単位 千円)

															1 -1 - 4-2.	
				被	将		北			況						,
被害		支	<u>lt</u>		4	b		工作	Ji dan	1:	地	改	備	被害		
	ij	是 \$	肝 贫	Ř.	要補修	ti )	†	į	·1끼 [남	被	害	被被	怪	MX III	摘	要
学校名	企	墺	半	炒	大破以下	面積	金額		額	飲食	額	金金	額	金額計		
	面積	金額	面根	金額	金 額	butti	ાદ છા	314.	ist	N4.	tire	31.	101	Me nectil		
美 沢 小	. m		m		98	m' 35	98				:			98	体育館屋根、	住宅物
宇英別小					162		162							162	校舎教住屋	根、煙突
俵真布小					90	35	90			*******				90	校舎屋根	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
忠別小								1	50					150	体育館屋	挺
置杵牛小	10	560				10	560							560	校舎屋根、着	女住物置
#f	10	560			350	- 80	910	]	50					1,060		

表-4 農業施設被害内訳

-			.,				- ,		
区	分	被	害	内	容	被害 棟数	被 害	摘	要
農	舍	屋村	根上之	タンチ	後散	棟 60	4,500	900坪×	5,000円
格箱	内扉	麗相	技卜:	タンチ	と散	12	900	180坪×	5,000 <sup>[II]</sup>
217	ウス	25	クス倒	壊(-	-部)	16	1,172	(16棟1,51 651坪×	5坪の内651坪) 1、800円
Λť	カス	۲.	<u>-</u>	ル非	散	32	1,334	33.35坪	×400円
ů	ł					120	7,906		



家屋の被害(中字英別)8月23日14時頃

表-5 都市施設被害内訳

施設	名	被	售 内	容	被害金額	摘	要
NU tiX	11	名	称	数量	放弃亚矾	7(6)	'Æ
中央	通	街路村	制倒木	本 14	四 337,022	倒木1本当	り被害額 24,073円
		U	折抓	3	76,500	折損1本当	り被害額 25,500円
丸 山	通	n	倒木	1	24,073		
丸山公		n	倒木	6	144,438		
		11	折棋	3	76,500		
南町公		n	倒木	31	746,263		
新町公		н	倒木	64	1,540,672		
		n	折損	6	153,000		İ
なかよしな	图台	11	倒木	3	72,219		
かしわな	M	11	倒木	23	553,679		
		11	折損	11	280,500		
計				165	4,004,866	倒木 1424	5 折損23本

**		
^	٦.	
2		
š	_	

詢	樹	一 般 民 有 林					町 有 林 (学校林含む)					合 計				
雅		45. 221 £:B	被	客	内賽	被害率	総 面 概	被	4	内 容	被害率	総面積	被	基	内容	被害率
别	極	舱 面 积	区分	面狱	被害金額	革	<b>福 川 和</b>	区分	ai fit	被害金額			区分	匍 積	被害金额	
		ad	要造林	ња 1.00	円 1,320,000	%	100	"要造林	3.50	3,696,000	96	fire	要遺林	4.50	5,016,000	96
163	カラマツ	17.44	要間伐			63.1	65,16	要開伐	22.84	4,832,520	40.4	82.60	要間伐	22.84	4,832,520	45.2
M:	" / * /	11.44	その他	10.00	3,180,000	00.1	00.10	その他			10.3	22.12.0	その他	10.00	3,180,000	
			함.	11.00	4,500,000			計	26.34	8,528,520			計	37.34	13,028,520	
安			要造林					要造林					要造林			
林	広ザッ	59.92	要間伐			1.7	5,56	要削伐				65,48	要間伐	H4.		1.5
1	14 7 7	39.52	その他	1.00	465,000	1.1		その他					その他	1.00	465,000	
			計	1.00	465,000			計					計	1.00	465,000	
			要造体	80.00	84,800,000			要造林	9.50	8,673,000		SERVICE AND ADDRESS OF THE PROPERTY OF THE PRO	要造林	89,50	93,473,000	
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	カラマツ	7,357.68	要間伐	250.00	153,700,000	10.9	748.80	要間伐	161.51	58,213,686	29.5	8,106.48	要問伐	411.51	211,913,686	12.6
E)	71 7 4 7	7,007.00	その他	470.00	120,840,000	10.0		その他	49.80	11,205,714		0,41,01,10	その他	519.80	132,045,714	
			計	800.00	359,340,000			計	220.81	78,092,400			āt	1,020.81	437,432,400	<u> </u>
	その他		要造林					製造林	0,24	280,800			要造林	0.24	> 280,800	-
156		1,486,16	要間伐				145,24	要問伐	4.60	703,400	3.3	1,631.40	要問伐	4.60	703,400	0.3
ᄲ	(トドマツ)	1,400,10	その他				140.24	その他				- The state of the	その他			
	他人		ä					<u>at</u>	4.84	984,200			āl	1.84	984,200	<u> </u>
			要造林	A COLUMN CANADA				要造林			-	THE PERSON NAMED IN COLUMN NAM	要选林			_
1	広ザツ	5,268.72	要間伐				350.28	要開伐	12.80	1,785,600	3.7	5,619.00	要問伐	12.80	1,785,600	   0.2
林	W 11 7	0,200.12	その他				350.20	その他				.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	その他			
	,		â					計	12.80	1,785,600	-		at	12.80	1,785,600	- <del></del>
			要造林	81.00	86,120,000	-	- Constitution of the Cons	要遺林	13.24	12,649,800	ļ	to design the column co	要造林	94.24	98.769,800	
合		14,189.92	要間伐	250.00	1- 1-2000	5.7	1.315.04	要間伐	201.75	65,535,206	20.1	15,504.96	要開伐	451.75	219,235,206	-; •6.9±
		14,105.52	その想	481.00	la, nno	, ,,,	1,010.04	その他	49.80	11,205,714	1	(立木地のみ)	その他	530.80	135,690,714	
l #t	V.		計	812.00	364,305,000			āt	264.79	89,390,720				1,076.79	453,695,720	

### 被害金額算出基礎

### 1. 民 有 林

普通林 (カラマツのみ)

被害程度	面割	被 害 額	1 ha 当り 保険金額	被害金額
90 94 12	ha	ha	千円	千円
80 % 上 (要造林)	80	100% 80	1,060	84,800
60~79% (要用伐)	100	70% 70	1,060	74,200
40~59% (要問伐)	150	50% 75	1,060	79,500
20~39% (その他)	200	30% 60	1,060	63,600
19 % 下 (その他)	270	20% 54	1,060	57,240
äH·	800	339	1,060	359,340

※被害水材齢7~30年と幅があるため、平均林齢を 14年とし、上表の保険金額を使用する。

### 保安林(カラマツ及び広ザツ)

被害程度	面積	被 害 額 算出面積	1 ha当り 保険金額	被害金額
80 % 上 (要造林)	ha 1	ha 100%1.0	千円 1,320	于円 1,320
40~50% (その他)	1	50% 0.5	930	465
20~39% (その他)	10	30% 3.0	1,060	3,180
3H-	12	4.5		4,965

※要造林(カラマツ)については26年、その他(広 ザツ)については30年上、同じく、その他(カラ マツ)は、11~28年の林齢幅があるため、普通林 と同様の額を使用する。

### 2. 町 有 林

普通林及び保安林とも、各小班個々の林齢に 基づき算出している。

### 2. 森林被害と対策

台風15号は民有林(町有林を含む)の内、特に カラマツに大きな被害を与えた。

朗根内の白川氏が、10時ごろきのこ取りに行ったが、 きは風もさほどなく、山でしだいに強くなり11時30分ごろ木が倒れだして危険を感じ引返し帰宅、12時ごろは立って歩けないくらいであった。

また円職員が平和水道の浄水場を調べに行った同時刻ごろも、美沢28線から清富で倒木があり、15時ごろが最も多く被害が発生したと思われる。

地域的には十勝岳山ろく地帯が主で、美沢14線から奥で、新星妙見より美沢、置杵牛、上字莫別方面の被害が最も大きく、中字莫別・横牛・朗根内・俵真布にも多発。風向は南東及び南南東であ

ったが、局地的には巻風も発生しながら、主として 沢の低地、東より北に向く斜面と高台に被害が多 く、南より西向き斜面は少いのが特徴である。

町及び森林組合は実質的被害の取りまとめを行ったが、調査に当って一番問題となったのは、

- 1) 地域が広大である
- 2) 所有者が町内外にわたり地域町内に居 住しないものが多い
- 3) 所有者の協力が得られにくい。
- 4) 応急対策及び復旧方法等について判断 基準が明確でない
- 5) 被害額の算定基準がなく推測が困難で ある

等の事情から専門家の判断を仰いだ。

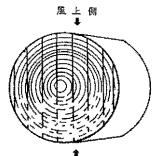
### (1) 調査・試験

8月31日から9月2日の3日間にわたって、 美唄市にある北海道立林業試験場上条一昭経営 保護部長、水谷栄一造林科長、村田儀一樹病科 長の3氏が来町し、次の試験林分標準地におい て調査及び試験を行ったが、その結果次のとお りである。

### 試験林分標準地の概要

林 分	<b>ሰ</b>	ם	^
被害程度	30 % 以下	30 ~ 50 %	50 % 以上
地 番	美英町字美英原野	字置杵牛1325-72	字置杵牛1197-226
	7514 (9.96ha)	()	(2.20ha)
	43林班 11, 20小班	66林班 9,10小班	69林班 11小班
所有者	美 瑛 町	菊 地 清 信	松本国男
地 況	平 地	山頂(尾根)	中 腹
標高	490m	400m	400m
傾斜方向	_	東	東北東
傾斜度		20°	18°
風向	南	南	南南東
舱 级	5(20年生)	4(17年生)	4 (18年生)
植栽本数	S36 3,000本/ha	2,600本/ha	_
除 伐	S46.3 残1,200本/ha	S50 残880本/ha	10年生時 40%程度除伐
1回間戦	S53.6 残 800本/ha	S56 残600本/ha	15年生時 残1,000本/ha
2回目100	S56 残 640本/ha	_	18年生時 残 610本/ha

### 1) 風響木の分類



風下側 木材の組織調査で風下側に 自色斑点が認められる。

被害の程度が激・中・微の3 林分を選び それぞれを調査したが、損傷の程度を明ら かにするため、被害の程度をA-Fの6タ イプに分類して調査した。

- A 垂直線に対し傾斜0~20°…曲り小
- B " 21~45°…曲り中
- C # 46~60° …1部根返り曲り大
- D 根倒れ
- E 折損木
- F 生立木 (正常に立っているもの)

### 2) 木材組織に対する被害調査

- ① 肉眼的観察 丸太を柾目板に挽いて、 鉋削後に調べたところ、破壊は見られ なかったが、風下側(風で曲げられた 部分で圧縮側)に白色斑点が認められ、 被害がA・B・Cと進むにつれて多く なる。
- ② 顕微鏡的観察 白色斑点部分を調べ たところ、微細な損傷(SP)が認め られた。
- ③ 生材小型試験片による強度性能 風 下側(白色斑点の多い部分)はヤング 係数(タワミにくさ)は約50%程度低 下する。
- ④ 丸太の曲げ試験 風上・下どちらの 方向から荷重を加えてもその差はなく

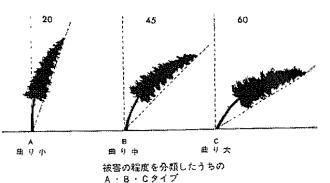
健全な丸太とほぼ同程度であった。

- ⑤ 正角材の曲げ試験 丸太の場合と同 じであった。
- ⑥ 乾燥(気乾)試験 曲げ強度はほと んど問題がなく、ヤング係数値も健全 材の約80%程度まで回復することがわ かった。

### 3) 調査・試験の結果

以上のことから、強度的には問題はないが、梁等のタワミが問題になる所や、 杭木の支柱等の長柱として荷重大なる所 に使用するには問題がある。折損材は上 下1-1.5m程度は割れがあるので切除を 要する。

災害の復旧は経済性を合せて考慮し次のよう な基準で行うことが望しい。



タイプA 20°までは放置しても回復 する

″ B 21° ~ 45° までは倒木起し

# C 46°以上は皆伐

尚、間伐は21°以上とする。

### (2) 実質的被害

調査及び試験の結果にもとづき森林被害を取りまとめた状況は次表のとおりである。

### 森林被害(風害)報告書 (樹種別集計表)

昭和56年9月26日現在

	又は地域 樹		1+1						1+1 •€		141 *6		141 46		141 .6		1+1 -6		1+1 • 6		111 10		1+1 5.6		121 76		1+1 .c		171 55		1+1 56		1+1 16		1+1 46						Adveto-T-T-P	被	宴	状	況	森林保険		
場所又は地域	İ	1		档	E	林齢	所有面積	被害面積	皆伐を要する面積 (根返り、幹折れ、幹曲り)	除間伐を要する面積 (幹曲りで皆伐以外)	根起しを要する面積 (3~8年生ぐらい対象)	その他の面積 (放置しても回復するもの)	加入の 有 無	備	考																																	
	カ	ラ	-	7	ッ	\$ 3~41	1,398.05	њ. 987.28	ha 118.94	709.05	119.51	ha 39.78																																				
	ŀ	F	ų	?	ッ	9~37	12.06	7,42	0.40	0.82	-	6.20																																				
	ŀ		ウ		Ŀ	9 ~55	6.80	1.51	_	1.20		0.31																																				
	g				Ŧ	6	0.16	0.05	_	_	0.05	_																																				
	バ	ン	:	7	ス	13	1.00	1.00	0.30	0.70	_	-																																				
	才	_	•	7	カ	13~15	4.58	4.58	2.88	1.20		0.50																																				
	ポ		プ		ラ	15~27	1.86	1.86	1.86	_		_																																				
	ス	ŀ	₽	_	7	20~30	3.64	3.05	1.36	1.69	_	_																																				
	ャ	7	,	25	ン	19	0.20	0.08	_		_	0.08																																				
	シ	ラ		カ	バ	20	0.30	0.30		0.30																																						
	広		ザ		ッ	8~70	78.95	36.51	4.60	19.05		12.86																																				
	赤		ı	•	7	3~5	3.30	0.70		_	_	0.70																																				
計							1,510.90	1,044.34	130.34	734.01	119.56	60.43		戸数	199戸																																	

### 森林被害(風害)報告當 (齡級別集計表)

### 昭和56年9月26日現在

					被	霊		況	森林保険	241-	
属所又は地域	樹種	<b>齢級</b>	所有面積	被害面積	皆伐を要する面積 (個区の、幹折れ、幹曲の)	除間伐を要する面積 (幹曲りで皆伐以外)	根起しを要する面積 (3~8年生ぐらい対象)	その他の面積(放置しても回復するもの)	加入の 有 無	備	考
	赤エゾ・カラマツ	1餘級	22,82	ha 17.76	ha 1.18	hs. 0.54	6.76	9.28			
	カラマツ・ トドマツ・トウヒ タ モ・広 ザ ツ	2 11	284.70	213.12	17.12	113.87	68.90	13.23			
****	カラマツ・トドマツ パンクス・オーアカ ボ ブ ラ・広 ザ ツ	3 11	566.82	440.71	34.16	348.44	43.90	14.21			
	カラマツ・トドつツ ポブラ・ストローブ ヤマハン・広ザツ	4 11	329.44	211.63	39.40	165.76		6.47			
	カラマツ・ボブラ トウヒ・ストローブ ンラカバ・広ザツ	5 #	120.29	59.18	13.22	44.01		1.95			
	カラマツ・ポブラ ストローブ・広ザツ	6 #	91.29	62.09	17.32	39.91		4.86			
···	カラマツ・ トドマツ・広ザツ	7 11	50.92	15.40	3.78	7.00		4.62			
	カラマツ・ トドマツ・広ザツ	8 #	23.10	13.93	3.04	7.62		3.27			
***************************************	カラマツ・広ザツ	9 11	2.72	2.16		2.06		0.10			
***	広ザッ	10 #	6.28	3.50		1.20		2.30			
	トウヒ・広ザツ	11 "	8.00	2.85	0.25	2.60					
-	広ザッ	13 "	3.52	1.01	0.87			0.14			
	広ザッ	14 n	1.00	1.00		1.00					
it i			1,510.90	1,044.34	130.34	734.01	119.56	60.43			

- 註 1. 人工林・天然林のすべてを調査対象とします。(天然林は、樹種欄に広ザツと記入)
  - 2. 地域及び樹種、林齢が異るごとに別行として下さい。
  - 3. 被害状況欄の各項目の面積は、被害面積の内数となるよう記入して下さい。
  - 4. 保安林については、備考欄に保安林と記入して下さい。

## 3 国の助成及び採択基準

に対しても国の補助規定が適用された。 激苗災害の指定に伴ない、「森林災害復旧事業」

### 採択基準

- $\Theta$ 林は町、 とした。 事業主体は町又は森林組合で、 一般民有林は組合が行う 四 油 ار ارا
- $\odot$ が50%以上で、 造林が 0.1ha以上含まれているもの、 下の林地にあっては倒木起しでもよい。 及びおおむね10年生(限度12年生)以 1団地がおおむね5ha以上、 その林地の中に、 被害率 逃逃
- $\omega$ 林種については人工林に限る。 作業区分は被害木の整理(皆伐、

**(4)** 

激甚災害指定に伴う補助申請被害面積 伐)、跡地造林、倒木起しとする。

2 (当初開取り) は次のとおりであった。

激甚災害指定に伴う被害面積

×

₩.

被害区域

,团地区域面积

16.11ha

### 原野地区 朗根内地区 字英别地区 置杵牛地区 和地区 356.32 126.32 84.94 97.24 46.44ha 1.38 192.20 34.60 63.8475.16 18.60ha

45.03 64.43

21.16

## 災害の査定・補助率

146.73

4

査定された。 被害率が算定されて、右の計画概要書のように 行われ、現地及び机上により被害面積に対する 11月10日と11日に、農林水産省の災害査定が

道が事業主体に対して%の助成を行い、 の補助を行う予定になっている。 に対し事業費に対し%、 補助は激甚災害法第11条の2に 光と%の差額に対し% du. ٦ アング 画は道

赤林災事復旧事業計画概要書(森林災事復旧事業補助計画概要書)の年度別内訳表

						森	林	災	i i	<u> </u>	Ų	lB	事	業	計	画				
			<del></del>		Ī	<u> </u>	į	ii.				事			業			費	(千円)	
年 度	被害木等			地	造林	倒木	起し	計		被害	木等の	整 理	跡	地 造	林		木 起	L	計「	
	面積	作業路	面	т	作業路	面積	作業路	面積	作業路	被 害 木	作業路	小 計	跡地造林	作業路	小 計	倒 木起こし	作業路	小 計	**	う ち 作業野
初 年 度 (昭和56年)	28.55	m		hu	m	(11.20 29.39	1)	11.20) 57.94	m	15,178		15,178				(3,660) 9,455		(3,660) 9,455	(3,660) 24,633	
第 2 年 度 (昭和57年)	1	550		0.84)	250	20.0		(67.72) 140.35		(19,023) 37,836	)	(19,023) 41,246	(12,024) 25,624	1,550	(12,024) 27,174				(31,047) 68,420	4,96
第 3 年 度 (昭和58年)			2	1.10				35.52		6,151		6,151	8,142		8,142				14,293	
第 4 年 度 (昭和59年)			1	0.56				10.56					4,075		4,075			(0.000)	4,075	ļ
計	(36.88)			30.84) 17.64	250	(11.2		(78.92) 244.37	800	(19,023 59,165		(19,023) 62,575	(12,024) 37,841	1,550	(12,024) 39,391	(3,660) 9,455	)	(3,660) 9,455	(34,707) 111,421	4,960

- 考 備
- は内訳で町有林分。
- 倒木起しは、昭和56年度限りとする。
- 被害木等の整理の、昭和56年度予算配分は全体の約20%の見込み。
- 4. 計画の実面積は、146.73ha(48.08)で跡地造林は被害木等の整理面積に 重複計上されている。
- 5. 一般民有林の土地所有者は65名である。

(再 掲)

事業区分	類型	E	þ 1	Ħ	3	<b>ት</b> ን	È	I#II	-tv.
	区分	実 面 積	単 価	事業費	実 面 積	単 価	事業費	備	考
	_	ha•m	Щ	千円	ha • m	円	千円		
	- 1	10.86	136,200	1,479				立木蓄積	50m'未満(ha)
被害木の	®− 2	16.67	341,500	5,692				11	50~100m'未満(ha)
整 理	₩ – 3	68.25	528,500	36,070				"	100~150m'未満(ha)
MC -EE	∰ 4	19.56	726,400	14,208					150~200m'未満(ha)
	҈®− 5	2.00	858,200	1,716				11	200m <sup>i</sup> 以上 (ha)
	小 計	117.34		59,165					
	绺	550	6,200	3,410				置杵牛地	X
作 業 道	造	250	6,200	1,550				П	
	小 計	800		4,960					
	∰−1	96.32	385,900	37,169				植栽本数	ha当リ 3,000本未満
跡地造林	⊕− 2	1.32	509,300	672				11	3,000本以上
	小 計	97.64		37,841					
	<b>1</b>	0.70	115,700	80				樹高 1.	5m-3.0m未満
倒水起し	<b>1</b> – 2	28.69	326,800	9,375				<i>"</i> 3.6	0m以上
	小 計	29.39		9,455					
		800 m		千円					
ñl	部'		***************************************	111,421					

(再 掲) 計画概要の地区別・作業種別面積

地 区 作業種	倒木起し	被害木整理	計
***	ha	ha	ha
平 和 地 区	_	16.11	16.11
原 野 地 区	5.81	58.62	64.43
置杵牛地区	14.94	30.09	45.03
宇莫别地区	8.64	12.52	21.16
朗根内地区			
Ω- - μ	29.39	117.34	146.73
摘要	30件(23名)	73件(42名)	103件(65名)

### (5) 災害復旧と森林保険

### 1) 補助事業の復旧

補助の基準として倒木起しは昭和56年、被害木の整理については昭和58年度まで、跡地造林は昭和59年度までに完了しなければならないので、倒木起しは昭和56年12月末迄完了し、その面積は29.39 ha・件数30件であり、実施事業費は1月末現在では不明である。

またその他の事業については、年度間の 変更はあるが計画の通り実施される見込み である。

### 2) その他の復旧

国の補助対象とならない被害地については、道がこれを救済するため、道の単独費補助で森林災害復旧特別事業を起し昭和56年度から58年度の3ヵ年で被害木整理と跡地造林事業を実施する。

この採択基準は国とほぼ同じで、団地形成のみは除外され、補助率も同様である。

その他補助対象とならない地域については、所有者独自の作業となり、間伐等を逐次実施することになるが、個々の事情があり施業の見透しをたてることは困難であるるが、病害虫の発生が予想されるので、極力処理搬出するよう指導・PRし、状況によっては薬剤撒布等を行う必要がある。

### 3) 森林保険

保険は一定の要件を備う必要はあるが、 補助・非補助にかかわらず回復性の無いも のが対象となるもので、昭和57年1月末現 在では今後の雪害による2次災害も予想さ れ、また加入有無も解らず、金額的なもの は不明である。 町有林の場合は該当面積 61.03 haで、約 30,000千円程度が見込まれる。 町有林の復旧計画の具体的内容は、次の とおりである。

### (6) 町有林の復旧計画

施行年度	事業別	掛極	被害面積	事業面積	袖	助、	非補	助别	施	茶	方	法	実 植 予定月日
昭和56年	間伐	広ザツ	in 23,64	ha 23.64	#	補	助	hs.	町内木村	素者に	立木で	売払い	12月末日
昭和56年	偶木起し	カラ松	11.20	11,20	補		助		町内造材	業者に	事業委	et.	jj.
計			34.84	34.84									
昭和57年	皆、間伐	カラ松	136.50	136.50	排助報 事"	水 物 前	整理(1 () 助	学》31.16 制》 6.04 99.30	町内造れ 町内木材	業者に   業者に	事業委 立木で	託及び  売払い	4月-6月
昭和57年	除伐	# 外	18.79	18.79	#	補	助		町內造材	業者に	亦業委	託	7月-3月
昭和57年	<b>路地造林</b> 栃下植栽	卜丫外		62.72	補助非	跡地: 補	造林 助	31.16 31.56		B			Į.
Ħ			155.29	218.01	<b>L</b>								
台 計		W. Ar and	190.13	252.85	排非	裥	助 助	79.56 173.29		-			

### (7) 国有林の被害

主として白金地区で、3,350mの倒木等の被害があり、昭和56年度で約50%の立木売払い処理を行った。残余は昭和57年以降逐次処理する予定である。

### 3. 農業被害と対応策

### (1) 被害の調査及び報告

翌日の24日9時より水害調査と同様に、方面別に11班を編成し調査を行ったが、被害の推定に当っては水害と同じく困難であった。

被害は主に豆類と野菜類で、早生小豆・えん豆等は圃場で棒立て或は島立て乾燥中のものが飛散して収集不能、又は裂莢脱粒による減収、中生の成育遅れのものは強風に採まれ、経葉分枝の損傷による登然不良見込みが多い。地域的に十勝岳に近いところは程度は大きいがほぼ全町に及んだ。

忠別、俵真布を主産地とする秋蒔大根は8月18日から20日頃が発芽直後の間引の時期で、その時期の風害であるため被害が大きく、茎葉の損傷に

よる欠株、生育不良、製品不揃等による減収が予 想された。

スイートコーンは倒伏、茎葉の裂開等による減 収と晩生種は登熟不良、品質低下が見込まれた。

畜産関係においては、五稜地区が23日午後より 25日の朝頃まで電線切断による停電のため、町及 び農協は発電機調達に奔走した。又、水沢・間宮 地区において、停電と土砂流入のため自家水道が 故障し、発電機で揚水しその場を凌いだ。このほ か酪農家では散発的停電のため牛乳集荷に間に合 わず、被害報告のほかにも放棄乳があったが、数 量は不明である。

置杵牛地区の施設栽培でビニールハウスとトマ ト、キュウリの被害が大きかった。

美瑛町そさい振興会の施設部会(旭、下宇、躍 杵牛地区で構成)会員は、この復旧のため出動し 約3日間で作業を終了したが、トマトは約50%、 キュウリは大部分が放棄された。

また上川生産連白金育成牧場にも被害を与えたが、これらを纒めて次のように道に被害を報告した。

災害の種類 台風 15 号災害 災害発生年月日 昭和56年8月3~24日 調査年月日 昭和56年8月15日

### 農 作 物 被 害 ~1~

支 庁 名 上 川 支 庁 市町村名 美 瑛 町

pp-3 .	-Fila	1 /3 🛏	1	200 1 0 71													111 2 2 1 1 2			,,
		Z ź	<del></del> 分	総作付面積	基準反収	基準生産量	基準生産額		被		喜	面	積		ha	収穫皆無	被害	単 価	被害	
		<u>ν</u> ,	IJ.	10(5)     1 Jul   3 C	2 + 1/2 1/2	五十二年版				早 程	度		面積		計	換算面積	減収量	1 m	見込額	
作	物	名		ha	kg	t		10%未満		30~50%	50~70%	70~80%	80~90%	90%以上	рl	ha	t	円	- 千円	
				a	Ъ	С	d	e	f	g	h	i	j	k	1	m	n	0	р	
水		和		1,271	458	5,821	1,618,238						<u> </u>					278,000		1
	大	麦	2																	2
麦	_	条 大 麦		28	172	48	9,696											202,000		3
	小	麦		2,852	284	8,100	1,560,060											192,600		4
類	裸	麦	_																	5
		計	6	2,880		8,148	1,569,756						<u> </u>							6
	大	<u>5</u>		284	204	579	169,855											293,360		7
豆	小	<u>.</u> 5	<u>i</u> 8	1,172	188	2,203	843,088	260	50						310	23	43	382,700	16,456	8
	菜	7	<u>i. 9</u>	523	185	968	263,296											272,000		9
類	之	ん 豆	10	199	189	376	119,455	60	15						75	6	11	317,700	3,495	10
		計	11	2,178		4,129	1,395,694	320	65						385	29	54		19,951	11
馬	(原		) 12	141	3,887	5,481	97,891											17,860		12
鈴	(食	用	)   13	1,266	3,696	46,791	1,965,222											42,000		13
l	(種		) 14	109	3,012	3,283	58,634											70,800		14
ţ		計	15	1,516		55,555	2,295,549													15
雑		うもろこし	. 16																	16
榖	雑	彩	ž 17	27	105	28	6,821											243,600		17
類		計	18	27		28	6,821													18
I	て	ん 菜(原料		842	5,279	44,449	954,765											21,480		19
芸	L	<b>" (採種</b> )	) 20																	20
作	14	2 h																		21
物	7	の他工芸	22																	22
類		計	23	842		44,449	954,765													23
果	(1)	んこ		2	724	14	2,411											172,200		24
^	な	Į	, 25																	25
樹	35	とう																176,300		26
類	7	の他果様	27																	27
***		āt	28	2		14	2,411													28
				a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	ı	m	n į	0	р	
						•							•							

### 農作物被害-2-

市庁名上川支庁

市町村名 拉 町 被 積 収穫皆無 披 被 ha | 総作付頭積 | 基 準 反 収 | 基準生産量 | 基準生産額 程 度 換算面積 減収量 見込額 千円 10%未満 10~30% 30~50% 50~70% 70~80% 80~90% 90%以上 千円 作 物 名 類 29 3,475 29 薬 91 1.534 156.775 ű 0 34 102,200 野 葉 茎 菜 類 30 953 72.200 34 68.807 楽 類 31 175 6 12,126 31 5,315 374.708 172 70.500 ぎ 32 32 h 22 4,447 74,132 75,800 33 アスパラガス 33 109 352 384 165,120 430,000 3,002 34 類 その他野菜 34 2,544 308 198,764 200 10 210 12 79 275 1,038,306 18,603 35 35 739 11,708 200 0 0 6 0 17 10 草 36 36 6.500 1,640 3,816 62.582406,783 37 デントコーン 37 12,300 241 5,987 14,429 177,477 子実用えん麦 38 38 55 206 113 12,651 111,960 39 青刈用えん麦 39 7,600 飼料用根菜 40 21 5.866 1.232 15.030 12,200 40 41 その他飼料 41 計 42 1.927 78,356 611,941 43 録 肥 料 作 物 | 43 44 他 44 0 0 45 38,554 46 計 46 202.387 7.875.243 畑 10.141 520 75 0 0 6 Û 602 339 # 47 38.554 47 合 11,412 208,208 9.493.481 520 75 0 6 602 339 48 枚 草 48 h k m B 0 O

- 注 1.調査対象は主業農家(専業農家及び農業を主とする兼業農家、開拓者を含む)とすること。
  - 2. 開拓者分のみについては別葉に作成し右上に「開拓」と表示すること。
  - 3、面積はすべて(ha)単位とし、単位未満は四捨五入とし、端数をつけないこと。

### 被害程度別農家戸数

### 確報(集計~4

市町村内										参			ž	ij	
印刷がい			被害	程」	度 別	<u> </u>	1	(戸)	市町村	農業総収入	、額 (千円)	被	害		額 (千円)
二 未 於 多 广 数	と ハルハ 数	10%未満	10~30%	30~50%	50~70%	70~80%	80~90%	90%以上	農産	畜 産	計	農 産	畜	産	計
1,055		430								1,989,500	10,871,040	38,554		704	39,258

- 注 1. 主業農家 (開拓者を含む) について記載のこと。
  - 2. 開拓者分のみについては、別葉に作成し右上に「開拓」と表示すること。
  - 3. 被害程度は、農業総収入額に対する農作物、収穫物及び畜産物の被害額合計の割合とすること。

### 確報(集計)-3

### 畜産物被害

災害	の種類	自風15号災	(書									支庁名	上川支庁
災害発生月日 昭和56年8月21~24日										市町村名			
被害	調査月日	日 昭和56年8	3月26日	<u> </u>					<b>b</b>		考		
•		市町村内におけ る牛乳・鶏卵生	平年年間	平年年間	災害	発生時現在現	物被害 (D)		災害による流失^		被害見込額		
畜産	物名	産総頭羽数 (A)	収 量 (B)	収入量 (C)	被害数量	被害額	内訳(算出基礎)	(A) の う ち 被害頭羽数 (E)	左の被害に伴 う減収見込量 (F)	单	価	被害見込害 (G)	
华	乳	1,729 (245)	9,800 (1,300)	हाप 882,000 (117,000)	8,000 (3,600)	704,000 (316,800)	キロ当り 88円						停電による(廃棄)
鶏	舺											(1)	(J)=(H)+(1)
	at the second	1,729 (245)	9,800 (1,300)	882,000 (117,000)	8,000 (3,600)	704,000 (316,800)						(1)	704,000 (316,800)

- 注 1. (A)、(B)及U(C)欄については被害がなくとも平年における市町村内の状況を記載する。
  - 2. (D)については、災害による牛乳及び鶏卵の流失等現物被害の状況を記載する。
  - 3. (F)については、(E)の被害頭羽量(流失へい死)に係る牛乳及び鶏卵の災害年における減収見込量を記載する。
  - 4. 開拓関係は()書で内数とする。

確報(集計)~7

災害の種類台風15号災害 災害発生年月日 昭和56年8月21~24日

被害調査年月日 昭和56年8月26日

### 當 農施設被害

支 庁 名 上川支庁 市町村名 美 瑛 

			ij.	金		塿	大		破	į.	þ	破	小	破		äl-			畜舎	の漫	水被	害					
施	i.	名	Ī	数	rą	10 cm 25	w.		tel eta ess	Ø.	51	hr 42 27	22. FR	Se 다구를	št. J	SE MARIE	r de	溲	水	棟	数	100	etr	额	備		考
			位	纵	EC.	聚合研	\$1	14.	校吉朗	<b>₩</b> .	H	談告研	女 班	权告码	奴!	株 叙古	r ar	A ル M A 地区	B地区	C地区	計	权	害	础			
,						ŦH.		1	千円			千円		千円			千円					T		刊			
農		畬	m.	_				ĺ					1,991	4,500	1,90	)] 4,	500								屋根卜	タレー部	飛散(60棟)
格	枘	庫	UJ.										398	900	39	8	900						-11-111-111-11			H	(13棟)
£=	ールハ	ウス	m²		-								2,150	1,172	2,18	i0 1,	172								倒	壌	(16棟)
	11		m <sup>*</sup>										11,025	1,334	11.02	25 1,	334								ヒニー	ル飛散	(32棟)
	計							1						7,906	I	7,	906										

確報(集計)~8

â¥

퐒

8

災害の種類 台風 15 号災害 災害発生年月日 昭和56年8月21~24日 被害調查年月日 昭和56年8月26日

単位「所有団体名

共同利用施設被害

1

数

市町村名 MI 美 顸. 2 備 量 被害額 千円 100 土砂混入による埋没 トタン飛散 1,000 800 300 200 400 選一部(プロック)倒壊4.9m 830 屋根鉄骨一部破損

上川支庁

支 庁 名

**T-[1]** TI 7-11 カ所 水源地施設 上川生産連 1 100 務 βŶ m 402 1,000 402 基礎牛會 m 11 310 800 310 乾草収納座  $m^2$ Ħ 120 300 120 67 视 m u200 計 rit. 賦 1317 11 22 400 22 育成 牛 舍 m Ħ 300 830 300

餅

量被害額

- 注 1. 施設名は、農業協同組合または農業協同組合連合金の所有する別表に掲げる 施設名を記入する。
  - 2. 所有団体名欄には、施設を所有している農協、又は同連合会の名称を記入 する。ただし集計表には農協連合会別件数を記入する。

金 壊 大 破

显被害须数

400

全機で全く使用にたえないか流失埋潰したもの

5.1. 12

大破一時価の70%程度の修繕費でそれぞれ復用し得ると認められると推定されたもの

3,630

中班一時価の50%

3.230

破

最被害額数

INFT NUCCE ( ) 建筑设计划设计方式

小破~時個の30%

### (2) 対 応 策

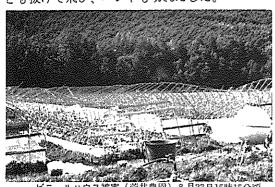
水害と同様に、対策として特に有効なる手段は 無く、各々被害を受けたものの努力と、被害者同 志或は地域の互助協力によるものが大きかった。

被害は広範にわたったが、実質的被害は微妙なるものがあり各種制度による復旧、資金手当等の対象としたものは無く、各機関による資材器具の手配、供給、病害虫駆除、追肥、再播等の指導を行った。

### (3) 置杵牛上精美・中央の被害

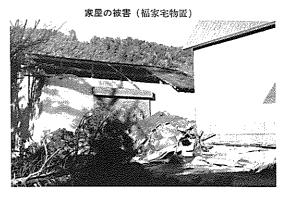
台風の被害は各所に発生し、小豆の乾燥積が他 人の土地に飛び散り混合し、お互い回収できない という皮肉な被害もあったが、上精美と中央のビ ニールハウスの被害が最も大きかった。

上精美福家氏の話しによると、午前中は普通に 屋外作業をして昼食にあがろうとすると、急に風 が強くなった。ハウスが心配で食事をとらず13時 30分迄バンド締めをやり、風はますます強くなる ので昼食もそこそこに作業を続けた。14時頃D型 ハウス(普通型)が破れだした。14時30分には防 風網が倒れはじめ、大型ハウスが破れたのでロー プを持って、梯子でハウスに上り押えようとした が、突風のような強風に、防風網が杭と支柱もろ とも抜けて飛び、バンドも切れだした。



ビニールハウス被害(菅井農園) 8 月23日15時15分頃

最も強かったのは15時15分頃で、ビニールは小さくちぎれ飛び、バンドをとめた杭も抜けだし、ハウスの上で吹飛ばされそうになったため、家に



逃げこんだ。

外は、はがれた屋根板、トタン等が飛び、烈風 で立つことができず、這うように家へ帰った。

その日は停電もあり早めに夕食をすませ、各方面と電話で情報の交換をした。

風は18時頃弱くなったが、処置の方法がなく、 他家でも同じと思うが早々に休んだ。

翌24日 6 時より後片付けを若干して7時より緊急部落常会を開いて対策を協議した。24日は各戸で作業、25日に部落全員でハウス修復を行うことにした。ところが旭、下宇茣別の施設部会員15名か、早々に応援に来てくれたので、急拠変更し部落員10名が参加して合同で復旧作業にあたった。

25日も部会支援13名、部落員8名の協力を得て 継続の作業を行い、大部分の復旧が終った。

ビニールが破れ飛んだ被害が多かったが、小野寺・菅井氏の被害は、25%が押し潰される状態であった。

復旧は会社に手配したビニールで被覆したり、 曲った鉄骨の修理、潰された鉄骨の更新等が主で 潰れたハウスは新設と同様の経費を要した。

被害は全施設に及んだ。戸数 8 戸・面積3,335 坪で、トマト・キュウリが主である。

トマトは葉がむしれ、下に若干残った程度、上 段の花もむしられてしまい、成玉は皮が傷つき、落 果したものも多く商品とならなかった。しかしハ ウス復旧後、新芽が出て多少の収穫があった。

キュウリも葉は全く落ちて、トマトと同様に,

復旧後の新芽による収穫が若干あった。

キュウリは50%以上放棄し、トマトは大型ハウスを主に復旧したが、結果的にキュウリの収穫は20%・トマトは40%ぐらいであった。

トマトは比較的に値は良かったが、収入減等に ついては不明である。

災害とは非情なもので、水害と風害とダブルの 被害者が多かった。

森林被害も多かったが、当日は全く気がつかず 翌朝はじめて驚いた有様で、昭和29年の15号台風 をはじめ風害は、南向き斜面が多かったが、今回 はなぜか北向に集中し、被害の程度もその比でな い。

家屋は近年、新改築が進み被害は少なかったが 各戸それぞれ納屋、屋根の一部、庭木等に被害を 出した。



樹木・塀倒壌(大村・大久保宅)



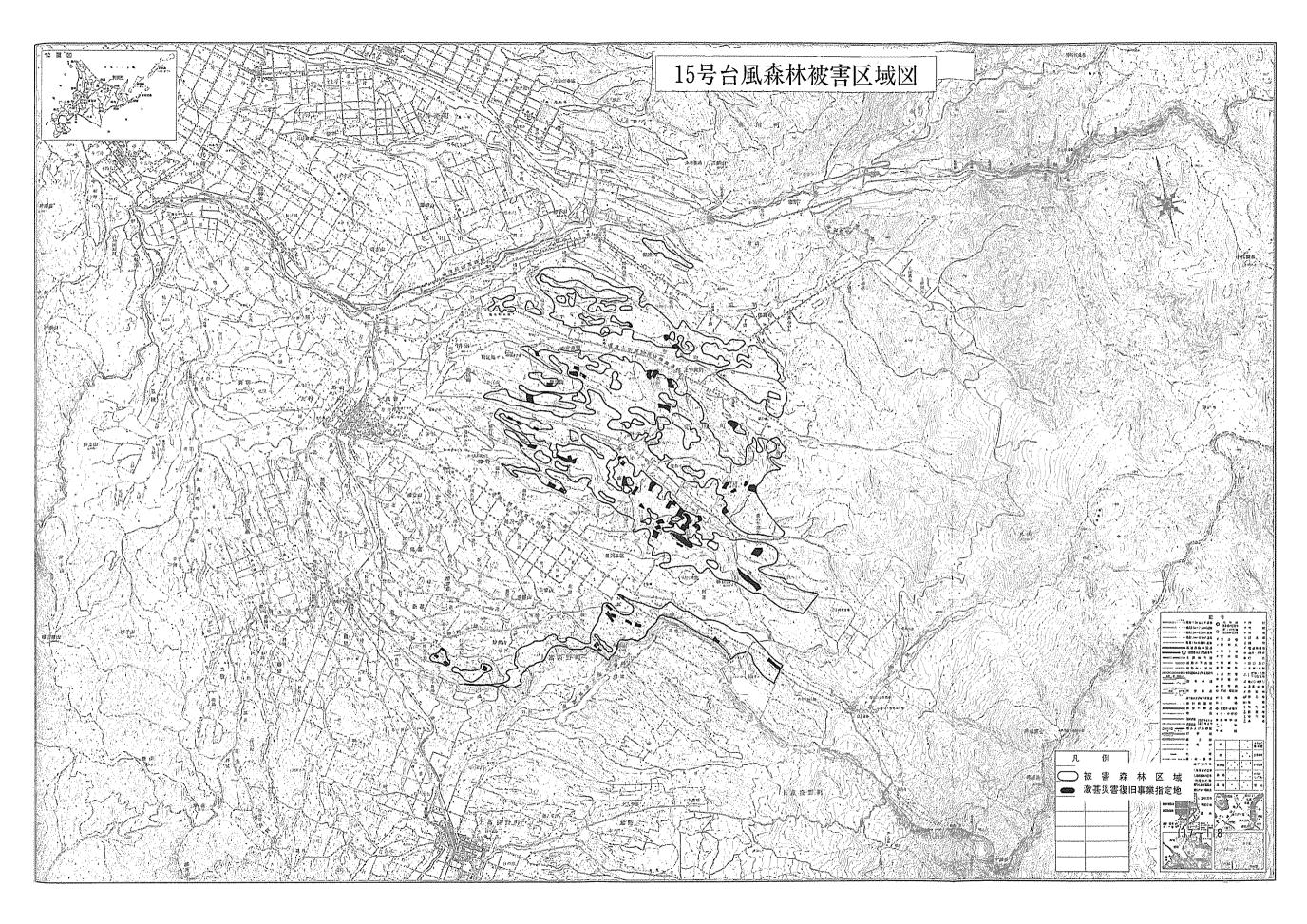
- (4) その他の被害と対応策
  - 1) **住宅**(農業用建物等を含む)**倉庫等**は、 制度等を利用することなく自力で復旧した。
  - 2) 都市施設関係は、約1週間で植換え等を行

- ったが、予算は公共土木施設現年災害費で施行し、総数199本、新町公園ほか7カ所、 復旧金額2,230千円で完了した。
- 3) **文教施設**においても約1週間で復旧した が、置杵牛小学校ほか9校で19件、この復 旧金額1.285千円で既定予算で処理できた。
- 4) **町道及び道道、北電、電電関係施設**の倒木 障害は美田、大村、北瑛、間宮、春日、白 金方面で発生したが3日間程度で復旧した。
- 5) 水道関係は平和簡易水道水源地道路に約 140本が倒木し通行不能となったが9月1・ 2日の両日で復旧した。市街地水道水源地 ポンプ室屋根等に若干の被害もあったが直 ちに補修した。
- 6) 町の農業研修所で、健康食品講習会が催され、町内外より35名程の婦人が受講していたが、「停電」のため夕食準備の給水を行った。
- 7) **美沢26線シベリアタイガーパーク**外周防 護棚に、町有林木が倒れかかりトラ、ライ オン類の逃走の恐れあり、危険作業である ため苦労して除去した。また棚内部の立木 も倒れ、入館中の乗用車が棚内で立往生し 強風に脅えて興奮したトラを、火で追いは らいながら倒木を処理して、車を棚外に出 すできごともあった。
- 8) 町内の主な電気は美瑛変電所より3フイラーで送電しているが、その停電の状況は 次のとおりであった。

新星方面 停電23日14時16分 末端通電24日13時50分 (一部五稜方面25日朝まで)

白金方面 停電23日14時23分 末端通電24日11時50分

中宇北瑛方面 停電23日14時36分 末端通電24日17時30分



## 激甚災害法の適用

国は激甚災害に対応するため、激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律(昭和37年法律第150号)に基づき、次のように政令を公布して激甚災害の指定を行い、適用すべき地方公共団体に対する特別の財政援助又は被災者に対する特別の助成措置を指定した。

### 1. 農地 • 農業施設災害復旧事業

- (1) 昭和56年6月22日から7月16日までの間の 豪雨についての激甚災害の指定及びこれに対 し適用すべき措置の指定に関する政令(昭和 56年8月25日政令第270号)
- (2) 昭和56年8月3日から6日までの間の豪雨 及び暴風雨についての激甚災害の指定並びに これに対し適用すべき措置の指定に関する政 令(昭和56年9月22日政令第285号)

災害を受けた全市町村及び団体が対象となる。 この指定により農林水産業施設災害復旧事業費 国庫補助の暫定措置に関する法律(昭和25年法律 第169号)に定める補助率に、法適用により被害 戸数と災害復旧事業費総額を対比して、さらに藁 上補助がなされることになり本町の場合は、農地 96.7%・農業施設99.6%・同災害関連85.7%に決 定される見込である。

### 2. 公共土木施設災害復旧事業

(1) 激甚災害の指定に関する政令は 3 月に公布 の予定である。

上川管内美瑛・和寒の2町、全道7町3村 この指定により公共土木施設災害復旧事業国庫 負担法(昭和31年6月12日法律第148号)に定め る負担率が法適用により、災害復旧事業費の総額 と、標準税収入額とを対比して藁上げされること になり、本町は90.2%に決定される見込である。

### 3. 森林災害復旧事業

(1) 昭和56年8月21日から23日までの間の豪雨 及び暴風雨についての激甚災害の指定並びに これに対し適用すべき措置の指定に関する政 令(昭和56年10月20日政令第308号)

上川管内は美瑛・東川・上富良野・南富良野、の4町、全道2市32町村

この指定により法第11条の2の森林災害復旧事業に対する補助の規定を適用し、道が%の補助をする予定である。

## 町議会における対応

## 1. 7月7日8日の集中豪雨 による被害調査

7月13日10時30分より12時まで、藤野協成・中央・第2・水沢新生の各地区を、産業経済常任委員会所管にかかる農地・農作物の被害につき、所

管事務調査を実施した。

調查議員 議長舟木力男·常任委員長福家俊雄 副委員長馬場信夫·武内耕一·飯原茂政·中 村清毅·山崎武雄 各委員

## 8月前線と台風12号 による災害調査

1) 8月6日9時より18時まで、各常任委員会 の所管にかかる施設等の被害調査を、「所管事 務調査」として実施した。

調査地区 旭、五稜、美田・北瑛、朗根内・ 字莫別、新区画・置杵牛、美沢 2 区 調査議員 土木・農業関係の被害が多く急遽 対応の必要があったので、建設水道 産業経済の両常任委員会と、総務財 政・文教民生の両常任委員長により 実施した。

> 議長舟木力男・副議長内田一郎・ 建設水道常任委員長佐藤富男・平間 薫・高田 勇・大久保利明の各委員 産業経済常任委員長福家俊雄・武内 耕一・飯原茂政の各委員・文教民生 常任委員長石橋勇吉・総務財政常任 委員長大西弘近

- 2) 8月11日正副議長及び常任委員長会議を、 町の要請で招集し、理事者及び所管課長より 災害状況及び対策につき説明を受けた。
- 3) 9月3日議員会主催の議員研究会終了後、 14時より議員協議会を開催し、町理事者及び 総務課長・農林課長より災害被害状況と応急 対策等の経過、及び今後の対策について説明 を受けた。

### 3. 台風15号による災害の調査

11月16日総務財政常任委員会の所管にかかる町 有林の被害状況について、「所管事務調査」を実 施した。

調查議員 議長舟木力男,総務財政常任委員長 大西弘近,副委員長橘高幸男,杉本賢進,八 木美乃昭,小野 清,小口之衛,の各委員

### 4. 災害関係議決議案

### (1) 補正予算

9月より12月までの議会において、補正予算 専決承認は、一般会計2件・特別会計2件、補 正予算談決は、一般会計3件・特別会計2件で 内容については省略する。

### (2) その他の議決

- 1)昭和56年9月11日招集 第6回定例会、 農地農業用施設災害復旧事業の施行について (4地区)
  - 2) 同、災害弔慰金の支給及び災害援護資金の 貸付に関する条例の一部改正について。
  - 3)昭和56年11月9日招集 第7回臨時会 農地農業用施設災害復旧事業の施行について (4地区)
- 4)昭和56年12月16日招集 第8回定例会 農地農業用施設災害復旧事業の施行について (22地区)
- 5)昭和57年1月21日招集第1回臨時会 債務負担行為の補正(被害農業者15戸に対し 美瑛町農業協同組合が融資する資金に対する 利子補給並びに損失補償)



町議会の災害調査 (美沢19線)



(旭第4・青島地先)



(置杵牛) 8月6日

この度の災害には、各方面より有形無形のご援 助をいただき、感謝致しているところですが、次 の方よりご厚志による寄付を採納して、災害対策 に有効に役立たせていただきました。

(敬称を略させていただきます)

昭和56年8月12日 三浦建設株式会社 代表取 締役 三浦伝内 300,000千円

8月13日 美瑛ライオンズクラブ

会長 藤見栄一

50,000円

8月17日 本町商店会 136,000円

昭和56年8月21日 美瑛町農業協同組合盆踊り

爱好会

8,709円

中町商店会

20,000円

9月1日 道路建設株式会社 取締役

社長 宮崎英夫 1,000,000円

10月14日 ライオンズクラブ国際協会

331B地区ガバナー 広島迪則

ほかに、沢田栄作外9件の金品を受納

寄附金採納合計金額(9件)

1,667,709円

100,000円

## する新聞報道

## 北海914人(56.8.6朝刊)



図園237号英瑛坂下も冠水で通行止めへ

放映のため空間調行止めとなった 型りが加川市神原町大和一部市 世級省間間十三十七十七十七十九の 展各録も不適となっているため 時にどれが行の交通機がして断

の一根がわずかに接続されただけ 道道旭川一幌加内線も通行化めと なり、利用に出入り可能な幹続道 別川駅を結局とする高段野線、

口までの折り返し選帳。また、道 制で近り望なの際が進行に 路線も終席まで行けず、途中の停 北バスら江丹別一扇胡、磨雲峡ー

の二路線も相川から国文を収入り

内、北見方面への幹段が断たれた。 に通じるによう うららとつながる 第5分が期別ー第2時、関じく科観 正年、国道別号の府案映ーイト人 らば貢野経田で札幌に向かう国道 和母の育勝子的一小館別群、百日 一ているほか、誘脳別級、天人統領 入れる方的路を使った連行を続け 一近郊まで屋を延ばしている道北い 遊は東光| 六条線 (10]、10 で経水存したため、加川電気軌 スの二社は、道路や場があちごち 二番)が、東光―昭線に一部乗り て開放していた。

通

ず、駅構内は前日とは打って整ち は就な難けるため姿を見せ 一方、市内を走る旭川電気軌道



花に「いつ知れるのか」と不安な一には住めない。天災ではなく ったと、本語等に着のみるのま には、もう家に水が成れ込んでき 一双戦命令が出された午前十時

の町立族鉱小と金属等に分散して 地区の四古石五十人は、阿根区 ら続れる学 蔡川丁 R、下字 Si 水で飛蝗命令の出された。ダムか してくれなければ、もうどの土地 かった。きちんとした既理工事を 一名を助ぐ何らのまたでもしてな をいるに、雲別川にはん 続く、二年権会の天災に暗い如を 見せいた てきたのにこと、去年の命告に

年間にも、何じような水野があっ てきたという会社員ではコー また機会で水につかって飛舞し |人災だ…||怒

につかってしまった。ことしは美 タオルケットにくるまった特別

上川野内美国町製台ダムのいっ

## 

河川

はんらん避難命

令

田畑、

道路に被害甚大

(56.8.7.5月41)

で、経路にも

接張維先 一章時 政格

数元のの対

生一発展) 三〇は

美に出った。 領地区で急級活動に終い熱 在九十名が下字、英宗、 蕉 上高良野戦とん場より原員 採の出動を要請、平後三峰

は次のとおり

今道路、橋原はか

時間除るれた。

一方町投場は五日、白街

七百人に基び、四日午前八 たが、 斑丘は、百貨帯で料

選絡欠かい 八〇カ樹

類延束 即过本 概念に 小麦面供 特二二〇〇年

ğ 8 ç

たっては一番 激提した技術 町対策季解が 的具体用有 豪い、六日午 に食町全域を 名の後、激し 知わせた原見 の意用からと

である。

が年上没水 おがある機械 日後に集計を

本籍欠かい 提明欠かい 一七カ所 協能推開 医乙烷醛

五力的

10000 

一一〇月で年

美族新闻(於多多週刊)

## 農被 家災 水浸しの田畑に嘆息

はことしの意義は種類的とことの項も確かれる。いまた日本自称本に集もの権を乗われた表現地を設定表現を示求してみな。、「「「」」 から文だ、高点に続く木造のグプルパンチを受けた数質量の概像の概念は「肝火持さに作品も問題の兆しを入せ始めた疾病」とれて 道要念の心に問題類だわたって終り起いた疑問は、石谷川が保障する粉含地帯の心知はなどより、石町、上川の田郷に多文なぎ寄 九割まで冠、浸水

君学がの街がわずか。日本まもの「ろこ女長町の歴史は、米属」との「かおうあのできた思われる好笑。 間は別と言うし、平理の四カー間に対りまそにど、物質の答と |本の世代などな一門を明念知え |教に対解していた的四百八十人の でくればなった。 古の朝は、曾はるの教的

万千 から変ない。ち だらも間に記む 水山の生きだなった。 しかし、それなりなる。

数や見てもあるが、今前の要的は、一本も引きはもめ、財物組み指の第一つまが引くかが照明な、四十八時 出った。対断されていた資料も時 につかったはなったなく、が明一大まさも何ひとく、 正日は女々と特別へ向かれ、鮮水一 一川がきため、町四代のはの下 の政治などの世界したが、これを 関ってしまり 「女子」なら 「母本される

100 HE 170

7 一時を記作いあっていれば、様々 マアが投場に加密された。い

中本をなる 西部の深い 助も滋れ きような液縁だ。 ル水は物液の数で作る

この行子は、常公内田子自由 老的被告会心。山里之 おめていとすっかりありられぬ 飲るとはったかったかったころ 然のない一切が正成者、は との作品で、その前期の対分 大ない。あり夕びなってい ではなるまない。など特別だけ、 左隣の間った総対をとっとながれ お呼ばるながるお知らば、ない

の事状の勢いが呼げば、六日紀 数数数数の文字は

が出て参加で、解除語では五 これには極水量に過ずる系統性 り他は移五音。あ水が悠入。こ のサイムと記録り書き、生起に 最上の手芸術の養婦 に、下海の上角町にごお食い 目標三十二の成場を精経、同時 出来を自動機器の「火質

地方は、解析に記 の物語なる。時代的問題 際は一世の名は、この

构立するが下海を含むたのうを めた。百種は上常性野難なんは

際は、物質ない野生大人 最上海を受け続い相当開発建 7 山道學學別次的發音

◆ダム放流

**規矩が批水作業をしていた。ひざ** すっとこでの多をかませ、前 でいる。例で発は「水田でき

かは問題なった他が主 人も大修派に示かれ水師に遊鐘 争にある赤がル大化に連載。 情をはどなられにある何か さんですれて 別となる

におし、研究的はは存むす 目示地汽槽学加入被灭粮免除有 **代科学等科于一大块、山** 是以,但此中在日本 にのなるというにはない。 らな的なななで変形を 朝町南(56.8.6朝刊

|第17、中央で旭小|、東沢| ン」が終められ、ダム管理 | 超棋内||九群線両側矢をせて 地区 生粉壳 美遊校 天 現故場)、趙越区(第15% や規模な合の出たのは下字 危機下 (町炭センター) 地域は温軽に振らなかっ 下述の下字地域の状況は の異常松本「征録六千八十 の恐れがあるため下液揺民 事務所 [政川所長] は流水 黃貧子前小時、 駿台ダム

以料の発用は

マ森伊特所状、田昭松亡は 十戸近くが下字地区 中東下級水 20戸が約三

ă,

議者のあと一株以上が下字地区 六月災害を上退る規模のものとなった。

祭、盗路欠かいほか百三十カ舜。 辺難した人七買人という、 五十年 認録するなど各項用がはんらん。床上下深水穴十戸、田雄療害二干 四、五日の姿術は二世七世。数古がム越水量は毎秒一三一トンを

い用音させる

内に対策本部が終盟され、 中市街地浜川鉄工場事商所 を出した。 毎段百トン述くになり、下 並びに関係機関に出水発程 上野三年分、ダム越水が 奇、 実践教科に分散して学 兵构已贸易缺策進小、治额 **七谷線は至益、供以七十五** 

国政治員野政、国道三三

最も姿態された数台ダム一出る社た。 の欠かいの恐れがあるなめ 増水はつれて基地下で提前 戦争な野政体制がしかれた。 ゲム下液性風に避験負令が

人って被水の流しか見るぞ

一部たりに見る。 いる。水の異常な力を目の が終き飲みして流れ下って 棒柱異附近の奔流に缩本 薬師の英項用

に広がった。 ――戸が床下投入があり、 選続 は鉄道路線を超え、国道を を結えて下字第五郎落女縁 斧彼し非上四戸、丸の他会 かい、海流が下字所即地を 正年過ぎ、縁に堤防が大

シの最高を記録した。後に ダム的市は毎砂百三十一ト 25千分の設開によれば、 安を一夜を迎えた。 年後三群立下分から開係

で、昨日の出来でもは受め 田退は九曜三年発問題した ように思えるような哲学が 避難解除体育日午前長時

具作物作说

全般的に、回復 果菜類は干ばつ気味

北海了人文(水)、日、中朝刊

平毎12歳少なく、丹毘奈賀12年年一ともに帰分かなくなむより三百段 に一旦20mmを設定が開び、 野の七月十五日接行 ちもを敷的 内、平均然間は中上も〇・九周(PASISI)でおきまの実験が移じ一の産るよく状況。平田也。 百里れ 美桥(1)是广南区。由夏日七七月 | 三江田山州的天现年,以内日往之 | 11 | 河北三百年8年前年第70回 がやや統分ったものは、その後、 よると、世内では七月初かし県国一名、米崎の生物社群は「川中西安、 四種指袖状態をまためた。 本れに「空気和でが背不理が心配けれてい」 の意見なに当なるというなでとない意思などいるが、田穂明までには「皮肉な小気が期待されている」 やや主族ならればで移れ続した。 為い二、二度を記載、前間開査 | 12二十四日内壁の表れまで最近し | だが、発的が少ないたの技能する 士芸4位後、吹日明岩線されたた | 奏れている。しかし、周徳期、歴 | されてわり、刈り取りは芸芸模蔵 しかしるの一方では、陸水積が中、一直部であい動、草土、焼穀、栗食 上川を持续合同、一旦記載の費一つなため、歴史等はいくらが予は一環模式みまで前様が利込める期待 なかせいる。由北部な国境で 一工で、潜りが終れ程が少ないると、少なく、移作より一番投稿の具質 北京とういゆや不良。上川中南海一やや鳥、北部で見、上川中央第7 から統名といけ作作を背負い調金 おおりませいない 地でも は北北山百日日和ないるが 「おどうは生育は他、中国総合同様 小地段機を指符されている。 株法さ小麦は上川中内市では「

李持教させ、確認。合理国の市一なみでも年前十結第、司信副政 後や水田、畑なるが少ないため 会会開幕時子だけ、 に耐えない。学の家の問題に **小人就遊戲即會。 「昭和士 禪** 密節地などのなまに数と では属十一時四十五年に同町下 出版の無いないというない。四町 内部の中野とはは、際のようと 街は最小風に食いとめられる した。小家はかんの料理事を わらる最近は不断 ろ、 だが「決撲したらずべて料 士の水物は経生的のため、

がたが、野水体におき 位を襲形した。同日中和八時年、

此遊新聞公·○朝刊

### 1 F

īķ 菼



# 三千二百戸が断水

れなどで、他は前の三王の赤道総一三子二百日が始かしている。町は、一台柏木中をブル政的させる一方、 【巻類】集中祭園にて名土が助」於のうち三王が故図、七日朝から | 自動鉄、旭川市の支援を委けなが 完全復旧には2、3日

水、断水戸数は終節の三分の一に が入って市伯地の二千八百戸が断 町は、柏木製師を手庁を着して

目的数に影響。上出段野味と人物「プレた。柏和や虎だくは地下水石

ボールやなべ、やかんを持っ一時に切ていない

1

北海不公人(松多多夕刊

旧までには、三日かかりそう われたととなべ栃木の追い打ち。一二十四人り出リカジクを格人だ下標中基別で田畑や道路が開催に後一会、勤の箱来専一台の計十八台に、 政団作業を合いているが、第22世一の給水甲十四台。周川市の給水田 に参加をあげているが、添加品本「本物にしているが、七日年間九時

始めた。町は日本時の日日本 買人の住却に大照得な給米指数を **剪金融的、三王二百十世界、二万** 

の。一、長場殿員は対策に大わら一に立断水地域が広く、一部町長は、 「なんでどんなに本ではかされる」ラック回むを前内に非っせた。な 二台、国立著少年の家の始末由一

般がある。三日から降り始めた第一市街相を木集めに行ったり来た **合剂其大道,早刊期其末章**》。 施 美部町には、美塚上水道と、白一名状代。柏木相は、樹田野町作木 場や東神楽が本場、内ない本場と 市田地に光遊びに出てもらってい

九時たろ、太皇位と出太智に土命一で冷蔵屋がいっぱいなんで、さず このため、中和的はの意味を回ったけの行動を使って、ため水、「お り芸智はにわたって切断された。一だが、食器や仕田し附は、ありつ 水場の配金貨が土砂磨めために | 本型毎用しているで、大丈夫 終いて、後塚上志遠も七百年院一いけないので治域権に入れた。水 一等さんに対人でもちろうは明さ 一等い程下水をくると行る面前の 難以のご解のグリーニング記は

£

が、この日から、質別。変トラ 一口ならない。 まかなっているので、ほどなどの 利用などを不住のオではっている **走、野的野山、新京** 

## 部復旧

口を設けるなど、水料時は近し次収が、九日中には空間関連する見込み 何したのが原因。同時は自治域の一おり、八日をには一部地域で復用。

【生成】大田の佐着で周島町内」あまれしかついた。 

昭本しているが、同時では毎日対「和地民間対水量で、自むまる。年一大総體に生活が深入、取水目が起 昭本したのは同町上出記と、平

の上のにあたる法院が七日間から

等し治力を急げており、単ければ | 管土市が同場球上部四野様を入地 | 全名を話せったためで、哺見本道 八日かりには一部の地域で原因す。「作りの拍索用・八台から末の供給」は道路が提送、地中の水道管が頂 問題の個々によると、上来記は

たれ、町は沙須郡上北京計画の総 り、全町的な断帯しなった。この 間制水、環境出路設が影響で、原連 市都後接町で七四時、土土田、 「利用」が日本地に対すりなり 突球で全町断水 自治域が結ぶ作数

市情な表現様と大幅に出

號克新闻 (56.8.8朝刊)

に思るのに自由間を記する。 でき、出来信に主義が除人して日

事故で、何時以の意識など問題十 水道の配水質が約世時にわたって 上語民野帝質問の参採斯平和開島

工む樹坡のため切断された。この

孤断上水道はオヤウンナイ川を 一時本。また前町平川町町水田は六 一つまちゃなと、三年八日は世が 動員は制で柏州にあたっている。 一年の、ポリスケツ、前側も、母 川市を近回町村にも応じを使め 人、不同差別工人、松田は思 で、マチの形がの一部新水した。 大群、万里大型王大 不能となった。同時は四手を買っ 百分が収入り、四百十四円が日本 自然的であ、お何なの苦 町長たちは、「大局でうんざり 的词是最近十八人、明显白八十

## 収穫期にぶつかる

一」よびっくなしている。 た気机じんざは水がないとは

五時現代、上用サゲ頃へ)にわた。例状して赤丘はった小麦を見なが。夏別第三届民などの一帯が昨上段 物一方五子三百六十〇(六日年後)か刈り取られておらず、縁風附で は、本質九千八百八十五年、畑作一〇ち、上市復居では〇上1〇〇七 作物に大きな被害を出した。 つてお水、豆木、酢生まるを食 ある語を発した上川春内で一名はかけ、上川北を住る一四 各地で五十年八月の大り合同以一八〇の段間の河り取りが済んでい の物質は例外の明 上類段對町東中地区は五十年後一

中化をなっている意味町では、 息をいていた。

本する船舶の数的金形となっ 大木 日になってペペツ川が決壊、下学

北陽では土物市高根別県区、和本一豆街州の原家が将客に違った。東一 をぶつかった民主き小麦は、周川 | 根が約五十分にわたって 夜 され 中でも一番競技が大きく木崎町 中二、広野街を含むなる にベベルイ川が投換し、約地区十 作っているほかはだいたい小具 ってはまのつけるがない」と地 引き行む これはあれた た的は「どの地区は一部で大幅を 士がなどの後に付けに忙しい意民 が行いた大日朝から根地の版本、

市をほじめ上川中総合地でも〇十一た。 模田作業をしながら「腰まで一方に暮れていた。(旭川)

**周野町、茶場町在と、刈り取り期** 町の経験、上山中総のでは上台

特に被害の大きかったのは上川

長も、水枝しの水田に大きなため 技術視察した状体で使一上面客 野が地方で、上間が断分を め、飲水に加えて土砂が収入した 茶類。本質も開発期度見らっただ のは就出以がずま野 権には否ないと思言的問 おくころ志能が入っただける。 たんだって、変けを良い きが小家の利り入れをしていなか た。これを表情がたったので が明の特は今後の生育に大きな配 った。自小老を対してないよ 直段で由他は名なぬされ 小変のはか、特に被害的などに

小き、ピート、小豆ない様はか 北海外人人(56.8.6朝刊)

## 一千二百戸断水

## \*\* 自衛隊に出動求める

【養婦】上用質内養福町で六日】。また、七日中的な時から、奈属」る水道で震災が終時に低水系統と

一町上次道の支腕、オヤウシナイ川一なったわけで、時町の主好の一、

北海94以 (56.8.8朝刊)

問題は、周川市在でに紹示国の出

九、町は古前、南岸を世、 旧まって自はどかかるものとある 三十一百月が断でなった。町は 鉄路、間野の均三分の一に掛ちる一 派性、下前内のこうのを注意が びから七日朝にかけて、気仰の、後

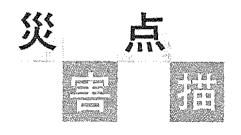
関目作業を無いでいるが、完全規

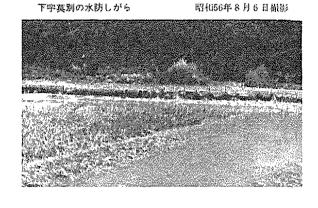
動が設語した

六日午後九時過ぎ 間町等級

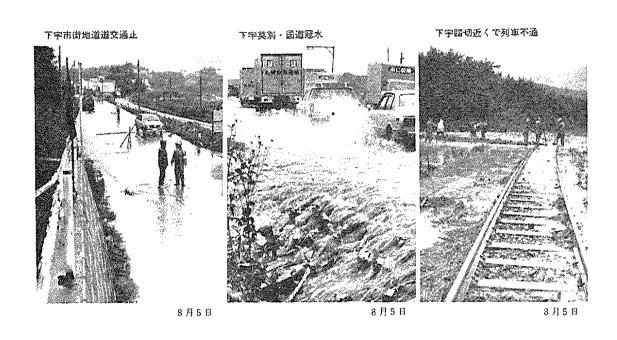
一般水ができなくなった。 町内にあ | ろ為不能とこり、一年八百月への からの田本尊に主命が入り込み、 会学上留好が明示するという問題 た即限を迎えた。 の、パイパス・ケ語質、また、本 だがたちの時間がかかりもう。 名を続けているが、 商品は多 印制具を単には砂断部分の専用に すり上度の音楽で変きる 町に高いて、オイジ 町の豊田にこれまて、四番版上

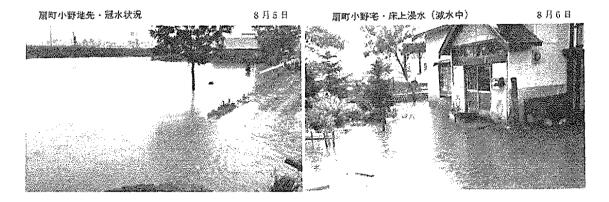
を用意し、住民への給水を続けて らに一干に入りボリタンされ行動 加川市から船水車二谷が出動、さ 高良野原電地から給水地七四日、



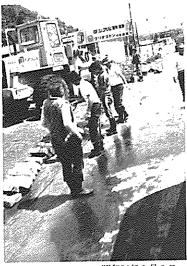


### ~水害と風害と~



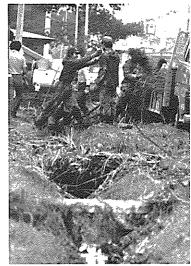


下宇市街地・跡片付



昭和56年8月6日

下字市街地・ゴミ捨て



8月6日

下宇朝日用水路に堆積した土砂流水

8月6日

下字朝日の土砂流木除去作業

8月6日





下字朝日・総出の後片付け

8月7日



道議会・農務委員に説明する町長

8月11日







給水作業を終り報告する120大隊長……………8 月8日 ………町長・支援作業が終り120大隊に湖辞





台風で俵真布スイートコーン倒伏

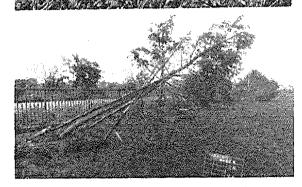


8月23日



撤収の自衛隊を見送る

8月8日15時30分



台風で丸山公園樹倒れる

8月24日攝影

白金野鳥の森・風倒木で交通止

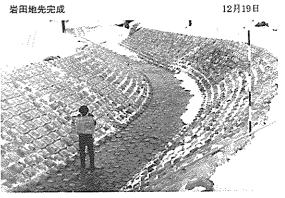
8月23日

## 進む復旧工事

### ~被災より完成まで~





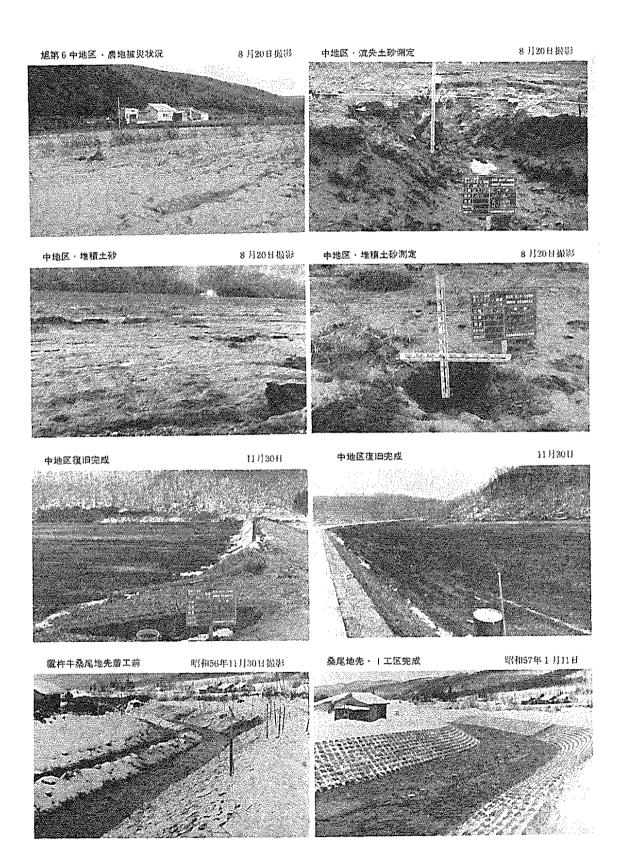


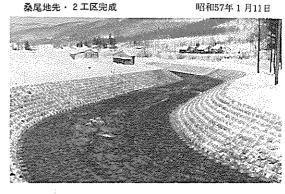






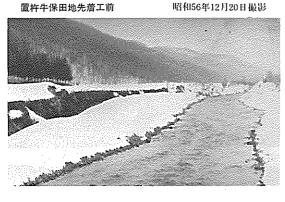








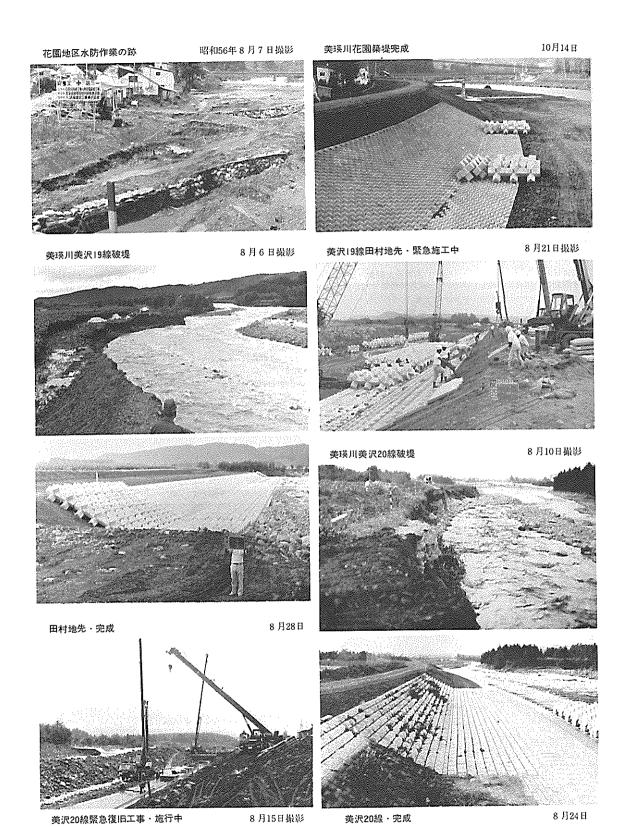












俵真布水道施設復旧作業

昭和56年8月7日

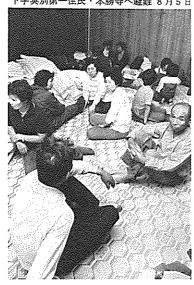
大町 4 丁目奏瑛農協倉庫・防水作業







下字莫別第一住民・本勝寺へ避難 8月5日





下字莫別住民・美進小へ避難

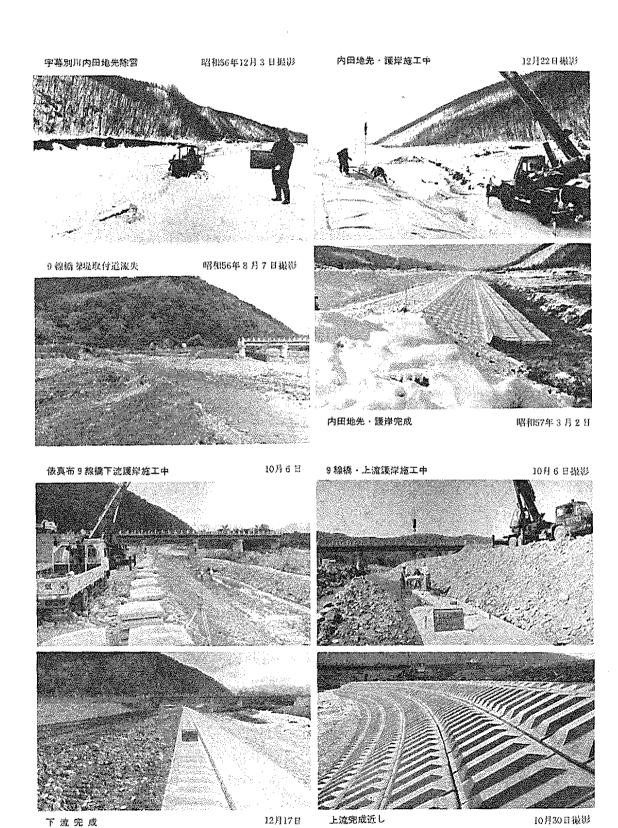
8月5日

下字ではダンプトラックも避難

8月5日









### ■後 記■

この記録は、災害の発生にはじまり、昭和57年2月末までのものとなりました。 資料その他につきまして、関係各位のご協力を戴きできあがりましたが、まとめの拙さから重複、又は省略しすぎ、また日時・数字の合わないもの、或は間違いもあると思います。時間の都合等もありご了承を賜りたく存じます。

昭和57年3月16日記

-昭和56年8月—

## 豪雨. 暴風心記錄

昭和57年3月22日 印刷 昭和57年3月23日 発行

北海道上川郡美瑛町本町4丁目6番1号

発行・

美

瑛

HŢ